

スコトヲ得

第四百八條 保險者ノ責任カ始マル前ニ於テ保險契約者又ハ被保險者ノ行爲ニ因ラスシテ保險ノ目的ノ全部又ハ一部ニ付キ保險者ノ負擔ニ歸スヘキ危險カ生セサルニ至リタルトキハ保險者ハ保險料ノ全部又ハ一部ヲ返還スルコトヲ要ス

第四百九條 前二條ノ場合ニ於テハ保險者ハ其返還スヘキ保險料ノ半額ニ相當スル金額ヲ請求スルコトヲ得

第四百十條 保險期間中危險カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ著シク變更又ハ増加シタルトキハ保險者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス

第四百十一條 保險期間中危險カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ著シク變更又ハ増加シタルトキハ保險者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス

第三百九十一條 規定ハ前項但書ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百十五條 保險ノ目的ノ全部カ滅失シタル場合ニ於テ保險者カ保險金額ノ全部ヲ支拂ヒタルトキハ被保險者カ其目的ニ付キ有セル權利ヲ取得ス但保險金額ノ一部ヲ支拂ヒタル場合ニ於テハ保險者ノ權利ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム

第四百十六條 損害カ第三者ノ行爲ニ因リテ生シタル場合ニ於テ保險者カ被保險者ニ對シ其負擔額ヲ支拂ヒタルトキハ其支拂ヒタル金額ノ限度ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ第三者ニ對シテ有セル權利ヲ取得ス

保險者カ被保險者ニ對シ其負擔額ノ一部ヲ支拂ヒタルトキハ保險契約者又ハ被保險者ノ權利ヲ害セサル範圍内ニ於テノミ前項ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得

第四百十七條 保險金額支拂ノ義務及ヒ保險料返還ノ義務ハ二年保險料支拂ノ義務ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス(改正同上)

第四百十八條 本節ノ規定ハ相互保險ニ之ヲ準

五百五十八

トヲ要ス若シ其通知ヲ怠リタルトキハ保險者ハ危險ノ變更又ハ増加ノ時ヨリ保險契約カ其效力ヲ失ヒタルモノト看做スコトヲ得

第四百十二條 保險者ノ負擔シタル危險ノ發生ニ因リテ損害カ生シタル場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ其損害ノ生シタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四百十三條 保險ノ目的ニ付キ保險者ノ負擔スヘキ損害カ生シタルトキハ其後ニ至リ其目的カ保險者ノ負擔セサル危險ノ發生ニ因リテ滅失シタルトキト雖モ保險者ハ其損害ヲ填補スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

第四百十四條 被保險者ハ損害ノ防止ヲ力ムルコトヲ要ス但之カ爲メニ必要又ハ有益ナリシ費用及ヒ填補額カ保險金額ニ超過スルトキト雖モ保險者之ヲ負擔ス

用ス但其性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

第二款 火災保險

第四百十九條 火災ニ因リテ生シタル損害ハ其火災ノ原因如何ヲ問ハズ保險者之ヲ填補スル責ニ任ス但第三百九十五條及ヒ第三百九十六條ノ場合ハ此限ニ在ラス

第四百二十條 消防又ハ避難ニ必要ナル處分ニ因リ保險ノ目的ニ付キ生シタル損害ハ保險者之ヲ填補スル責ニ任ス

第四百二十一條 賃借人其他他人ノ物ヲ保管スル者カ其支拂フコトアルヘキ損害賠償ノ爲メ其物ヲ保險ニ付シタルトキハ所有者ハ保險者ニ對シテ直接ニ其損害ノ填補ヲ請求スルコトヲ得

第四百二十二條 火災保險證券ニハ第四百三條第二項ニ掲ゲタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 保險ニ付シタル建物ノ所在、構造及ヒ用方
- 二 動産ヲ保險ニ付シタルトキハ之ヲ納ルル建物ノ所在、構造及ヒ用方

五百五十九

第三款 運送保險

第四百二十三條 保險者ハ特約ナキトキハ運送人カ運送品ヲ受取リタル時ヨリ之ヲ荷受人ニ引渡ス時マテニ生スルコトアルヘキ損害ヲ填補スル責ニ任ス

第四百二十四條 運送品ノ保險ニ付テハ發送ノ地及ヒ時ニ於ケル其價額及ヒ到達地マテノ運送費其他ノ費用ヲ以テ保險價額トス

第四百二十五條 運送保險證券ニハ第四百三條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 運送ノ道筋及ヒ方法
 - 二 運送人ノ氏名又ハ商號
 - 三 運送品ノ受取及ヒ引渡ノ場所
 - 四 運送期間ノ定アルトキハ其期間
- 第四百二十六條 保險契約ハ特約アルニ非サレハ運送上ノ必要ニ因リ一時運送ヲ中止シ又ハ運送ノ道筋若クハ方法ヲ變更シタルトキト雖モ其效力ヲ失ハス

第二節 生命保險

五百六十

第四百二十七條 生命保險契約ハ當事者ノ一方カ相手方又ハ第三者ノ生死ニ關シ一定ノ金額ヲ支拂フヘキコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百二十八條 他人ノ死亡ニ因リテ保險金額ノ支拂ヲ爲スヘキコトヲ定ムル保險契約ニハ其者ノ同意アルコトヲ要ス但被保險者カ保險金額ヲ受取ルヘキ者ナルトキハ此限ニ在ラス(同上)

前項ノ保險契約ニ因リテ生シタル權利ノ讓渡ニハ被保險者ノ同意アルコトヲ要ス(同上) 保險契約者カ被保險者ナル場合ニ於テ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ其權利ヲ讓渡ストキ又ハ第一項但書ノ場合ニ於テ權利ヲ讓受ケタル者カ更ニ之ヲ讓渡ストキ亦同シ(同上)

第四百二十八條ノ二 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ第三者ナルトキハ其第三者ハ當然保險契約ノ利益ヲ享受ス但保險契約者カ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ(追加同上) 前項但書ノ規定ニ依リ保險契約者カ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ指定又ハ變更スル權利ヲ有スル場合ニ於テ其權利ヲ行ハスシテ死亡シタル

ルトキハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ權利ハ之ニ因リテ確定ス(同上)

第四百二十八條ノ三 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ被保險者ニ非サル第三者ナル場合ニ於テ其者カ死亡シタルトキハ保險契約者ハ更ニ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ指定スルコトヲ得(同上)

保險契約者カ前項ニ定メタル權利ヲ行ハスシテ死亡シタルトキハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ相續人ヲ以テ保險金額ヲ受取ルヘキ者トス(同上)

第四百二十八條ノ四 保險契約者カ契約後保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ指定又ハ變更シタルトキハ保險者ニ其指定又ハ變更ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ保險者ニ對抗スルコトヲ得ス(同上)

第四百二十八條第一項ノ規定ハ前項ノ指定及ヒ變更ニ之ヲ準用ス(同上)

第四百二十九條 保險契約ノ當時保險契約者又ハ被保險者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキハ保險者ハ契約ノ解

除テ爲スコトヲ得但保險者カ其事實ヲ知ラズハ過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキハ此限ニ在ラス(改正同上)

第三百九十九條ノ二第二項及ヒ第三百九十九條ノ三ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス(同上)

第四百三十條 生命保險證券ニハ第四百三條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 保險契約ノ種類
- 二 被保險者ノ氏名
- 三 保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ定メタルトキハ其者ノ氏名(同上)

第四百三十一條 左ノ場合ニ於テハ保險者ハ保險金額ヲ支拂フ責ニ任セス

- 一 被保險者カ自殺、決闘其他ノ犯罪又ハ死刑ノ執行ニ因リテ死亡シタルトキ
- 二 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ故意ニテ被保險者ヲ死ニ致シタルトキ但其他者カ保險金額ノ一部ヲ受取ルヘキ場合ニ於テハ保險者ハ其殘額ヲ支拂フ責ヲ免ルルコトヲ得ス
- 三 保險契約者カ故意ニテ被保險者ヲ死ニ致

シタルトキ 追加同上)

前項第一號及第二號ノ場合ニ於テハ保險者ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ保險契約者ニ拂戻スコトヲ要ス(改正同上)

第四百三十二條 保險契約者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ被保險者ノ死亡シタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四百三十三條 被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ拂戻ス義務ハ二年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス(追加同上)

第四百三十四條 第三百九十五條、第三百九十七條、第三百九十九條、第四百一條、第四百三條第一項、第四百五條乃至第四百七條、第四百十條、第四百十一條、第四百十七條及第四百十八條ノ規定ハ生命保險ニ之ヲ準用ス(改正同上)

第三百九十五條、第四百五條、第四百七條、第四百十條及第四百十一條ノ場合ニ於テ保險者カ保險金額ヲ支拂フコトヲ要セサルトキハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ保險契約者ニ拂戻スコトヲ要ス(同上)

第四百四十條 手形ノ債務者ハ本編ニ規定ナキ事由ヲ以テ手形上ノ請求ヲ爲ス者ニ對抗スルコトヲ得ス但直接ニ之ヲ對抗スルコトヲ得ヘキ事由ハ此限ニ在ラス

第四百四十一條 何人ト雖モ惡意又ハ重大ナル過失ナクシテ手形ヲ取得シタル者ニ對シ其手形ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第四百四十二條 手形ノ引受又ハ支拂ヲ求ムル爲メニスル呈示、拒絕證書ノ作成其他手形上ノ權利ノ行使又ハ保全ニ付キ利害關係人ニ對シテ爲スヘキ行爲ハ其營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所又ハ居所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但其者ノ承諾アルトキハ他ノ場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ妨ケス

利害關係人ノ營業所、住所又ハ居所カ知レサルトキハ拒絕證書ヲ作ルヘキ公證人又ハ執達吏ハ其地ノ官署又ハ公署ニ間合ヲ爲スコトヲ要ス若シ間合ヲ爲スモ營業所、住所又ハ居所カ知レサルトキハ其役場又ハ官署若クハ公署ニ於テ拒絕證書ヲ作ルコトヲ得

第四百四十三條 引受人又ハ約束手形ノ振出人ニ對スル債權ハ滿期日ヨリ三年所持人ノ其前

第四編 手形

第一章 總則

第四百三十四條 本法ニ於テ手形トハ爲替手形、約束手形及ヒ小切手ヲ謂フ

第四百三十五條 手形ニ署名シタル者ハ其手形ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第四百三十六條 代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ記載セスシテ手形ニ署名シタルトキハ本人ハ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ

第四百三十七條 偽造又ハ變造シタル手形ニ署名シタル者ハ其偽造又ハ變造シタル手形ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

變造シタル手形ニ署名シタル者ハ變造前ニ署名シタルモノト推定ス

偽造者、變造者及ヒ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ偽造又ハ變造シタル手形ヲ取得シタル者ハ手形上ノ權利ヲ有セス

第四百三十八條 無能力者カ手形ヨリ生シタル債務ヲ取消シタルトキト雖モ他ノ手形上ノ權利義務ニ影響ヲ及ボサス

第四百三十九條 本編ニ規定ナキ事項ハ之手形ニ記載スルモノ手形上ノ效力ヲ生セス

者ニ對スル償還請求權ハ支拂拒絕證書作成ノ日ヨリ一年裏書人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ償還ヲ爲シタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス(同上)

第四百四十四條 手形ヨリ生シタル債權カ時効又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ消滅シタルトキト雖モ所持人ハ振出人又ハ引受人ニ對シ其受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二章 爲替手形

第一節 振出

第四百四十五條 爲替手形ニハ左ノ事項ヲ記載シ振出人之署名スルコトヲ要ス

- 一 其爲替手形タルコトヲ示スヘキ文字
- 二 一定ノ金額
- 三 支拂人ノ氏名又ハ商號
- 四 受取人ノ氏名又ハ商號
- 五 單純ナル支拂ノ委託
- 六 振出ノ年月日
- 七 一定ノ滿期日
- 八 支拂地

第四百四十六條 爲替手形ノ主タル部分ニ記載

シタル金額カ他ノ部分ニ記載シタル金額ト異ナルトキハ主タル部分ニ記載シタル金額ヲ以テ手形金額トス

第四百四十七條 振出人ハ自己ヲ受取人又ハ支拂人ト定ムルコトヲ得

第四百四十八條 振出人ハ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケル豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得

第四百四十九條 爲替手形ハ其金額三十圓以上ノモノニ限リ之ヲ無記名式ト爲スコトヲ得

第四百四十九條ノ二 振出人ハ爲替手形ニ受取人ノ氏名又ハ商號ト共ニ其爲替手形ノ所持人カ支拂ヲ受タルコトヲ得ヘキ旨ヲ記載スルコトヲ得(追加同上)

前項ノ爲替手形ハ無記名式ノモノト同一ノ效力ヲ有ス(同上)

第四百四十九條ノ三 第四百四十九條ノ規定ハ前條第一項ニ定メタル爲替手形ニ之ヲ準用ス(同上)

第四百五十條 満期日ハ左ニ掲ケタル種類ノ一タルコトヲ要ス

一 確定セル日

二 日附後確定セル期間ヲ經過シタル日

三 一覽ノ日

四 一覽後確定セル期間ヲ經過シタル日

第四百五十一條 振出人カ爲替手形ニ満期日ヲ記載セザリシトキハ一覽ノ日ヲ以テ其爲替手形ノ満期日トス

第四百五十二條 振出人カ爲替手形ニ支拂地ヲ記載セザリシトキハ支拂人ノ氏名又ハ商號ヲ附記シタル地ヲ以テ其支拂地トス(改正同上)

第四百五十二條ノ二 支拂人ノ氏名又ハ商號ニ附記シタル地ハ之ヲ其營業所又ハ住所ノ所在地ト看做ス(追加同上)

第四百五十三條 振出人ハ支拂人ニ非サル者ヲ以テ支拂擔當者トシテ爲替手形ニ記載スルコトヲ得(改正同上)

第四百五十四條 振出人ハ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ記載スルコトヲ得

第二節 裏書

第四百五十五條 爲替手形ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得但振出人カ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百五十六條 振出人、引受人又ハ裏書人カ

裏書ニ依リテ爲替手形ヲ讓受ケタルトキハ更ニ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得

第四百五十七條 裏書ハ爲替手形、其謄本又ハ補箋ニ被裏書人ノ氏名又ハ商號及ヒ裏書ノ年月日ヲ記載シ裏書人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス

裏書ハ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ爾後爲替手形ハ引渡ノミニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得

第四百五十八條 裏書人ハ裏書ヲ爲スニ當タリ支拂地ニ於ケル豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得

第四百五十九條 裏書人ハ裏書ヲ爲スニ當タリ手形上ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ記載スルコトヲ得

第四百六十條 裏書人カ裏書ヲ爲スニ當タリ爾後裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ其裏書人ハ被裏書人ノ後者ニ對シテ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ

第四百六十一條 裏書人カ其署名ノミヲ以テ裏書ヲ爲シタルトキハ所持人ハ自己ヲ其被裏書人ト爲スコトヲ得

第四百六十二條 支拂拒絶證書作成ノ期間經過ノ後所持人カ裏書ヲ爲シタルトキハ被裏書人ハ裏書人ノ有シタル權利ノミヲ取得ス此場合ニ於テハ其裏書人ハ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ

第四百六十三條 所持人ハ裏書ニ依リテ爲替手形ノ取立ヲ委任スルコトヲ得此場合ニ於テハ裏書ニ其目的ヲ附記スルコトヲ要ス(同上)

前項ノ場合ニ於テ被裏書人ハ同一ノ目的ヲ以テ更ニ裏書ヲ爲スコトヲ得

第四百六十四條 裏書アル爲替手形ノ所持人ハ其裏書カ連續スルニ非サレハ其權利ヲ行フコトヲ得ス但署名ノミヲ以テ爲シタル裏書アルトキハ次ノ裏書人ハ其裏書ニ因リテ爲替手形ヲ取得シタルモノト看做ス

抹消シタル裏書ハ裏書ノ連續ニ付テハ其記載ナキモノト看做ス(追加同上)

第三節 引受

第四百六十五條 所持人ハ何時ニテモ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シテ其引受ヲ求ムルコトヲ得

第四百六十六條 一覽後定期拂ノ爲替手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年內ニ爲替手形ヲ支拂人

ニ呈示シテ其引受ヲ求ムルコトヲ要ス但振出人ハ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得所持人カ拒絶證書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百六十七條 所持人カ一覽後定期拂ノ爲替手形ヲ呈示シタル場合ニ於テ支拂人カ其引受ヲ爲サス又ハ引受ノ日附ヲ爲替手形ニ記載セサリシトキハ所持人ハ呈示期間内ニ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ其拒絶證書作成ノ日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス所持人カ拒絶證書ヲ作ラシメサリシトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百六十八條 引受ハ爲替手形ニ其旨ヲ記載シ支拂人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス
第四百六十九條 支拂人ハ手形金額ノ一部ニ付キ引受ヲ爲スコトヲ得

第四百七十三條 支拂人ハ引受ヲ爲スニ當タリ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ記載スルコトヲ得

第四百七十四條 支拂人カ爲替手形ノ引受ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其前者ニ對シ手形金額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得

第四百七十五條 爲替手形ノ所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ引受拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス(同上)

第四百七十六條 擔保ノ請求ヲ受ケタル裏書人ハ其前者ニ對シ其擔保スヘキ金額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得(同上)

第四百七十七條 前三條ノ規定ニ依リテ擔保ノ請求ヲ受ケタル者ハ遲滞ナク引受拒絶證書ト引換ニ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス但擔保ニ代ヘテ相當ノ金額ヲ供託スルコトヲ得
第四百七十八條 前者カ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ

五百六十六

前項ノ場合ヲ除ク外支拂人カ爲替手形ノ單純ナル引受ヲ爲ササリシトキハ其引受ヲ拒絶シタルモノト看做ス但引受人ハ其引受ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第四百七十條 支拂人ハ爲替手形ノ引受ニ因リ滿期日ニ於テ其引受ケタル金額ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第四百七十一條 引受人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシ場合ニ於テ其所持人又ハ償還ヲ爲シタル裏書人若クハ振出人ニ對シテ支拂フヘキ金額ハ第四百九十一條又ハ第四百九十二條ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム

第四百七十二條 振出人カ爲替手形ニ支拂擔當者ヲ記載セサリシトキハ支拂人ハ其引受ヲ爲スニ當タリ之ヲ記載スルコトヲ得若シ支拂人カ之ヲ記載セサリシトキハ支拂地ニ於テ自ラ支拂ヲ爲ス責ニ任ス(改正同上)
前項ノ場合ニ於テ振出人ハ爲替手形ニ其引受ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スヘキ旨ヲ記載スルコトヲ得此場合ニ於テ所持人カ拒絶證書ニ依リ其呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

爲シタルトキハ其後者全員ノ爲メ且其後者全員ニ對シテ之ヲ爲シタルモノト看做ス(第二項削除同上)

第四百七十九條 左ノ場合ニ於テハ第四百七十七條ノ規定ニ依リテ供シタル擔保ハ其效力ヲ失ヒ又供託シタル金額ハ之ヲ取戻スコトヲ得
一 後日ニ至リ爲替手形ノ單純ナル引受アリタルトキ
二 手形金額及ヒ費用ノ支拂アリタルトキ
三 擔保ヲ供シ若クハ供託ヲ爲シタル者又ハ其前者カ償還ヲ爲シタルトキ
四 手形上ノ權利カ時効又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ消滅シタルトキ
五 擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタル者カ滿期日ヨリ一年内ニ償還ノ請求ヲ受ケサリシトキ

第四百八十條 引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ相當ノ擔保ヲ供セサルトキハ所持人ハ豫備支拂人ノ引受ヲ求ムルコトヲ得但拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス(改正同上)
豫備支拂人ナキトキ又ハ豫備支拂人カ單純ナル引受ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其前者ニ

五百六十七

五百六十八

拂ヲ受ケタル旨ヲ記載セシメ且之ニ署名セシ

ムルコトヲ得

第四百八十四條 手形金額ノ全部ニ付キ引受アリタルキト雖モ所持人ハ其一部ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得ス

一部ノ支拂アリタルドキハ所持人ハ其旨ヲ爲替手形ニ記載シ且其寫本ヲ作り署名ノ後之ヲ交付スルコトヲ要ス(同上)

第四百八十五條 爲替手形ノ支拂ノ請求ナキトキハ引受人ハ支拂拒絶證書作成ノ期間經過ノ後手形金額ヲ供託シテ其債務ヲ免ルルコトヲ得

第六節 償還ノ請求

第四百八十六條 支拂人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百八十七條 所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ滿期日又ハ其後二日內ニ支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シ、若シ手形金額ノ支拂ナキトキハ同一期間內ニ支拂拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス但此期間ニハ休日ヲ算入セス(同上)

對シテ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ第四百七十四條乃至第四百七十八條ノ規定ヲ準用ス

第四百八十一條 左ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ニ依リテ供シタル擔保ハ其效力ヲ失ヒ又供託シタル金額ハ之ヲ取戻スコトヲ得
一 豫備支拂人カ後日ニ至リ單純ナル引受ヲ爲シタルトキ
二 引受人カ後日ニ至リ相當ノ擔保ヲ供シタルトキ
三 第四百七十九條第二號乃至第五號ノ場合

第五節 支拂

第四百八十二條 一覽拂ノ爲替手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年內ニ爲替手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ要ス但振出人ハ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得

所持人カ拒絶證書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百八十三條 支拂ハ爲替手形ト引換ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ要セス
支拂ヲ爲ス者ハ所持人ヲシテ爲替手形ニ其支

所持人カ前項ニ定メタル手續ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百八十七條ノ二 前條第一項ノ場合ニ於テハ所持人ハ其直接ノ前者ニ對シテ拒絶證書作成ノ日又ハ其後二日內ニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス(追加同上)

第四百八十八條 裏書人カ其後者ヨリ償還請求ノ通知ヲ受ケタルトキハ其直接ノ前者ニ對シテ通知ヲ發スルコトヲ要ス(改正同上)

第四百八十八條ノ二 所持人又ハ裏書人カ其直接ノ前者ニ非サル前者ニ對シテ償還請求ノ通知ヲ發シタルトキハ其後者ニ對シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任シ且利息及ヒ費用ノ償還ヲ請求スル權利ヲ失フ(追加同上)

所持人又ハ裏書人カ其前者ノ何レニ對シテモ通知ヲ發セサリシトキハ其前者全員ニ對スル權利義務ニ付キ前項ノ規定ヲ準用ス(同上)

第四百八十八條ノ三 裏書人カ裏書ヲ爲スニ當タリ裏書地ヲ記載セサリシトキハ償還請求ノ通知ハ其直接ノ前者ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ

要ス(同上)

前條ノ規定ハ裏書地ヲ記載セサリシ裏書人ニ對スル權利義務ニハ之ヲ適用セス振出人カ振出地ヲ記載セサリシトキ亦同シ(同上)

第四百八十八條ノ四 所持人又ハ裏書人カ其前者ニ對シ第四百八十七條ノ二又ハ第四百八十八條ノ期間內ニ書面ヲ發送シタル事實アルトキハ其事實ニ付キ通信官署又ハ公衆通信取扱所ノ證アル場合ニ限り其書面ハ之ヲ償還請求ノ通知書ト推定ス(同上)

第四百八十九條 爲替手形ノ所持人ハ支拂拒絶證書ヲ作ラシメサリシトキト雖モ其作成ヲ免除シタル者ニ對シテハ手形上ノ權利ヲ失フコトナシ

所持人カ支拂拒絶證書ヲ作ラシメタルトキハ其作成ヲ免除シタル者ト雖モ其費用ヲ償還スル義務ヲ免ルルコトヲ得ス

第四百八十九條ノ二 支拂拒絶證書ノ作成ヲ免除シタル者ニ對シテハ所持人ハ支拂拒絶證書作成ノ期間內ニ支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ呈示シタルモノト推定ス(同上)

第五百六十九

第四百九十條 所持人カ償還ノ請求ヲ爲サント

欲スルトキハ支拂擔當者ニ、若シ爲替手形ニ支拂擔當者ノ記載ナキトキハ支拂地ニ於テ支拂人ニ爲替手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ要ス此場合ニ於テ支拂擔當者又ハ支拂人カ支拂ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ支拂地ニ於テ第四百八十七條第一項ノ規定ニ從ヒ支拂拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス(改正同上)

爲替手形ニ支拂擔當者ノ記載アル場合ニ於テ所持人カ前項ニ定メタル手續ヲ爲ササリシトキハ引受人ニ對シテモ手形上ノ權利ヲ失フ

第四百九十一條 爲替手形ノ所持人ハ左ノ金額ニ付キ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

一 支拂アラサリシ手形金額及ヒ滿期日以後ノ法定利息

二 拒絶證書作成ノ手数料其他ノ費用

前項ノ金額ハ償還ノ請求ヲ受クル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地カ支拂地ト異ナル場合ニ於テハ支拂地ヨリ償還ノ請求ヲ受クル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ宛テ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依リテ之ヲ計算ス若シ支拂地ニ於テ其相場ナキトキハ償還ノ請求ヲ受クル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ最モ近キ

地ニ宛テ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依ル(同上)

第四百九十二條 償還ノ請求ヲ受ケタル裏書人ハ左ノ金額ニ付キ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

一 其支拂ヒタル金額及ヒ支拂ノ日以後ノ法定利息

二 其支出シタル費用

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百九十三條 爲替手形ノ所持人又ハ裏書人ハ償還ノ請求ヲ爲ス爲メ其前者ヲ支拂人トシテ更ニ爲替手形ヲ振出スコトヲ得

第四百九十四條 所持人又ハ裏書人カ前條ノ規定ニ依リテ振出ス爲替手形ハ償還ノ請求ヲ受ケル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ヲ以テ其支拂地ト定メタル一覽拂ノモノタルコトヲ要ス(改正同上)

所持人カ振出ス爲替手形ニハ本爲替手形ノ支拂地ヲ以テ振出地ト定メ裏書人カ振出ス爲替手形ニハ其營業所又ハ住所ノ所在地ヲ以テ振出地ト定ムルコトヲ要ス(同上)

第四百九十五條 償還ハ爲替手形、支拂拒絶證書及ヒ償還計算書ト引換ニ非サレハ之ヲ爲ス

コトヲ要セス

償還ヲ爲ス者ハ之ヲ受クル者ヲシテ償還計算書ニ償還ヲ受ケタル旨ヲ記載セシメ且之ニ署名セシムルコトヲ得

第四百九十六條 (削除同上)

第七節 保證

第四百九十七條 爲替手形ヨリ生シタル債務ヲ保證スル爲メ爲替手形、其謄本又ハ補箋ニ署名シタル者ハ其債務カ無効ナルトキト雖モ主タル債務者ト同一ノ責任ヲ負フ

第四百九十八條 何人ノ爲メニ保證ヲ爲シタルカ分明ナラサルトキハ其保證ハ引受人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス但未タ引受アラサリシトキハ振出人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第四百九十九條 保證人カ其債務ヲ履行シタルトキハ所持人カ主タル債務者ニ對シテ有セシ權利及ヒ主タル債務者カ其前者ニ對シテ有スヘキ權利ヲ取得ス

第八節 參加

第一款 參加引受

第五百條 爲替手形ノ所持人カ引受拒絶證書ヲ

作ラシメタル場合ニ於テ豫備支拂人アルトキハ其豫備支拂人ニ引受ヲ求メタル後ニ非サレハ其ノ前者ニ對シテ擔保ヲ請求スルコトヲ得

豫備支拂人カ引受ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其旨ヲ引受拒絶證書ニ記載セシムルコトヲ要ス

第五百一條 爲替手形ノ所持人ハ豫備支拂人ニ非サル者ノ參加引受ヲ拒ムコトヲ得

第五百二條 參加引受ヲ爲サントスル者數人アルトキハ所持人ハ其選擇ニ從ヒ其一人ヲ引受ニ爲サシムルコトヲ得

第五百三條 參加引受ハ爲替手形ニ其旨ヲ記載シ參加引受人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス

第五百四條 所持人ハ引受拒絶證書ニ參加引受アリタル旨ヲ記載セシメ且其證書作成ノ費用ノ支拂ト引換ニ之ヲ參加引受人ニ交付スルコトヲ要ス

第五百五條 參加引受人ハ遲滞ナク前項ノ拒絶證書ヲ被參

加引受人ハ遲滞ナク前項ノ拒絶證書ヲ被參

トチ要ス

トチ要ス

トチ要ス

トチ要ス

トチ要ス

加人ニ送付スルコトヲ要ス

第五百五條 參加引受人ハ支拂人カ手形金額ノ支拂ヲ爲ササル場合ニ於テ被參加人ノ後者ニ對シ支拂アラサリシ手形金額及ヒ費用ヲ支拂フ義務ヲ負フ但所持人カ支拂拒絕證書作成ノ期間内ニ支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ參加引受人ニ呈示セサルトキハ參加引受人ハ其義務ヲ免ル(改正同上)

第五百六條 爲替手形ノ所持人其他被參加人ノ後者ハ參加引受ニ因リテ擔保ヲ請求スル權利ヲ失フ

第五百七條 被參加人ハ其前者ニ對シテ擔保ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ第四百七十六條乃至第四百七十九條ノ規定ヲ準用ス(同上)

第二款 參加支拂

第五百八條 爲替手形ノ所持人カ支拂拒絕證書ヲ作ラシメタル場合ニ於テ豫備支拂人又ハ參加引受人アルトキハ所持人ハ支拂拒絕證書作成ノ期間内ニ參加引受人ニ、若シ參加引受人ナキトキ又ハ參加引受人カ支拂ヲ爲ササリシトキ豫備支拂人ニ爲替手形ヲ呈示シテ其支

五百七十二

拂ヲ求メタル後ニ非サレハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス(同上)

參加引受人又ハ豫備支拂人カ支拂ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其旨ヲ支拂拒絕證書ニ記載セシムルコトヲ要ス

所持人カ前二項ニ定メタル手續ヲ爲ササリシトキハ豫備支拂人ヲ指定シタル者又ハ被參加人及ヒ其後者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第五百九條 爲替手形ノ所持人、豫備支拂人又ハ參加引受人ニ非サル者ノ參加支拂ト雖モ之ヲ拒ムコトヲ得ス若シ之ヲ拒ミタルトキハ被參加人及ヒ其後者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第五百十條 參加支拂ヲ爲サントスル者數人アルトキハ所持人ハ最多數ノ者ヲシテ債務ヲ免レシムル效力ヲ有スル支拂ヲ受クルコトヲ要ス

第五百十一條 豫備支拂人又ハ參加引受人ニ非サル參加支拂人カ被參加人ヲ示ササリシトキハ其支拂ハ支拂人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五百十二條 所持人ハ支拂拒絕證書ニ參加支

拂アリタル旨ヲ記載セシメ且手形金額及ヒ費用ノ支拂ト引換ニ其拒絕證書及ヒ爲替手形ヲ參加支拂人ニ交付スルコトヲ要ス

第九節 拒絕證書

第五百十四條 拒絕證書ハ爲替手形ノ所持人ノ請求ニ因リ公證人又ハ執達吏之ヲ作ル

第五百十五條 拒絕證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ公證人又ハ執達吏之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス(同上)

- 一 拒絕者及ヒ被拒絕者ノ氏名又ハ商號
- 二 拒絕者ニ對スル請求ノ趣旨及ヒ拒絕者カ其請求ニ應セサリシコト、拒絕者ニ面會スルコト能ハサリシコト又ハ其營業所、住所若クハ居所カ知レサリシコト
- 三 前號ノ請求ヲ爲シ又ハ之ヲ爲スコト能ハサリシ地及ヒ年月日
- 四 法定ノ場所外ニ於テ拒絕證書ヲ作ルトキハ拒絕者カ之ヲ承諾シタルコト
- 五 參加引受又ハ參加支拂アルトキハ參加ノ

種類及ヒ參加人並ニ被參加人ノ氏名又ハ商號

第五百十五條ノ二 支拂拒絕證書ノ作成ハ爲替手形又ハ附箋ニ依リテ之ヲ爲ス(追加同上)

第五百十五條ノ三 爲替手形ノ數通ノ複本又ハ原本及ヒ謄本ヲ呈示シタル場合ニ於テ支拂拒絕證書ヲ作ルトキハ其作成ハ一通ノ複本若クハ原本又ハ附箋ニ依リテ之ヲ爲スヲ以テ足ル(同上)

前項ノ規定ニ依リテ支拂拒絕證書ヲ作リタルトキハ他ノ複本又ハ謄本ニ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス(同上)

第五百十五條ノ四 支拂拒絕ノ場合ヲ除ク外拒絕證書ノ作成ハ爲替手形若クハ其謄本ノ寫本ニ依リテ拒絕證書ヲ作ル場合ニ於テハ第五百十五條ニ掲ケタル事項ハ其裏面ニ記載シタル事項ニ接續シテ之ヲ記載スルコトヲ要ス(同上)

附箋ニ依ル場合ニ於テハ公證人又ハ執達吏ノ

其接目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス(同上)

第五百十六條 數人ニ對シテ手形上ノ請求ヲ爲スヘキトキハ其請求ニ付キ一通ノ拒絕證書ヲ作ラシムルヲ以テ足ル

第五百十七條 公證人又ハ執達吏カ拒絕證書ヲ作リタルトキハ其謄本ニ左ノ事項ヲ記載シ之ヲ其役場ニ備フルコトヲ要ス(改正同上)

一 手形金額
二 振出人、支拂人及ヒ受取人ノ氏名又ハ商號

三 振出ノ年月日
四 満期日及ヒ支拂地

五 支拂擔當者、豫備支拂人又ハ參加引受人アルトキハ其氏名又ハ商號

拒絕證書カ滅失シタルトキハ利害關係人ハ其謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此謄本ハ原本ト同一ノ效力ヲ有ス

第十節 爲替手形ノ複本及ヒ謄本

第五百十八條 爲替手形ノ所持人ハ振出人ニ對シテ其爲替手形ノ複本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但所持人カ受取人ニ非ラサルトキハ順次ニ其ノ前者ヲ經由シテ之ヲ請求スルコトヲ要ス

第五百七十四

振出人カ爲替手形ノ複本ヲ作リタルトキハ各裏書人ハ各通ニ其裏書ヲ爲スコトヲ要ス

第五百十九條 爲替手形ノ複本ニ其複本タルコトヲ示ササルトキハ其各通ハ獨立ノ爲替手形トシテ其效力ヲ有ス

第五百二十條 爲替手形ノ複本ヲ作リタル場合ニ於テ其一通ノ支拂アリタルトキハ他ノ各通ハ其效力ヲ失フ但引受アルモノハ此限ニ在ラズ

二人以上ニ各別ニ數通ノ爲替手形ノ裏書ヲ爲シタル者又ハ數通ノ爲替手形ニ引受ヲ爲シタル者ハ支拂ノ時ニ於テ返還アラサリシ各通ニ付キ手形上ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百二十一條 爲替手形ノ所持人カ引受ヲ求ムル爲メ其一通ヲ送付シタルトキハ他ノ各通ニ其送付先ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ記載アル爲替手形ノ所持人ハ引受ヲ求ムル爲メニ送付シタル一通ノ爲替手形ヲ受取リタル者ニ對シテ其返還ヲ請求スルコトヲ得若シ其者カ之ヲ返還セサルトキハ拒絕證書ニ依リ其事實及ヒ他ノ一通又ハ數通ノ爲替手形

第五百二十五條 約束手形ニハ左ノ事項ヲ記載

一 其約束手形タルコトヲ示スヘキ文字

二 一定ノ金額

三 受取人ノ氏名又ハ商號

四 單純ナル支拂ノ約束

五 振出ノ年月日

六 一定ノ満期日

七 振出地

第五百二十六條 振出人カ約束手形ニ支拂地ヲ記載セザリシトキハ振出地ヲ以テ其支拂地トス

第五百二十七條 振出地ハ之ヲ振出人ノ營業所又ハ住所ノ所在地ト看做ス(追加同上)

第五百二十八條 一覽後定期拂ノ約束手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年内ニ振出人ニ約束手形ヲ呈示スルコトヲ要ス但振出人ハ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得

所持人カ拒絕證書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セザルトキハ振出人以外ノ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百七十五

第三章 約束手形

チ以テ引受又ハ支拂ヲ受クルコト能ハサリシコトヲ證明スルニ非サレハ其前者ニ對シテ擔保又ハ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五百二十二條 爲替手形ノ所持人ハ其謄本ヲ作ルコトヲ得

爲替手形ノ謄本ニ或事項ヲ記載シタルトキハ其事項ト原本ニ記載シタル事項トヲ區別スルコトヲ要ス

第五百二十三條 所持人カ爲替手形ノ引受ヲ求ムル爲メ其原本ヲ送付シタル場合ニ於テ其謄本ヲ作リタルトキハ之ニ其原本ノ送付先ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ記載アル謄本ノ所持人ハ原本ヲ受取リタル者ニ對シテ其返還ヲ請求スルコトヲ得

第五百二十四條 引受ヲ求ムル爲メニ送付シタル爲替手形ヲ受取リタル者カ之ヲ返還セザル場合ニ於テ其謄本ノ所持人カ拒絕證書ニ依リテ其事實ヲ證明スルトキハ謄本ニ署名シタル者ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲シ又謄本ニ記載シタル満期日カ到來シタル後ハ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

五百七十六

手形ヲ呈示シタル場合ニ於テ振出人カ呈示ヲ受ケタル旨又ハ其日附ヲ約束手形ニ記載セザリシトキハ所持人ハ呈示期間内ニ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ其拒絶證書作成ノ日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス
所持人カ拒絶證書ヲ作ラシメザリシトキハ振出人以外ノ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ
振出人カ呈示ノ日附ヲ記載セザリシ場合ニ於テ所持人カ拒絶證書ヲ作ラシメザリシトキハ呈示期間ノ末日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス
第五百二十九條 第四百四十六條、第四百四十九條乃至第四百五十一條、第四百五十三條乃至第四百六十四條、第四百七十一條、第四百八十條乃至第四百九十九條、第五百八條乃至第五百十七條及ヒ第五百二十二條ノ規定ハ約束手形ニ之ヲ準用ス(改正同上)

第四章 小切手
第五百三十條 小切手ニハ左ノ事項ヲ記載シ振出人ノ署名スルコトヲ要ス
一 其小切手タルコトヲ示スヘキ文字
二 一定ノ金額

三 支拂人ノ氏名又ハ商號
四 受取人ノ氏名若クハ商號又ハ所持人ニ支拂フヘキコト
五 單純ナル支拂ノ委託
六 振出ノ年月日
七 支拂地

第五百三十一條 (削除同上)
第五百三十二條 小切手ハ一覽拂ノモノトス
第五百三十三條 小切手ノ所持人ハ其日附ヨリ十日内ニ小切手ヲ呈示シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ要ス(改正同上)
所持人カ前項ニ定メタル呈示ヲ爲サザリシトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス
第五百三十三條ノ二 小切手ノ振出人ハ呈示期間經過前ニハ支拂ノ委託ヲ取消スコトヲ得ス(追加同上)
支拂人ハ呈示期間經過ノ後ト雖モ小切手ノ支拂ヲ爲スコトヲ得(同上)
第五百三十三條ノ三 小切手ノ所持人カ支拂人ノ加入シタル手形交換所ニ小切手ヲ提出シタルトキハ支拂地ニ於テ支拂ヲ求ムル爲メ之ヲ爲サシムルコトヲ得ル金額ヲ超エテ小切手ヲ振出シタルトキハ五圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス(改正同上)

呈示シタルト同一ノ效力ヲ有ス(同上)
第五百三十四條 小切手ノ所持人カ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スニハ支拂拒絶證書ノ作成ニ代ヘ支拂人ヲシテ呈示期間内ニ支拂拒絶ノ旨及ヒ其年月日ヲ小切手ニ記載セシメ且之ニ署名セシムルヲ以テ足ル(改正同上)
手形交換所ニ於テ呈示期間内ニ小切手ノ提出及ヒ支拂拒絶アリタル旨ヲ證明シタルトキ亦同シ(追加同上)

第五百三十四條ノ二 前二條ノ手形交換所ハ司法大臣之ヲ指定ス(同上)

第五百三十五條 小切手ノ振出人又ハ所持人カ其表面ニ二條ノ平行線ヲ畫キ其線内ニ銀行又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文字ヲ記載シタルトキハ支拂人ハ銀行ニ對シテノミ支拂ヲ爲スコトヲ得
振出人又ハ所持人カ平行線内ニ特定セル銀行ノ商號ヲ記載シタルトキハ支拂人ハ其銀行ニ對シテノミ支拂ヲ爲スコトヲ得但其銀行カ其商號ヲ抹消シテ他ノ銀行ノ商號ヲ記載シ之ニ取立ノ委任ヲ爲スコトヲ妨ケス
第五百三十六條 振出人カ支拂人ヲシテ支拂ヲ

爲サシムルコトヲ得ル金額ヲ超エテ小切手ヲ振出シタルトキハ五圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス(改正同上)
第五百三十七條 第四百四十六條、第四百四十七條、第四百四十九條ノ二、第四百五十二條、第四百五十二條ノ二、第四百五十五條、第四百五十七條、第四百五十九條乃至第四百六十四條、第四百八十三條、第四百八十四條、第四百八十六條乃至第四百八十九條ノ二、第四百九十一條、第四百九十二條、第四百九十五條、第五百十四條乃至第五百十五條ノ二、第五百十五條ノ五及ヒ第五百十七條ノ規定ハ小切手ニ之ヲ準用ス(同上)

第五編 海 商

第一章 船舶及ヒ船舶所有者

第五百三十八條 本法ニ於テ船舶トハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スルモノヲ謂フ
本編ノ規定ハ端舟其他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス
第五百三十九條 船舶ノ屬具目錄ニ記載シタル
五百七十七

物ハ其從物ト推定ス

第五百四十條 船舶所有者ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶ニハ之ヲ適用セス

第五百四十一條 船舶所有權ノ移轉ハ其登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ニ之ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス(同上)

第五百四十二條 航海中ニ在ル船舶ノ所有權ヲ讓渡シタル場合ニ於テ特約ナキトキハ其航海ニ因リテ生スル損益ハ讓受人ニ歸スヘキモノトス

第五百四十三條 差押及ヒ假差押ハ發航ノ準備ヲ終ハリタル船舶ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ得ス

但し其船舶カ發航ヲ爲ス爲メニ生シタル債務ニ付テハ此限ニ在ラス

第五百四十四條 船舶所有者ハ船長カ其法定ノ權限内ニ於テ爲シタル行爲又ハ船長其他ノ船員カ其職務ヲ行フニ當タリ他人ニ加ヘタル損

五百七十八

害ニ付テハ航海ノ終ニ於テ船舶、運送貨及ヒ船舶所有者カ其船舶ニ付キ有スル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ヲ債權者ニ委付シテ其責ヲ免ルルコトヲ得但船舶所有者ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ雇傭契約ニ因リテ生シタル船員ノ權利ニ付テハ之ヲ適用セス

第五百四十四條ノ二 登記シタル船舶ノ委付ハ登記ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ生ス(追加同上)

第五百四十五條 船舶所有者カ債權者ノ同意ヲ得スシテ更ニ航海ヲ爲サシメタルトキハ第五百四十四條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス(改正同上)

第五百四十六條 船舶共有者ノ間ニ在リテハ船舶ノ利用ニ關スル事項ハ各共有者ノ持分ノ價格ニ從ヒ其過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第五百四十七條 船舶共有者ハ其持分ノ價格ニ應ジ船舶ノ利用ニ關スル費用ヲ負擔スルコトヲ要ス

第五百四十八條 船舶共有者カ新ニ航海ヲ爲シ又ハ船舶ノ大修繕ヲ爲スヘキコトヲ決議シタルトキハ其決議ニ對シテ異議アル者ハ他ノ共

有者ニ對シ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ爲サント欲スル者ハ決議ノ日ヨリ三日内ニ他ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス但此期間ハ決議ニ加ハラサリシ者ニ付テハ其決議ノ通知ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第五百四十九條 船舶共有者ハ其持分ノ價格ニ應ジ船舶ノ利用ニ付テ生シタル債務ヲ辨償スル責ニ任ス

第五百五十條 損益ノ分配ハ每航海ノ終ニ於テ船舶共有者ノ持分ノ價格ニ應ジテ之ヲ爲ス

第五百五十一條 船舶共有者間ニ組合關係アルトキト雖モ各共有者ハ他ノ共有者ノ承諾ヲ得スシテ其持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得但船舶管理人ハ此限ニ在ラス

第五百五十二條 船舶共有者ハ船舶管理人ヲ選任スルコトヲ要ス

船舶共有者ニ非サル者ヲ船舶管理人ト爲スニハ共有者全員ノ同意アルコトヲ要ス

船舶管理人ノ選任及ヒ其代理權ノ消滅ハ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第五百五十三條

船舶管理人ハ左ニ掲ケタル行爲ヲ除ク外船舶共有者ニ代ハリテ船舶ノ利用ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

一 船舶ノ讓渡、委付若クハ貸貸ヲ爲シ又ハ之ヲ抵當ト爲スコト

二 船舶ヲ保險ニ付スルコト

三 新ニ航海ヲ爲スコト

四 船舶ノ大修繕ヲ爲スコト

五 借財ヲ爲スコト

船舶管理人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百五十四條 船舶管理人ハ特ニ帳簿ヲ備ヘ之ニ船舶ノ利用ニ關スル一切ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

船舶管理人ハ每航海ノ終ニ於テ遲滞ナク其航海ニ關スル計算ヲ爲シテ各船舶共有者ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第五百五十五條 船舶共有者ノ持分ノ移轉又ハ其國籍喪失ニ因リテ船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失スヘキトキハ他ノ共有者ハ相當代價ヲ以テ其持分ヲ買取リ又ハ其競賣ヲ裁判所ニ請求スル

五百七十九

コトヲ得

社員ノ持分ノ移轉ニ因リ會社ノ所有ニ屬スル船船カ日本ノ國籍ヲ喪失スヘキトキハ合名會社ニ在テハ他ノ社員、合資會社及ヒ株式會資會社ニ在テハ他ノ無限責任社員ハ相當代價ヲ以テ其持分ヲ買取ルコトヲ得

第五百五十六條 船船ノ貸借ハ之ヲ登記シタルトキハ爾後其船船ニ付キ物權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其效力ヲ生ス

第五百五十七條 船船ノ賃借人カ商行為ヲ爲ス目的ヲ以テ其船船ヲ航海ノ用ニ供シタルトキハ其利用ニ關スル事項ニ付テハ第三者ニ對シテ船船所有者ト同一ノ權利義務ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ船船ノ利用ニ付キ生シタル先取特權ハ船船所有者ニ對シテモ其效力ヲ生ス但先取特權者カ其利用ノ契約ニ反スルコトヲ知レルトキハ此限ニ在ラス

第二章 船員

第一節 船長

第五百五十八條 船長ハ其職務ヲ行フニ付キ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ船船所有者、備船者、荷送人其他ノ利害關係人ニ

五百八十

對シテ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

船長ハ船船所有者ノ指圖ニ從ヒタルトキト雖モ船船所有者以外ノ者ニ對シテハ前項ニ定メタル責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百五十九條 海員カ其職務ヲ行フニ當タリ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ船長ハ監督ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百六十條 船長カ已ムコトヲ得サル事由ニ因リテ自ラ船船ヲ指揮スルコト能ハサルトキハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外他人ヲ選任シテ自己ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得此場合ニ於テハ船長ハ其選任ニ付キ船船所有者ニ對シテ其責ニ任ス

第五百六十一條 船長ハ發航前船船ノ航海ニ支障ナキヤ否ヤ其他航海ニ必要ナル準備ノ整頓セルヤ否ヤヲ検査スルコトヲ要ス

第五百六十二條 船長ハ左ニ掲ケタル書類ヲ船中ニ備ヘ置クコトヲ要ス

- 一 船船國籍證書
- 二 海員名簿
- 三 屬具目錄

四 航海日誌

五 旅客名簿

六 運送契約及ヒ積荷ニ關スル書類

七 稅關ヨリ交付シタル書類

前項第三號乃至第五號ニ掲ケタル書類ハ外國ニ航行セサル船船ニ限リ命令ヲ以テ之ヲ備フルコトヲ要セサルモノト定ムルコトヲ得

第五百六十三條 船長ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除ク外自己ニ代ハリテ船船ヲ指揮スヘキ者ニ其職務ヲ委任シタル後ニ非サレハ荷物ノ積及ヒ旅客ノ乗込ノ時ヨリ荷物ノ陸揚及ヒ旅客ノ上陸ノ時マテ其指揮スル船船ヲ去ルコトヲ得ス

第五百六十四條 船長ハ航海ノ準備カ終ハリタルトキハ遲滞ナク發航ヲ爲シ且必要アル場合ヲ除ク外豫定ノ航路ヲ變更セスシテ到達港マテ航行スルコトヲ要ス

第五百六十五條 船長ハ航海中最モ利害關係人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ積荷ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

利害關係人ハ船長ノ行為ニ因リ其積荷ニ付テ生シタル債權ノ爲メ之ヲ債權者ニ委付シテ其

責ヲ免ルルコトヲ得但利害關係人ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

第五百六十六條 船籍港外ニ於テハ船長ハ航海ノ爲メニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

船籍港ニ於テハ船長ハ特ニ委任ヲ受ケタル場合ヲ除ク外海員ノ雇入及ヒ雇止ヲ爲ス權限ノミヲ有ス

第五百六十七條 船長ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百六十八條 船長ハ船船ノ修繕費、救助料其他航海ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支辨スル爲メニ非サレハ左ニ掲ケタル行為ヲ爲スコトヲ得ス(改正同上)

- 一 船船ヲ抵當ト爲スコト
- 二 借財ヲ爲スコト
- 三 積荷ノ全部又ハ一部ヲ賣却又ハ質入スルコト但第五百六十五條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

船長カ積荷ヲ賣却又ハ質入シタル場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其積荷ノ到達スヘカリシ時

五百八十一

ニ於ケル陸揚港ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但其價格中ヨリ支拂フコトヲ要セザリシ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第五百六十九條 船長カ特ニ委任ヲ受ケスシテ航海ノ爲メニ費用ヲ出タシ又ハ債務ヲ負擔シタルトキハ船舶所有者ハ船長ニ對シテ第五百四十四條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得

第五百七十條 船籍港外ニ於テ船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキハ船長ハ管海官廳ノ認可ヲ得テ之ヲ競賣スルコトヲ得

第五百七十一條 左ノ場合ニ於テハ船舶ハ修繕スルコト能ハサルニ至リタルモノト看做ス

一 船舶カ其現在地ニ於テ修繕ヲ受クルコト能ハス且其修繕ヲ爲スヘキ地ニ到ルコト能ハサルトキ
二 修繕費カ船舶ノ價額ノ四分ノ三ニ超ユルトキ

前項第二號ノ價額ハ船舶カ航海中毀損シタル場合ニ於テハ其發航ノ時ニ於ケル價額トシ其他ノ場合ニ於テハ其毀損前ニ有セシ價額トス

第二節 海員

第五百七十六條 海員ハ其雇入ノ手續カ終ハリタルトキハ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込ムコトヲ要ス

海員ハ船長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其乗込ミタル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第五百七十七條 海員ノ服役中ノ食料ハ船舶所有者ノ負擔トス

第五百七十八條 海員カ服役中不行跡其他重大ナル過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ三ヶ月ヲ超エサル期間内ノ治療及ヒ看護ノ費用ヲ負擔ス

前項ノ場合ニ於テ海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得但し其職務ヲ行フニ因リテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタルトキハ其給料ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

第五百七十九條 一航海ニ付キ給料ヲ定メタル場合ニ於テ航海ノ日數ヲ延長シ又ハ不可抗力ニ因ラスシテ其里程ヲ延長シタルトキハ海員ハ其割合ニ應ジテ給料ノ増加ヲ請求スルコト

得此場合ニ於テハ第五百六十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五百七十三條 船長ハ遲滞ナク航海ニ關スル重要ナル事項ヲ船舶所有者ニ報告スルコトヲ要ス

船長ハ每航海ノ終ニ於テ遲滞ナク其航海ニ關スル計算ヲ爲シテ船舶所有者ノ承認ヲ求メ又船舶所有者ノ請求アルトキハ何時ニテモ計算ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第五百七十四條 船舶所有者ハ何時ニテモ船長ヲ解任スルコトヲ得但正當ノ理由ナクシテ之ヲ解任シタルトキハ船長ハ船舶所有者ニ對シテ解任ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

船長カ船舶共有者ナル場合ニ於テ其意ニ反シテ解任セラレタルトキハ他ノ共有者ニ對シテ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

船長カ前項ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ遲滞ナク他ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第五百七十五條 船長ノ船舶所有者ニ對スル債ヲ後但航海ノ日數又ハ里程ヲ短縮シタルトキト雖モ給料ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十條 海員カ就役ノ後死亡シタルトキハ船舶所有者ハ死亡ノ日マテノ給料ヲ支拂フコトヲ要ス

海員カ其職務ヲ行フニ因リテ死亡シタルトキハ其葬式ノ費用ハ船舶所有者ノ負擔トス

第五百八十一條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ雇止ムルコトヲ得

- 一 發航前海員カ其職務ニ不適任ナルコトヲ認メタルトキ
 - 二 海員カ著シク其職務ヲ怠リ又ハ其職務ニ關シテ之ニ重大ナル過失アリタルトキ
 - 三 海員カ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
 - 四 海員カ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ其職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ
 - 五 不可抗力ニ因リ發航ヲ爲シ又ハ航海ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキ
- 前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得
- 第一項第四號及ヒ第五號ノ場合ニ於テハ海員

ハ其雇止ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得但第四號ノ場合ニ於テ海員ニ過失アルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

第五百八十二條 海員カ前條第一項ニ掲ゲタル事由ニ因ラスシテ雇止メラレタルトキハ其服役シタル期間ニ對スル給料ノ外一ヶ月分ノ給料ヲ請求スルコトヲ得若シ雇入港外ニ於テ雇止メラレタルトキハ雇入港マテ歸航スルニ必要ナル期間ニ對スル給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十三條 左ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ヲ請求スルコトヲ得
一 船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ
二 自己ノ過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ傷疾ヲ受ケ其職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ
三 船長ヨリ虐待ヲ受ケタルトキ

前項ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十四條 航海中船舶ノ所有者カ變更シタルトキハ海員ハ新所有者ニ對シ雇傭契約ニ

テ其費用ヲ請求スルコトヲ得
第五百八十九條 第五百七十五條ノ規定ハ海員ノ債權ニ之ヲ準用ス
第三章 運送
第一節 物品運送
第一編 總則
第五百九十條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ各當事者ハ相手方ノ請求ニ因リ運送契約書ヲ交付スルコトヲ要ス
第五百九十一條 船舶所有者ハ備船者又ハ荷送人ニ對シ發航ノ當時船舶カ安全ニ航海ヲ爲スニ堪フルコトヲ擔保ス
第五百九十二條 船舶所有者ハ特約ヲ爲シタルトキト雖モ自己ノ過失、船員其他ノ使用人ノ惡意若クハ重大ナル過失又ハ船舶カ航海ニ堪ヘサルニ因リ生シタル損害ヲ賠償スル責ヲ免ルルコトヲ得ス
第五百九十三條 法令ニ違反シ又ハ契約ニ依ラズシテ船積シタル運送品ハ船長ニ於テ何時ニテモ之ヲ陸揚シ、若シ船舶又ハ積荷ニ危害ヲ及ホス虞アルトキハ之ヲ放棄スルコトヲ得但

因リテ生シタル權利義務ヲ有ス
第五百八十五條 海員ノ雇入期間ハ一年ヲ超エルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ海員ヲ雇入レタルトキハ其ノ期間ハ之ヲ一年ニ短縮ス
海員ノ雇入ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間ハ更新ノ時ヨリ一年ヲ超ユルコトヲ得ス
第五百八十六條 雇入期間ノ定ナキトキハ海員ハ特約アル場合ヲ除ク外船舶カ安全ニ碇泊シ且積荷ノ陸揚及ヒ旅客ノ上陸カ終ハリタル後ニ非サレハ其雇止ヲ請求スルコトヲ得ス
第五百八十七條 海員ノ雇入契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス
一 船舶カ沈没シタルコト
二 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルコト
三 船舶カ捕獲セラレタルコト
前項ノ場合ニ於テハ海員ハ契約終了ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十八條 海員カ雇入港マテノ送還ヲ請求スル權利ヲ有スル場合ニ於テハ送還ニ代ヘ

船長カ之ヲ運送スルトキハ其船積ノ地及ヒ時ニ於ケル同種ノ運送品ノ最高ノ運送賃ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ規定ハ船舶所有者其他ノ利害關係人カ損害賠償請求ヲ爲スコトヲ妨ケス
第五百九十四條 船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ運送品ヲ船積スルニ必要ナル準備カ整頓シタルトキハ船舶所有者ハ運送品ナク備船者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス
備船者カ運送品ヲ船積スヘキ期間ノ定アル場合ニ於テハ其期間ハ前項ノ通知アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス其期間經過ノ後運送品ヲ船積シタルトキハ船舶所有者ハ特約ナキトキト雖モ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ期間中ニハ不可抗力ニ因リテ船積ヲ爲スコト能ハサル日ヲ算入セス
第五百九十五條 船長カ第三者ヨリ運送品ヲ受取ルヘキ場合ニ於テ其者ヲ確知スルコト能ハサルトキ又ハ其者カ運送品ヲ船積セサルトキハ船長ハ直チニ備船者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ船積期間内ニ限

第五百九十一條 船舶所有者ハ備船者又ハ荷送人ニ對シ發航ノ當時船舶カ安全ニ航海ヲ爲スニ堪フルコトヲ擔保ス

第五百九十二條 船舶所有者ハ特約ヲ爲シタルトキト雖モ自己ノ過失、船員其他ノ使用人ノ惡意若クハ重大ナル過失又ハ船舶カ航海ニ堪ヘサルニ因リ生シタル損害ヲ賠償スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百九十三條 法令ニ違反シ又ハ契約ニ依ラズシテ船積シタル運送品ハ船長ニ於テ何時ニテモ之ヲ陸揚シ、若シ船舶又ハ積荷ニ危害ヲ及ホス虞アルトキハ之ヲ放棄スルコトヲ得但

リ備船者ニ於テ運送品ヲ船積スルコトヲ得
第五百九十六條 備船者ハ運送品ノ全部ヲ船積
セサルトキト雖モ船長ニ對シテ發航ノ請求ヲ
爲スコトヲ得

備船者カ前項ノ請求ヲ爲シタルトキハ運送貨
ノ全額ノ外運送品ノ全部ヲ船積セサルニ因リ
テ生シタル費用ヲ支拂ヒ尙ホ船積所有者ノ請
求アルトキハ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

第五百九十七條 船積期間經過ノ後ハ備船者カ
運送品ノ全部ヲ船積セサルトキト雖モ船長ハ
直チニ發航ヲ爲スコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第五百九十八條 發航前ニ於テハ備船者ハ運送
貨ノ半額ヲ支拂ヒテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ
得

往復航海ヲ爲スヘキ場合ニ於テ備船者カ其歸
航ノ發航前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ運
送貨ノ三分ノ二ヲ支拂フコトヲ要ス他港ヨリ
船積港ニ航行スヘキ場合ニ於テ備船者カ其船
積港ヲ發スル前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキ
亦同シ

運送品ノ全部又ハ一部ヲ船積シタル後前二項
ノ規定ニ從ヒテ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ
其船積及ヒ陸揚ノ費用ハ備船者之ヲ負擔ス
備船者カ船積期間内ニ運送品ノ船積ヲ爲サザ
リシトキハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做
ス

第五百九十九條 備船者カ前條ノ規定ニ從ヒテ
契約ノ解除ヲ爲シタルトキト雖モ附隨ノ費用
及ヒ立替金ヲ支拂フ責ヲ免ルルコトヲ得ス

前條第二項ノ場合ニ於テハ備船者ハ前項ニ揭
ケタルモノノ外運送品ノ價格ニ應ジ共同海
損、又ハ救助ノ爲メ負擔スヘキ金額ヲ支拂フ
コトヲ要ス(改正同上)

第六百條 發航後ニ於テハ備船者ハ運送貨ノ全
額ヲ支拂フ外第六百六條第一項ニ定メタル債
務ヲ辨濟シ且陸揚ノ爲メニ生スヘキ損害ヲ賠
償シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ契約
ノ解除ヲ爲スコトヲ得ス

第六百一條 船舶ノ一部ヲ以テ運送契約ノ目的
ト爲シタル場合ニ於テ備船者カ他ノ備船者及
七荷送人ト共同セシテ發航前ニ契約ノ解除
ヲ爲シタルトキハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコト
ヲ要ス但船舶所有者カ他ノ運送品ヨリ得タル

運送貨ハ之ヲ控除ス
發航前ト雖モ備船者カ既ニ運送品ノ全部又ハ
一部ヲ船積シタルトキハ他ノ備船者及ヒ荷送
人ノ同意ヲ得ルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲ス
コトヲ得ス

前七條ノ規定ハ船舶ノ一部ヲ以テ運送契約ノ
目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス
第六百二條 箇箇ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目
的ト爲シタルトキハ荷送人ハ船長ノ指圖ニ從
ヒ運送品ヲ船積スルコトヲ要ス

荷送人カ運送品ノ船積ヲ怠リタルトキハ船長
ハ直チニ發航ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ
荷送人ハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス但
船舶所有者カ他ノ運送品ヨリ得タル運送貨ハ
之ヲ控除ス

第六百三條 第六百一條ノ規定ハ荷送人カ契約
ノ解除ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
第六百四條 備船者又ハ荷送人ハ船積期間内ニ
運送ニ必要ナル書類ヲ船長ニ交付スルコトヲ
要ス

第六百五條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契
約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ運送品ヲ陸揚
スルニ必要ナル準備カ整頓シタルトキハ船長
ハ運送品ヲ陸揚スヘキ期間ノ定アル場合ニ於テ
ハ其期間ハ前項ノ通知アリタル日ノ翌日ヨリ
之ヲ起算ス其期間經過ノ後運送品ヲ陸揚シタ
ルトキハ船舶所有者ハ特約ナキトキト雖モ相
當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

五百八十六

ノ規定ニ從ヒテ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ
其船積及ヒ陸揚ノ費用ハ備船者之ヲ負擔ス
備船者カ船積期間内ニ運送品ノ船積ヲ爲サザ
リシトキハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做
ス

第六百六條 發航後ニ於テハ備船者ハ運送貨ノ全
額ヲ支拂フ外第六百六條第一項ニ定メタル債
務ヲ辨濟シ且陸揚ノ爲メニ生スヘキ損害ヲ賠
償シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ契約
ノ解除ヲ爲スコトヲ得ス

第六百七條 船舶ノ一部ヲ以テ運送契約ノ目的
ト爲シタル場合ニ於テ備船者カ他ノ備船者及
七荷送人ト共同セシテ發航前ニ契約ノ解除
ヲ爲シタルトキハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコト
ヲ要ス但船舶所有者カ他ノ運送品ヨリ得タル

運送貨ハ之ヲ控除ス
發航前ト雖モ備船者カ既ニ運送品ノ全部又ハ
一部ヲ船積シタルトキハ他ノ備船者及ヒ荷送
人ノ同意ヲ得ルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲ス
コトヲ得ス

前七條ノ規定ハ船舶ノ一部ヲ以テ運送契約ノ
目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス
第六百二條 箇箇ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目
的ト爲シタルトキハ荷送人ハ船長ノ指圖ニ從
ヒ運送品ヲ船積スルコトヲ要ス

荷送人カ運送品ノ船積ヲ怠リタルトキハ船長
ハ直チニ發航ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ
荷送人ハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス但
船舶所有者カ他ノ運送品ヨリ得タル運送貨ハ
之ヲ控除ス

第六百三條 第六百一條ノ規定ハ荷送人カ契約
ノ解除ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
第六百四條 備船者又ハ荷送人ハ船積期間内ニ
運送ニ必要ナル書類ヲ船長ニ交付スルコトヲ
要ス

第六百五條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契
約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ運送品ヲ陸揚
スルニ必要ナル準備カ整頓シタルトキハ船長
ハ運送品ヲ陸揚スヘキ期間ノ定アル場合ニ於テ
ハ其期間ハ前項ノ通知アリタル日ノ翌日ヨリ
之ヲ起算ス其期間經過ノ後運送品ヲ陸揚シタ
ルトキハ船舶所有者ハ特約ナキトキト雖モ相
當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ期間中ニハ不可抗力ニ因リテ陸揚ヲ爲
スコト能ハサル日ヲ算入セス
箇箇ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタ
ルトキハ荷送人ハ船長ノ指圖ニ從ヒ運送品ヲ
運送品ヲ陸揚スルコトヲ要ス

第六百六條 荷受人カ運送品ヲ受取リタルトキ
ハ運送契約又ハ船荷證券ノ趣旨ニ從ヒ運送貨
ノ附隨ノ費用、立替金、碇泊料及ヒ運送品ノ價
格ニ應ジ共同海損又ハ救助ノ爲メ負擔スヘキ
金額ヲ支拂フ義務ヲ負フ(同上)

船長ハ前項ニ定メタル金額ノ支拂ト引換ニ非
サレハ運送品ヲ引渡スコトヲ要ス
第六百七條 荷受人カ運送品ヲ受取ルコトヲ意
シタルトキハ船長ハ之ヲ供託スルコトヲ得此

五百八十七

場合ニ於テハ遲滞ナク荷受人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス
荷受人ヲ確知スルコト能ハサルトキ又ハ荷受人カ運送品ヲ受取ルコトヲ拒ミタルトキハ船長ハ運送品ヲ供託スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ遲滞ナク備船者又ハ荷受人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第六百八條 運送品ノ重量又ハ容積ヲ以テ運送貨ヲ定メタルトキハ其額ハ運送品引渡ノ當時ニ於ケル重量又ハ容積ニ依リテ之ヲ定ム

第六百九條 期間ヲ以テ運送貨ヲ定メタルトキハ其額ハ運送品ノ船積著手ノ日ヨリ其陸揚終了ノ日マテノ期間ニ依リテ之ヲ定ム但船積力テ定泊ヲ爲スヘキトキ又ハ航海ノ途中ニ於テ船積ヲ修繕スヘキトキハ其期間ハ之ヲ算入セズ
第五百九十四條第二項又ハ第六百五條第二項ノ場合ニ於テ船積期間又ハ陸揚期間經過ノ後運送品ノ船積又ハ陸揚ヲ爲シタル日數亦同シ

第六百十條 船舶所有者ハ第六百六條第一項ニ定メタル金額ノ支拂ヲ受クル爲メ裁判所ノ許可ヲ得テ運送品ヲ競賣スルコトヲ得

第五百八十七條第一項ニ掲ケタル事由カ航海中ニ生シタルトキハ備船者ハ運送ノ割合ニ應ジ運送品ノ價格ヲ超エサル限度ニ於テ運送貨ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十四條 航海又ハ運送カ法令ニ反スルニ至リタルトキ其ノ他不可抗力ニ因リテ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルニ至リタルトキハ各當事者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ニ掲ケタル事由カ發航後ニ生シタル場合ニ於テ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ備船者ハ運送ノ割合ニ應ジテ運送貨ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十五條 第六百十三條第一項第二號及ヒ前條第一項ニ掲ケタル事由カ運送品ノ一部ニ付テ生シタルトキハ備船者ハ船舶所有者ノ負擔ヲ重カラシメサル範圍内ニ於テ他ノ運送品ヲ船積スルコトヲ得

備船者カ前項ニ定メタル權利ヲ行ハント欲スルトキハ遲滞ナク運送品ノ陸揚又ハ船積ヲ爲スコトヲ要ス若シ其陸揚又ハ船積ヲ怠リタル

可テ得テ運送品ヲ競賣スルコトヲ得

船長カ荷受人ニ運送品ヲ引渡シタル後ト雖モ船舶所有者ハ其運送品ノ上ニ權利ヲ行使スルコトヲ得但引渡ノ日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキ又ハ第三者カ其占有ヲ取得シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百十一條 船舶所有者カ前條ニ定メタル權利ヲ行ハサルトキハ備船者又ハ荷受人ニ對スル請求權ヲ失フ但備船者又ハ荷受人ハ其受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ヲ爲スコトヲ要ス

第六百十二條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ備船者カ更ニ第三者ト運送契約ヲ爲シタルトキハ其契約ノ履行カ船長ノ職務ニ屬スル範圍内ニ於テハ船舶所有者ノミ其第三者ニ對シテ履行ノ責任ス但第五百四十四條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ妨ケス

第六百十三條 船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テハ其契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス
一 第五百八十七條第一項ニ掲ケタル事由
二 運送品カ不可抗力ニ因リテ滅失シタルコト

トキハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十六條 第六百十三條及第六百十四條ノ規定ハ船舶ノ一部又ハ箇箇ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六百十三條第一項第二號及ヒ第六百十四條第一項ニ掲ケタル事由カ運送品ノ一部ニ付テ生シタルトキト雖モ備船者又ハ荷受人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十七條 船舶所有者ハ左ノ場合ニ於テハ運送貨ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

- 一 船長カ第五百六十八條第一項ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ賣却又ハ質入シタルトキ
- 二 船長カ第五百七十二條ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ航海ノ用ニ供シタルトキ
- 三 船長カ第六百四十一條ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ處分シタルトキ

第六百十八條 船舶所有者ノ備船者、荷受人又ハ荷受人ニ對スル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第六百十九條 第三百二十八條、第三百三十六條乃至第三百四十一條及ヒ第三百四十八條ノ五百八十九

規定ハ船舶所有者ニ之ヲ準用ス

第二款 船荷證券

第六百二十條 船長ハ備船者又ハ荷送人ノ請求ニ因リ運送品ノ船積後遅滞ナク一通又ハ敷通ノ船荷證券ヲ交付スルコトヲ要ス

第六百二十一條 船舶所有者ハ船長以外ノ者ニ船長ニ代ハリテ船荷證券ヲ交付スルコトヲ委任スルコトヲ得

第六百二十二條 船荷證券ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長又ハ之ニ代ハル者署名スルコトヲ要ス

一 船舶ノ名稱及ヒ國籍
二 船長カ船荷證券ヲ作ラサルトキハ船長ノ氏名
三 運送品ノ種類、重量若クハ容積及ヒ其荷造ノ種類、箇數並ニ記號

四 備船者又ハ荷送人ノ氏名又ハ商號

五 荷受人ノ氏名若クハ商號(改正同上)

六 船積港

七 陸揚港但發航後備船者又ハ荷送人カ陸揚港ヲ指定スヘキトキハ其之ヲ指定スヘキ港

八 運送貨

九 敷通ノ船荷證券ヲ作リタルトキハ其員數

五百九十

十 船荷證券ノ作地及ヒ其作成ノ年月日

第六百二十三條 備船者又ハ荷送人ハ船長又ハ之ニ代ハル者ノ請求ニ因リ船荷證券ノ謄本ニ署名シテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第六百二十四條 陸揚港ニ於テハ船長ハ敷通ノ船荷證券中ノ一通ノ所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキト雖モ其引渡ヲ拒ムコトヲ得

第六百二十五條 陸揚港外ニ於テハ船長ハ船荷證券ノ各通ノ返還ヲ受クルニ非サレハ運送品ヲ引渡スルコトヲ得

第六百二十六條 二人以上ノ船荷證券所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキハ船長ハ遲滞ナク運送品ヲ供託シ且請求ヲ爲シタル各所持人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス船長カ

第六百二十七條 二人以上ノ船荷證券所持人アル場合ニ於テ其一人カ他ノ所持人ニ先チテ船長ヨリ運送品ノ引渡ヲ受ケタルトキハ他ノ所持人ノ船荷證券ハ其效力ヲ失フ

第六百二十八條 二人以上ノ船荷證券所持人アル場合ニ於テ船長カ未タ運送品ノ引渡ヲ爲ササルトキハ原所持人カ最モ先ニ發送シ又ハ引渡シタル證券ヲ所持スル者他ノ所持人ニ先チテ其權利ヲ行フ

第六百二十九條 第三百三十四條乃至第三百三十五條及ヒ第三百四十四條ノ規定ハ船荷證券ニ之ヲ準用ス(同上)

第二節 旅客運送
第六百三十條 記名ノ乗船切符ハ之ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得

第六百三十一條 旅客ノ航海中ノ食料ハ船舶所有者ノ負擔トス

第六百三十二條 旅客カ契約ニ依リ船中ニ携帯スルコトヲ得ル手荷物ニ付テハ船舶所有者ハ特約アルニ非サレハ別ニ運送貨ヲ請求スルコトヲ得

第六百三十三條 旅客カ乗船時期マテニ船舶ニ乗込マサルトキハ船長ハ發航ヲ爲シ又ハ航海ヲ繼續スルコトヲ得此場合ニ於テハ旅客ハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百三十四條 發航前ニ於テハ旅客ハ運送貨

ノ半額ヲ支拂ヒテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

發航後ニ於テハ旅客ハ運送貨ノ全額ヲ支拂フニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百三十五條 旅客カ發航前ニ死亡、疾病其他一身ニ關スル不可抗力ニ因リテ航海ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ船舶所有者ハ運送貨ノ四分ノ一ヲ請求スルコトヲ得

前項ニ掲ケタル事由カ發航後ニ生シタルトキハ船舶所有者ハ其選擇ニ從ヒ運送貨ノ四分ノ一ヲ請求シ又ハ運送ノ割合ニ應シテ運送貨ヲ請求スルコトヲ得

第六百三十六條 航海ノ途中ニ於テ船舶ヲ修繕スヘキトキハ船舶所有者ハ其修繕中旅客ニ相當ノ住居及ヒ食料ヲ供スルコトヲ要ス但旅客ノ權利ヲ害セサル範圍内ニ於テ他ノ船舶ヲ以テ上陸港マテ旅客ヲ運送スルコトヲ提供シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百三十七條 旅客運送契約ハ第五百八十七條第一項ニ掲ケタル事由ニ因リテ終了ス若シ其事由カ航海中ニ生シタルトキハ旅客ハ運送ノ割合ニ應シテ運送貨ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百三十八條 旅客カ死亡シタルトキハ船長ハ最モ其相續人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ其船中ニ在ル手荷物ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

第六百三十九條 第三百五十條、第三百五十一條第一項、第三百五十二條、第五百九十一條、第五百九十二條、第六百十四條及第六百十八條ノ規定ハ海上ノ旅客運送ニ之ヲ準用ス
第五百九十三條及第六百十七條ノ規定ハ旅客ノ手荷物ニ之ヲ準用ス

第六百四十條 旅客運送ヲ爲ス爲メ船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テハ船舶所有者ト備船者トノ關係ニ付テハ前節第一款ノ規定ヲ準用ス

第四章 海損

第六百四十一條 船長カ船舶及ヒ積荷ヲシテ共同ノ危險ヲ免レシムル爲メ船舶又ハ積荷ニ付キ爲シタル處分ニ因リテ生シタル損害及ヒ費用ハ之ヲ共同海損トス
前項ノ規定ハ危險カ過失ニ因リテ生シタル場合ニ於テ利害關係人ノ過失者ニ對スル求償ヲ妨ケス

五百九十二

第六百四十二條 共同海損ハ之ニ因リテ保存スルコトヲ得タル船舶又ハ積荷ノ價格ト運送賃ノ半額ト共同海損タル損害ノ額トノ割合ニ應シテ各利害關係人之ヲ分擔ス

第六百四十三條 共同海損ノ分擔額ニ付テハ船舶ノ價格ハ到達ノ地及ヒ時ニ於ケル價格トシ積荷ノ價格ハ陸揚ノ地及ヒ時ニ於ケル價格トス但積荷ニ付テハ其價格中ヨリ減失ノ場合ニ於テ支拂フコトヲ要セサル運送賃其他ノ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第六百四十四條 前二條ノ規定ニ依リ共同海損ヲ分擔スヘキ者ハ船舶ノ到達又ハ積荷ノ引渡ノ時ニ於テ現存スル價額ノ限度ニ於テノミ其責ニ任ス

第六百四十五條 船舶ニ備附ケタル武器、船員ノ給料、船員及ヒ旅客ノ食料並ニ衣類ハ共同海損ノ分擔ニ付キ其價額ヲ算入セス但此等ノ物ニ加ヘタル損害ハ他ノ利害關係人之ヲ分擔ス

第六百四十六條 船荷證券其他積荷ノ價格ヲ評定スルニ足ルヘキ書類ナクシテ船積シタル荷物又ハ屬具目錄ニ記載セサル屬具ニ加ヘタル

損害ハ利害關係人ニ於テ之ヲ分擔スルコトヲ要セス

甲板ニ積込ミタル荷物ニ加ヘタル損害亦同シ但沿岸ノ小航海ニ在リテハ此限ニ在ラス
前二項ニ掲ケタル積荷ノ利害關係人ト雖モ共同海損ヲ分擔スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

第六百四十七條 共同海損タル損害ノ額ハ到達ノ地及ヒ時ニ於ケル船舶ノ價格又ハ陸揚ノ地及ヒ時ニ於ケル積荷ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但積荷ニ付テハ其減失又ハ毀損ノ爲メ支拂フコトヲ要セサリシ一切ノ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第三百三十八條ノ規定ハ共同海損ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百四十八條 船荷證券其他積荷ノ價格ヲ評定スルニ足ルヘキ書類ニ積荷ノ實價ヨリ低キ價額ヲ記載シタルトキハ其積荷ニ加ヘタル損害ノ額ハ其記載シタル價額ニ依リテ之ヲ定ム
積荷ノ實價ヨリ高キ價額ヲ記載シタルトキハ其積荷ノ利害關係人ハ其記載シタル價額ニ應シテ共同海損ヲ分擔ス

前二項ノ規定ハ積荷ノ價格ニ影響ヲ及ボスヘキ事項ニ付キ虛偽ノ記載ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六百四十九條 第六百四十二條ノ規定ニ依リテ利害關係人カ共同海損ヲ分擔シタル後船舶、其屬具若クハ積荷ノ全部又ハ一部カ其所有者ニ復シタルトキハ其所有者ハ償金中ヨリ救助料及ヒ一部減失又ハ毀損ニ因リテ生シタル損害ノ額ヲ控除シタルモノヲ返還スルコトヲ要ス(改正同上)

第六百五十條 船舶カ雙方ノ船員ノ過失ニ因リテ衝突シタル場合ニ於テ雙方ノ過失ノ輕重ヲ判定スルコト能ハサルトキハ其衝突ニ因リテ生シタル損害ハ各船舶ノ所有者平分シテ之ヲ分擔ス

第六百五十一條 共同海損又ハ船舶ノ衝突ニ因リテ生シタル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス
前項ノ期間ハ共同海損ニ付テハ其計算終了ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第六百五十二條 本章ノ規定ハ船舶カ不可抗力ニ因リ發航港又ハ航海ノ途中ニ於テ碇泊ヲ爲

ス爲メニ要スル費用ニ之ヲ準用ス

第五章 海難救助(追加同上、第五章ヲ第

第六章ニ、第六章ヲ第七章ニ改正)

第六百五十二條ノ二 船舶又ハ積荷ノ全部又ハ一部カ海難ニ遭遇セル場合ニ於テ義務ナクシテ之ヲ救助シタル者ハ其結果ニ對シテ相當ノ救助料ヲ請求スルコトヲ得(追加同上)

第六百五十二條ノ三 救助料ニ付キ特約ナキ場合ニ於テ其ノ額ニ付キ争アルトキハ危險ノ程度、救助ノ結果、救助ノ爲メニ要シタル勞力及ヒ費用其他一切ノ事情ヲ斟酌シテ裁判所之ヲ定ム(同上)

第六百五十二條ノ四 海難ニ際シ契約ヲ以テ救助料ヲ定メタル場合ニ於テ其額カ著シク不相當ナルトキハ當事者ハ其増加又ハ減少ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス(同上)

第六百五十二條ノ五 救助料ノ額ハ特約ナキトキハ救助セラレタル物ノ價額ニ超ユルコトヲ得ス(同上) 先順位ノ先取特權アルトキハ救助料ノ額ハ先取特權者ノ債權額ヲ控除シタル殘額ニ超ユルコトヲ得ス(同上)

五百九十四

コトヲ得ス(同上)

第六百五十二條ノ六 數人カ共同シテ救助ヲ爲

シタル場合ニ於テ救助料分配ノ割合ニ付テハ第六百五十二條ノ三ノ規定ヲ準用ス(同上)

第六百五十二條ノ七 救助ニ從事シタル船舶カ汽船ナルトキハ救助料ノ三分ノ二、帆船ナルトキハ其二分ノ一ヲ船舶所有者ニ支拂ヒ其殘額ハ折半トシテ之ヲ船長及ヒ海員ニ支拂フコトヲ要ス(同上)

前項ノ規定ニ依リテ海員ニ支拂フヘキ金額ノ分配ハ船長之ヲ行フ此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス(同上) 前二項ノ規定ニ反スル契約ハ無効トス(同上)

第六百五十二條ノ八 船長カ前條第二項ノ規定ニ依リ救助料ノ分配ヲ爲スニハ航海ヲ終ハルマテニ分配案ヲ作り之ヲ海員ニ告示スルコトヲ要ス(同上)

第六百五十二條ノ九 海員カ前條ノ分配案ニ對シテ異議ノ申立ヲ爲サントスルトキハ其告示アリタル後異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル最初

ノ港ノ管海官廳ニ之ヲ爲スコトヲ要ス(同上) 管海官廳ハ異議ヲ理由アリトスルトキハ分配案ヲ更正スルコトヲ得(同上)

第六百五十二條ノ十 船長カ分配案ノ作成ヲ怠リタルトキハ管海官廳ハ海員ノ請求ニ因リ船長ニ對シテ分配案ノ作成ヲ命スルコトヲ得(同上)

第六百五十二條ノ十一 左ノ場合ニ於テハ救助者ハ救助料ヲ請求スルコトヲ得ス(同上) 一 故意又ハ過失ニ因リテ海難ヲ惹起シタルトキ

二 正當ノ事由ニ因リテ救助ヲ拒マレタルニ拘ハラズ強ヒテ之ニ從事シタルトキ

三 救助シタル物品ヲ隱匿シ又ハ濫ニ之ヲ處分シタルトキ

第六百五十二條ノ十二 救助者ハ其債權ニ付キ救助シタル積荷ノ上ニ先取特權ヲ有ス(同上) 前項ノ先取特權ニハ船舶債權者ノ先取特權ニ

關スル規定ヲ準用ス(同上)

第六百五十二條ノ十三 船長ハ救助料ノ債務者

ニ代ハリテ其支拂ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス(同上)

救助料ニ關スル訴訟ニ於テハ船長ハ自ラ原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得但其訴ニ付キ言渡シタル判決ハ救助料ノ債務者ニ對シテモ其效力ヲ有ス(同上)

第六百五十二條ノ十四 積荷ノ所有者ハ救助セラレタル物ヲ以テ救助料ヲ支拂フ義務ヲ負フ(同上)

第六百五十二條ノ十五 積荷ノ上ニ存スル先取特權ハ債務者カ其積荷ヲ第三取得者ニ引渡シタル後ハ其積荷ニ付キ之ヲ行フコトヲ得ス(同上)

第六百五十二條ノ十六 救助料ノ請求權ハ救助ヲ爲シタル時ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス(同上)

第六章 保險 第六百五十三條 海上保險契約ハ航海ニ關スル事故ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ノ填補ヲ以テ其目的トス

五百九十五

海上保險契約ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外第三編第十章第一節第一款ノ規定ヲ適用ス

第六百五十四條 保險者ハ本章又ハ保險契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外保險期間中保險ノ目的ニ付キ航海ニ關スル事故ニ因リテ生シタル一切ノ損害ヲ填補スル責ニ任ス

第六百五十五條 保險者ハ被保險者カ支拂フヘキ共同海損ノ分擔額ヲ填補スル責ニ任ス但保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ負擔ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム

第六百五十六條 船舶ノ保險ニ付テハ保險者ノ責任カ始マル時ニ於ケル其價額ヲ以テ保險價額トス

第六百五十七條 積荷ノ保險ニ付テハ其船積ノ地及ヒ時ニ於ケル其價額及ヒ船積並ニ保險ニ關スル費用ヲ以テ保險價額トス

第六百五十八條 積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益又ハ報酬ノ保險ニ付テハ契約ヲ以テ保險價額ヲ定メサリシトキハ保險金額ヲ以テ保險價額トシタルモノト推定ス

五百九十六

第六百五十九條 一航海ニ付キ船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ責任ハ荷物又ハ底荷ノ船積ニ著手シタル時ヲ以テ始マル荷物又ハ底荷ノ船積ヲ爲シタル後船舶ヲ保險ニ付シタルトキハ保險者ノ責任ハ契約成立ノ時ヲ以テ始マル

前二項ノ場合ニ於テ保險者ノ責任ハ到達港ニ於テ荷物又ハ底荷ノ陸揚カ終了シタル時ヲ以テ終ル但陸揚カ不可抗力ニ因ラスシテ遲延シタルトキハ其終了スヘカリシ時ヲ以テ終ル

第六百六十條 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ責任ハ其積荷カ陸地ヲ離レタル時ヲ以テ始マリ陸揚港ニ於テ其陸揚カ終了シタル時ヲ以テ終ル

前條第三項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百六十一條 海上保險證券ニハ第四百三條第二項ニ掲ゲタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一 船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ其船

船ノ名稱、國籍並ニ種類、船長ノ氏名及ヒ發航港、到達港又ハ寄航港ノ定アルトキハ其港名

二 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ船舶ノ名稱、國籍並ニ種類、船積港及ヒ陸揚港

第六百六十二條 保險者ノ責任カ始マル前ニ於テ航海ヲ變更シタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

保險者ノ責任カ始マリタル後航海ヲ變更シタルトキハ保險者ハ其變更後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更力保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リタルトキハ此限ニ在ラス

到達港ヲ變更シ其實行ニ著手シタルトキハ保險シタル航路ヲ離レサルトキト雖モ航海ヲ變更シタルモノト看做ス

第六百六十三條 被保險者カ發航ヲ爲シ若クハ航海ヲ繼續スルコトヲ怠リ又ハ航路ヲ變更シ其他著シク危險ヲ變更若クハ増加シタルトキハ保險者ハ其變更又ハ増加以後ノ事故ニ付キ

責任ヲ負フコトナシ但其變更又ハ増加カ事故ノ發生ニ影響ナシ及ホササリシトキ又ハ保險者ノ負擔ニ歸スヘキ不可抗力若クハ正當ノ理由ニ因リテ生シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百六十四條 保險契約中ニ船長ヲ指定シタルトキト雖モ船長ノ變更ハ契約ノ效力ニ影響ヲ及ボサス

第六百六十五條 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ船舶ヲ變更シタルトキハ保險者ハ其變更以後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更力保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リタルトキハ此限ニ在ラス

第六百六十六條 保險契約ヲ爲スニ當タリ荷物ヲ積込ムヘキ船舶ヲ定メサリシ場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ其荷物ヲ船積シタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク保險者ニ對シテ船舶ノ名稱及ヒ國籍ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

保險契約者又ハ被保險者カ前項ノ通知ヲ怠リタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

五百九十七

第六百六十七條 保險者ハ左ニ掲ケタル損害又ハ費用ヲ填補スル責ニ任セス

- 一 保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵、其自然ノ消耗又ハ保險契約者若クハ被保險者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害
- 二 船舶又ハ運送貨ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ發航ノ當時安全ニ航海ヲ爲スニ必要ナル準備ヲ爲サス又ハ必要ナル書類ヲ備ヘサルニ因リテ生シタル損害
- 三 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ備船者、荷送人又ハ荷受人ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害
- 四 水先案内料、入港料、燈臺料、檢疫料其他船舶又ハ積荷ニ付キ航海ノ爲メニ出タシタル通常ノ費用

第六百六十八條 共同海損ニ非サル損害又ハ費用其計算ニ關スル費用ヲ算入セスシテ保險價額ノ百分ノ二ヲ超エサルトキハ保險者ハ之ヲ填補スル責ニ任セス

右ノ損害又ハ費用カ保險價額ノ百分ノ二ヲ超

五百九十八

エタルトキハ保險者ハ其金額ヲ支拂フコトヲ要ス
前二項ノ規定ハ當事者カ契約ヲ以テ保險者ノ負擔セサル損害又ハ費用ノ割合ヲ定メタル場合ニ之ヲ準用ス
前三項ニ定メタル割合ハ各航海ニ付キ之ヲ計算ス

第六百六十九條 保險ノ目的タル積荷カ毀損シテ陸揚港ニ到達シタルトキハ保險者ハ其積荷カ毀損シタル狀況ニ於ケル價額ノ毀損セサル狀況ニ於テ有スヘカリシ價額ニ對スル割合ヲ於テ保險價額ノ一部ヲ填補スル責ニ任ス

第六百七十條 航海ノ途中ニ於テ不可抗力ニ因リ保險ノ目的タル積荷ヲ賣却シタルトキハ其賣却ニ依リテ得タル代價ノ中ヨリ運送貨其他ノ費用ヲ控除シタルモノト保險價額トノ差ヲ以テ保險者ノ負擔トス但保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ第三百九十一條ノ適用ヲ妨ケス
前項ノ場合ニ於テ買主カ代價ヲ支拂ハサルトキハ保險者ハ其支拂ヲ爲スコトヲ要ス但其支拂ヲ爲シタルトキハ被保險者ノ買主ニ對シテ

有セサル權利ヲ取得ス

第六百七十一條 左ノ場合ニ於テハ被保險者ハ保險ノ目的ヲ保險者ニ委付シテ保險金額ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

- 一 船舶カ沈没シタルトキ
- 二 船舶ノ行方カ知レサルトキ
- 三 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキ
- 四 船舶又ハ積荷カ捕獲セラレタルトキ
- 五 船舶又ハ積荷カ官ノ處分ニ依リテ押收セラレ六個月間解放セラレサルトキ

第六百七十二條 船舶ノ存否カ六個月間分明ナラサルトキハ其船舶ハ行方ノ知レサルモノトス

保險期間ノ定アル場合ニ於テ其期間カ前項ノ期間内ニ經過シタルトキト雖モ被保險者ハ委付ヲ爲スコトヲ得但船舶カ保險期間内ニ滅失セザリシコトノ證明アリタルトキハ其委付ハ無効トス

第六百七十三條 第六百七十一條第三號ノ場合ニ於テ船長カ遲滞ナク他ノ船舶ヲ以テ積荷ノ運送ヲ繼續シタルトキハ被保險者ハ其積荷ヲ

委付スルコトヲ得ス

第六百七十四條 被保險者カ委付ヲ爲サント欲スルトキハ六個月内ニ保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ第六百七十一條第一號、第三號及ヒ第四號ノ場合ニ於テハ被保險者カ其事由ヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス
再保險ノ場合ニ於テハ第一項ノ期間ハ其被保險者カ自己ノ被保險者ヨリ委付ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第六百七十五條 委付ハ單純ナルコトヲ要ス

委付ハ保險ノ目的ノ全部ニ付テ之ヲ爲スコトヲ要ス但委付ノ原因カ其一部ニ付テ生シタルトキハ其部分ニ付テノミ之ヲ爲スコトヲ得
保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ委付ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ應シテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百七十六條 保險者カ委付ヲ承認シタルトキハ後日其委付ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第六百七十七條 保險者ハ委付ニ因リ被保險者カ保險ノ目的ニ付キ有セル一切ノ權利ヲ取得

ス
 被保險者カ委付ヲ爲シタルトキハ保險ノ目的ニ關スル證書ヲ保險者ニ交付スルコトヲ要ス
第六百七十八條 被保險者ハ委付ヲ爲スニ當テリ保險者ニ對シ保險ノ目的ニ關スル他ノ保險契約並ニ其負擔ニ關スル債務ノ有無及ヒ其種類ヲ通知スルコトヲ要ス
 保險者ハ前項ノ通知ヲ受クルマテハ保險金額ノ支拂ヲ爲スコトヲ要セス
 保險金額ノ支拂ニ付キ期間ノ定アルトキハ其期間ハ保險者カ第一項ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス
第六百七十九條 保險者カ委付ヲ承認セサルトキハ被保險者ハ委付ノ原因ヲ證明シタル後ニ非サレハ保險金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ス

第七章 船舶債權者

第六百八十條 左ニ掲ケタル債權ヲ有スル者ハ船舶、其屬具及ヒ未タ受取ラサル運送貨ノ上ニ先取特權ヲ有ス
 一 船舶並ニ其屬具ノ競賣ニ關スル費用及ヒ競賣手續開始後ノ保存費

二 最後ノ港ニ於ケル船舶及ヒ其屬具ノ保存費
 三 航海ニ關シ船舶ニ課シタル諸稅
 四 水先案内料及ヒ挽船料
 五 救助料及船舶ノ負擔ニ屬スル共同海損(改正同上)
 六 航海繼續ノ必要ニ因リテ生シタル債權
 七 雇傭契約ニ因リテ生シタル船長其他ノ船員ノ債權
 八 船舶カ其賣買又ハ製造ノ後未タ航海ヲ爲ササル場合ニ於テ其賣買又ハ製造並ニ修裝ニ因リテ生シタル債權及ヒ最後ノ航海ノ爲メニスル船舶ノ修裝、食料並ニ燃料ニ關スル債權
 九 第二號、第四號乃至第六號及ヒ前號ニ掲ケタルモノヲ除ク外第五百四十四條ノ規定ニ依リ委付ヲ許シタル債權
第六百八十一條 船舶債權者ノ先取特權ハ運送貨ニ付テハ其先取特權ノ生シタル航海ニ於ケル運送貨ノ上ニノミ存在ス
第六百八十二條 船舶債權者ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第六

百八十條ニ掲ケタル順序ニ從フ但同條第四號乃至第六號ノ債權間ニ在リテハ後ニ生シタルモノ前ニ生シタルモノニ先ツ
 同一順位ノ先取特權者數人アルトキハ各其債權額ノ割合ニ應ジテ辨濟ヲ受ク但第六百八十一條第四號乃至第六號ノ債權カ同時ニ生セザリシ場合ニ於テハ後ニ生シタルモノ前ニ生シタルモノニ先ツ
 先取特權カ數回ノ航海ニ付テ生シタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ拘ハラス後ノ航海ニ付テ生シタルモノ前ノ航海ニ付テ生シタルモノニ先ツ
第六百八十三條 船舶債權者ノ先取特權ト他ノ先取特權ト競合スル場合ニ於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ
第六百八十四條 船舶所有者カ其船舶ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ讓渡人ハ其讓渡ヲ登記シタル後先取特權者ニ對シ一定ノ期間内ニ其債權ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ一个月ヲ下ルコトヲ得ス
 先取特權者カ前項ノ期間内ニ其債權ノ申出ヲ爲サザリシトキハ其先取特權ハ消滅ス

第六百八十五條 船舶債權者ノ先取特權ハ其發生後一年ヲ經過シタルトキハ消滅ス
第六百八十六條 登記シタル船舶ハ之ヲ以テ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得船舶ノ抵當權ハ其屬具ニ及ブ
 船舶ノ抵當權ニハ不動産ノ抵當權ニ關スル規定ヲ準用ス
第六百八十七條 船舶ノ先取特權ハ抵當權ニ先チテ之ヲ行フコトヲ得
第六百八十八條 登記シタル船舶ハ之ヲ以テ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ス
第六百八十九條 本章ノ規定ハ製造中ノ船舶ニ之ヲ準用ス
 此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三十二年六月勅令第三百三十三號ヲ以テ同年六月十六日ヨリ施行ス)明治二十三年法律第三十二號商法ハ第三編ヲ除ク外此法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
 明治四十四年(五月)法律第七十三號(商法中改正法律)ノ附則

(明治四十四年十月一日ヨリ施行ス)

第一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第二條 本法ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ其施行前ニ生シタル事項ニモ亦之ヲ適用ス但從前ノ規定ニ依リテ生シタル效力ヲ妨ケス
 第三條 本法施行前ニ會社カ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ第四十四條ノ三第二項及ヒ第三項ノ規定ニ依ルコトヲ要セス
 第四條 第九十一條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ清算終了ノ登記ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セス
 第五條 第九十九條ノ三第二項及ヒ第九十九條ノ四乃至第九十九條ノ六ノ規定ハ本法施行前ニ提起シタル設立無効ノ訴ニモ亦之ヲ適用ス但其訴ニ付キ爲シタル判決カ本法施行前ニ確定シタルトキハ此限ニ在ラス
 第六條 前二條ノ規定ハ合資會社ニ之ヲ準用ス
 第七條 本法施行前ニ株式會社ノ發起人カ定款ヲ作りタル場合ニ於テハ其設立ニハ從前ノ規定ヲ適用ス
 前項ノ規定ハ第二百二十六條ノ二及ヒ第四百四十二條ノ二乃至第四百四十二條ノ四ノ規定ノ適用

チ妨ケス
 第八條 第五百五十二條第三項及ヒ第五百五十三條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ第五百五十二條第一項ノ催告ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス
 第九條 第六十三條及ヒ第六十三條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ生シタル事由ニ基キ其施行後ニ決議無効ノ訴ヲ提起スル場合ニモ亦之ヲ適用ス
 第十條 第九十九條ノ三第二項、第九十九條ノ四及ヒ第六十三條ノ四ノ規定ハ本法施行前ニ提起シタル決議無効ノ訴ニモ亦之ヲ適用ス但其訴ニ付キ爲シタル判決カ本法施行前ニ確定シタルトキハ此限ニ在ラス
 第十一條 前二條ノ規定ハ創立總會ノ決議無効ノ訴ニ之ヲ準用ス
 第六十三條ノ三ノ規定ハ本法施行前ニ提起シタル創立總會ノ決議無効ノ訴ニモ亦之ヲ適用ス
 第十二條 第六十七條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ選任シタル取締役又ハ監査役ノ任務カ本法施行後ニ終了シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス
 第十三條 第七十七條及ヒ第八十六條ノ規

定ハ本法施行前ニ選任シタル取締役又ハ監査役ノ行爲カ本法施行後ニ在リタル場合ニモ亦之ヲ適用ス
 第十四條 本法施行前ニ株式會社カ社債募集ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ從前ノ規定ニ從ヒテ其募集ヲ爲スコトヲ得但未タ社債募集ノ公告ヲ爲ササルトキハ第二十三條、第二十三條ノ二、第二百四條ノ二及ヒ第二百七條ノ二ノ規定ヲ適用ス
 第十五條 本法施行前ニ株式會社カ資本増加ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ從前ノ規定ニ從ヒテ其増加ヲ爲スコトヲ得
 第十六條 第二百二十條ノ二乃至第二百二十條ノ五ノ規定ハ本法施行前ニ資本減少ノ決議ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス但株主總會ノ決議ニ反スルトキハ此限ニ在ラス
 第十七條 第二百二十條ノ二乃至第二百二十條ノ五ノ規定ハ券面額五十圓未満ノ株式ヲ併合スル場合ニ之ヲ準用ス
 第十八條 本法施行前ニ株式會社カ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テモ株主ハ其記名株ヲ讓渡スコトヲ得

第十九條 附則第十六條ノ規定ハ會社ノ合併ニ因ル株式併合ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第二百二十五條第三項ノ規定ハ本法施行前ニ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス
 第二十條 本法施行前ニ株式會社ノ設立ノ無効ナルコトヲ發見シタル場合ニ於テ裁判所カ未タ清算人ヲ選任セザリシトキハ設立無効ノ主張ニ付テハ本法ノ規定ヲ適用ス
 第二十一條 附則第九條、第十條、第十二條及ヒ第十三條ノ規定ハ株式會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第二十二條 附則第四條及ヒ第五條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス
 第二十三條 前十六條ノ規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス
 第二十四條 本法施行前ニ會社ニ關スル從前ノ罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ本法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス
 第二十五條 第四百八十七條乃至第四百八十八條ノ二及ヒ第四百八十八條ノ四ノ規定ハ本法施行前ニ第一ノ質入裏書アリタル質入證券ノ所持人カ本法施行後ニ支拂ヲ求ムル爲メ其證

券ヲ呈示スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第二十六條 質入證券所持人ノ裏書人ニ對スル請求權ハ寄託物ニ付キ辨濟ヲ受ケタル日カ本法施行前ニ在リタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ六個月本法施行後ニ在ル場合ニ於テハ辨濟ヲ受ケタル日ヨリ六個月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

質入證券裏書人ノ其前者ニ對スル請求權ハ本法施行前ニ償還ヲ爲シタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ六個月本法施行後ニ償還ヲ爲シタル場合ニ於テハ其償還ノ日ヨリ六個月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

本法施行前ニ進行ヲ始メタル時効ノ殘期カ其施行ノ日ヨリ起算シテ六個月ヨリ短キトキハ時効ハ其殘期ヲ經過スルニ因リテ完成ス

第二十七條 第三百六十七條ノ三、第三百八十条ノ二及ヒ第三百八十八條ノ三ノ規定ハ本法施行前ニ作リタル預證券又ハ質入證券ニモ亦之ヲ適用ス但其證券ニ別段ノ意思表示アルトキハ此限ニ在ラス

第二十八條 第四百十七條ノ規定ハ本法施行前ニ生シタル保險料返還ノ義務ニ付キ其施行後

六百四

ニ時効カ進行ヲ始ムル場合ニモ亦之ヲ適用ス
本法施行前ニ進行ヲ始メタル時効ノ殘期カ其施行ノ日ヨリ起算シテ二年ヨリ長キトキハ時効ハ其施行ノ日ヨリ二年ヲ經過スルニ因リ二年ヨリ短キトキハ其殘期ヲ經過スルニ因リテ完成ス

前二項ノ規定ハ第四百三十二條ノ二ノ義務ニ之ヲ適用ス

第二十九條 第四百二十八條乃至第四百二十八條ノ四ノ規定ハ本法施行前ニ爲シタル保險契約ニハ之ヲ適用セズ

第三十條 本法施行前ニ振出シタル爲替手形ニ付キ其施行後ニ引受拒絶證書ヲ作ラシメタル場合ニ於テハ擔保請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要セス本法施行後ニ擔保ヲ供セサル爲メ拒絶證書ヲ作ラシメタル場合亦同シ

第三十一條 第四百八十七條乃至第四百八十八條ノ二、第四百八十八條ノ四及ヒ第四百八十九條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ振出シタル爲替手形ニ付キ所持人カ本法施行後ニ支拂ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スル場合ニモ亦之ヲ適用ス
第三十二條 第五百十五條乃至第五百十五條ノ

五及ヒ第五百十七條第一項ノ規定ハ本法施行前ニ振出シタル爲替手形ニ付キ其施行後ニ拒絶證書ヲ作ル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第三十三條 前三條ノ規定ハ約束手形ニ之ヲ適用ス

第三十四條 第五百三十三條ノ三及ヒ第五百三十四條第二項ノ規定ハ本法施行前ニ振出シタル小切手ニ付キ所持人カ本法施行後ニ支拂ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

附則第三十一條及第三十二條ノ規定ハ小切手ニ之ヲ適用ス

第三十五條 第五百四十四條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ生シタル原因ニ基キ其施行後ニ委付ヲ爲ス場合ニモ亦之ヲ適用ス

◎商法施行法

(三十二年三月七日法律第四十九號)

第一條 商法施行前ニ生シタル事項ニ付テハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外舊法ノ規定ヲ適用ス

第二條 商事ニ關スル特別ノ法令ハ商法施行ノ

後ト雖モ仍ホ其效力ヲ存ス

第三條 特別ノ法令中舊商法ノ規定ニ依ルヘキモノト定メタル場合ニ付テハ舊商法ハ商法、施行ノ後ト雖モ仍ホ其效力ヲ存ス

第四條 商法施行前ヨリ商業ヲ營ム未成年者、妻及ヒ後見人ハ商法ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五條 商法施行前ニ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ許サレタル未成年者又ハ妻ハ商法施行ノ日ヨリ其會社ノ業務ニ關シ之ヲ能力者ト看做ス

第六條 商法第七條第二項ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ定メタル制限ニモ亦之ヲ適用ス

第七條 商法第八條ニ定メタル小商人ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 商法施行前ニ舊法ノ規定ニ依リテ爲シタル登記ハ商法ノ規定ニ從ヒテ爲シタルモノト同一ノ效力ヲ有ス

第九條 商法施行前ニ登記シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其事項カ消滅シタル場合ニ於テ商法施行前ニ登記ヲ爲ササリシトキハ當事者ハ其

六百五

施行ノ後遲滞ナク登記ヲ爲スコトヲ要ス
第十條 商法施行前ニ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ノ社名ハ商法ノ規定ニ從ヒテ登記シタル商號ト同一ノ效力ヲ有ス

第十一條 商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ其社名中ニ合名會社ナル文字ヲ用井ザルモノハ其施行ノ日ヨリ三個月内ニ商法第十七條ノ規定ニ從ヒテ其社名ヲ改メ且其登記ヲ爲スコトヲ要ス

會社ノ業務ヲ執行スル社員カ前項ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラレ
第十二條 商法第十八條ノ規定ハ商法施行前ヨリ使用スル商號ニハ之ヲ適用セス

第十三條 商法第十九條ノ規定ハ舊商法施行前ヨリ使用スル商號ニハ之ヲ適用セス
商法施行後ニ商號ノ登記ヲ爲シタル者ト雖モ舊商法施行前ヨリ同一又ハ類似ノ商號ヲ使用スル者ニ對シテハ商法第二十條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス

第十四條 商法第十九條、第二十條第二項、第二十二條第一項及ヒ第二百八十九條第三項ニ掲

ケタル市町村ハ市制又ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ從來ノ町村其他之ニ類スル區域トシ東京市、京都市及ヒ大阪市ニ在リテハ其各區トス
第十五條 商法施行前ニ東京市又ハ大阪市ニ於テ商號ノ登記ヲ爲シタル者ハ商法施行ノ日ヨリ六個月内ニ其市ニ存スル他ノ登記所ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ニ定メタル登記ヲ爲サザリシ者ハ其登記ヲ爲サザリシ登記所ノ管轄區域内ニ於テハ商法第二十條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス
第十六條 商法第二十二條第二項ノ適用ニ付テハ北海道ハ之ヲ一府縣ト看做ス

第十七條 商法第二十八條ノ規定ハ商法施行前ニ作リタル商業帳簿ニモ亦之ヲ適用ス
第十八條 代務人ニハ商法施行ノ日ヨリ支配人ニ關スル規定ヲ適用ス

第十九條 商法施行前ヨリ支配人又ハ支配役ト稱スル者カ商法第三十條ニ定メタル權利ヲ有セサルトキハ主人ハ商法施行ノ日ヨリ三個月内ニ其名稱ヲ改ムルコトヲ要ス
主人カ前項ノ期間内ニ支配人又ハ支配役ノ名

定款ヲ作り且商法第五十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス
第二十五條 商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル合名會社ハ商法施行ノ日ヨリ一ヶ月内ニ本店ノ所在地ニ於テハ支店、支店ノ所在地ニ於テハ本店並ニ他ノ支店及ヒ社員ノ出資ノ種類並ニ財産ヲ目的トスル出資ノ價格ヲ登記スルコトヲ要ス

第二十六條 商法第五十一條第二項、第三項及ヒ第五十二條ノ規定ハ合名會社カ設立ノ登記ヲ爲シタル後商法施行前ニ支店ヲ設ケ又ハ其本店若クハ支店ヲ移轉シタル場合ニ之ヲ適用ス但登記期間ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス
第二十七條 會社ノ業務ヲ執行スル社員カ前二條ノ規定ニ依リ爲スヘキ登記ヲ怠リタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラレ
第二十八條 商法第六十條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ舊商法第四十條ノ規定ニ反シテ爲シタル行爲ニ之ヲ適用ス

第二十九條 商法第七十一條ノ規定ハ商法施行前ニ設立シタル合名會社ニハ之ヲ適用セス

稱ヲ改メサリシトキハ其者ハ商法第三十條ニ定メタル權利ヲ有スルモノト看做ス
第二十條 商法第三十二條第三項ノ規定ハ舊商法第五十條ノ規定ニ反シテ爲シタル行爲ニ之ヲ適用ス但一年ノ期間ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

主人カ商法施行前ニ前項ノ行爲ヲ知リタルトキハ二週間ノ期間モ亦其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス
第二十一條 商法中代理商ニ關スル規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ定メタル代理商ニモ亦之ヲ適用ス

第二十二條 商法中會社ニ關スル規定ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ設立シタル會社ニモ亦之ヲ適用ス
第二十三條 商法第四十七條ニ定メタル期間ハ商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ニ付テハ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十四條 商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ未タ設立ノ登記ヲ爲ササルモノハ商法施行ノ日ヨリ一ヶ月内ニ商法ノ規定ニ從ヒテ

第三十條 合名會社ノ目的タル事業ノ成功カ商
法施行前ニ不能ト爲リタルトキハ裁判所カ解
散ヲ命シタル場合ヲ除ク外其會社ハ商法ノ施
行ト同時ニ解散シタルモノト看做ス

第三十一條 合名會社カ商法施行前ニ解散シタ
ル場合ニ於テ未タ清算人ヲ選任セサルトキハ
其施行ノ日ヨリ二週間内ニ商法第七十六條ノ
規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十二條 合名會社カ商法施行前ニ解散シタ
ル場合ニ於テ既ニ清算人ヲ選任シタルトキハ
其施行ノ日ヨリ二週間内ニ商法第七十六條及
ヒ第九十條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ
要ス

第三十三條 商法第七十八條第二項ノ規定ニ依
リ爲スヘキ公告ハ裁判所カ爲スヘキ登記事項
ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要
ス

第三十四條 合名會社カ商法施行前ニ解散シタ
ル場合ニ於テ未タ清算人ヲ選任セサルトキハ
總社員ノ同意ヲ以テ會社財產ノ處分方法ヲ定
ムルコトヲ得此場合ニ於テハ商法施行ノ日ヨ
リ二週間内ニ財產目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ル

コトヲ要ス
商法第七十八條第二項、第七十九條及ヒ第八
十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條 合名會社カ商法施行前ニ解散ノ登
記ヲ爲シタル場合ニ於テハ清算ハ舊商法ノ規
定ニ依リテ之ヲ爲ス

第三十六條 合名會社ニ於テ商法施行前ニ清算
人ノ解任又ハ變更ノリタルトキハ其施行ノ日
ヨリ二週間内ニ商法第九十七條ノ規定ニ從ヒ
テ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十七條 商法第三百三條ノ規定ハ商法施行前
ニ解散シタル合名會社ニモ亦之ヲ適用ス

第三十八條 商法施行前ニ設立シタル合資會社
ニハ舊商法ノ規定ヲ適用ス

第二十三條、第二十五條乃至第三十二條及ヒ
前三條ノ規定ハ前項ノ會社ニ之ヲ準用ス

第三十九條 商法施行前ニ設立シタル合資會社
ハ其取引ニ關スル一切ノ書類ニ商法施行前ニ
設立シタル會社タルコトヲ示スコトヲ要ス
業務擔當社員カ前項ノ規定ニ違反シタルトキ
ハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラレ
第四十條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ハ

舊商法第五百十一條第二項ノ規定ニ從ヒ其組
織ヲ變更シテ之ヲ商法ニ定メタル合資會社、
株式會社又ハ株式合資會社ト爲スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ總會ハ直チニ新會社ノ組
織ニ必要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス

第四十一條 商法第七十八條、第七十九條第一
項、第二項及ヒ第二百五十四條ノ規定ハ前條
ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十二條 商法施行前ニ設立シタル合資會社
ハ商法ノ規定ニ從ヒテ合併ヲ爲スコトヲ得但
合併後存續シ又ハ合併ニ因リテ設立スル會社
ハ商法ニ定メタル種類ノ一タルコトヲ要ス

合併ノ決議ハ舊商法第五百十一條第二項ノ規
定ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條 商法施行前ニ發起ノ認可ヲ得タル
株式會社ニ於テハ其發起人ハ七人以上ナルコ
トヲ要セス

二從ヒテ會社ノ設立ヲ爲スコトヲ得但商法ノ
規定ニ從ヒテ定款ヲ作ルコトヲ要ス

第四十六條 商法施行前ニ創業總會ニ於テ定款
ヲ確定シタル場合ニ於テハ商法ノ規定ニ從ヒ
テ其定款ヲ變更スルコトヲ要ス

第四十七條 商法第三百三十條ノ規定ハ前二條ノ
場合ニモ亦之ヲ適用ス

第四十八條 商法第六十三條第一項及ヒ第二
項ノ規定ハ舊商法ノ規定ニ依リテ招集シタル
創業總會ノ決議ニ之ヲ準用ス但同條第二項ノ
期間ハ商法施行前ニ決議ヲ爲シタル場合ニ於
テハ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第四十九條 第四十五條ノ場合ニ於テ商法施行
前ニ株式總數ノ引受アリタルトキハ其施行ノ
日ヨリ商法施行後ニ株式總數ノ引受アリタル
トキハ其日ヨリ六個月内ニ發起人カ創業總會
ヲ招集セサルトキハ株式申込人ハ其申込ヲ取
消スコトヲ得

第五十一條 商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル株式會社ニシテ其定款ニ商法第二百十條第一號乃至第七號ニ掲ケタル事項ヲ定メサルモノハ商法施行ノ日ヨリ三個月内ニ其定款ヲ變更スルコトヲ要ス

第五十二條 商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル株式會社ハ商法施行ノ日ヨリ三個月内ニ本店ノ所在地ニ於テハ支店、支店ノ所在地ニ於テハ本店並ニ他ノ支店及ヒ會社カ公告ヲ爲ス方法並ニ監査役ノ氏名、住所ヲ登記スルコトヲ要ス

第五十三條 商法施行前ニ設立シタル株式會社カ登記シタル事項中ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テ商法施行前ニ登記ヲ爲サザリシトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十四條 取締役カ前三條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラ

第五十五條 商法施行前ニ設立シタル株式會社ニ於テ株式ノ金額カ商法第四百十五條第二項ノ規定ニ反スルモ舊商法及ヒ舊商法施行條例ノ規定ニ反セサル場合ニ於テハ定款ノ定ムル所ニ依ルコトヲ得商法施行後ニ新株ヲ發行スルトキ亦同シ

第五十六條 商法中株券ニ關スル規定ハ商法施行前ニ發行シタル假株券ニモ亦之ヲ適用ス

第五十七條 商法施行前ニ發行シタル株券及ヒ假株券ハ商法第四百十八條又ハ第二百十八條ノ規定ニ違フモノナク改ムルコトヲ要セス但商法施行後ニ株金ノ拂込ヲ爲シタル場合ニ於テハ前ニ拂込ミタル金額及ヒ新ニ拂込ミタル金額ナク假株券ニ記載スルコトヲ要ス

第五十八條 舊商法第二百十二條乃至第二百十五條ノ規定ハ商法施行前ニ株金拂込ノ催告アリタル場合ニ限リ之ヲ適用ス

第五十九條 商法第五百十三條第二項乃至第四項ノ規定ハ商法施行前ニ株式ヲ讓渡シタル者ニシテ舊商法第八十二條ノ規定ニ依リ擔保

義務ナキ者ニハ之ヲ適用セス

第六十條 法令ノ規定ニ依リ日本人ノミチ以テ組織スヘキ株式會社及ヒ日本人ノミチ以テ組織スルコトヲ條件トシテ特別ノ權利ヲ有スル株式會社ハ無記名式ノ株券ヲ發行スルコトヲ得ス若シ之ニ違反シタルトキハ其株券ハ無効トシ最後ノ記名株主ヲ以テ株主トス

第六十一條 舊商法施行前ニ設立シタル株式會社ニ於テハ株主ノ議決權ノ制限カ商法第六百六十二條ノ規定ニ反スルモ定款ノ定ムル所ニ依ルコトヲ得但商法施行後ニ其制限ヲ變更スル場合ハ此限ニ在ラス

第六十二條 商法第六百六十三條ノ規定ハ株主總會カ商法施行前ニ決議ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス但同條第二項ノ期間ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第六十三條 商法第六十七條但書ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル取締役及ヒ監査役ニハ之ヲ適用セス

第六十四條 商法施行前ニ選任シタル取締役又ハ監査役ト雖モ其禁治產ニ因リテ退任ス

第六十五條 商法施行前ニ選任シタル取締役ハ其施行ノ後遲滞ナク定款ニ定メタル員數ノ株券ヲ監査役ニ供託スルコトヲ要ス

第六十六條 商法施行前ニ設立シタル株式會社ニ於テ其施行後ニ株金ノ拂込アリタルトキハ取締役ハ其拂込ノ年月日ヲ株主名簿ニ記載スルコトヲ要ス

第六十七條 商法施行前ニ設立シタル株式會社ノ取締役ハ其施行ノ後遲滞ナク社債ノ總額及ヒ其償還ノ方法ヲ社債原簿ニ記載スルコトヲ要ス

第六十八條 株式會社カ商法施行前ニ其資本ノ半額ヲ失ヒタル場合ニ於テハ取締役ハ商法施行ノ後遲滞ナク株主總會ヲ召集シテ之ヲ報告スルコトヲ要ス

第六十九條 商法施行前ニ會社財產ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テハ取締役ハ商法施行ノ後遲滞ナク破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

ルトキハ五圓以上百圓以下ノ過料ニ處セラ
第七十條 商法第七十五條ノ規定ハ商法施行
前ニ選任シタル取締役ニハ之ヲ適用セス
第七十一條 舊商法第八十九條ノ規定ハ商法
施行前ニ選任シタル取締役ノミニ之ヲ適用ス
第七十二條 商法施行前ニ舊商法第二百二十八
條又ハ第二百二十九條ノ規定ニ依リテ提起シ
タル訴ニハ商法ノ規定ヲ適用セス
第七十三條 商法施行前ニ選任シタル監査役ハ
其任期カ一年ヨリ長キトキト雖モ其任期間在
任ス
第七十四條 商法第九十條ニ掲ケタル書類ハ
商法施行前ニ總會招集ノ通知ヲ發シタル場合
ニ限リ會日マテニ之ヲ提出スルヲ以テ足ル
第七十五條 商法第九十六條ノ規定ハ商法施
行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シ
タル株式會社カ其登記後二年以上開業ヲ爲ス
コト能ハサルモノト認ムル場合ニモ亦之ヲ適
用ス
裁判所カ定款ノ規定ヲ認可シタルトキハ取締
役ハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ
其登記ヲ爲スコトヲ要ス

取締役カ前項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ意
シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處
セラ
第七十六條 明治二十三年法律第六十號ハ商法
施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
第七十七條 株式會社カ商法施行前ニ債券發行
ノ認許ヲ得タル場合ニ於テハ舊法ノ規定ニ依
リテ其募集ヲ完了スルコトヲ得
第七十八條 商法第二百四條第一項ノ規定ハ株
式會社カ商法施行前ニ債券發行ノ認許ヲ得タ
ル場合ニハ之ヲ適用セス
第七十九條 株式會社カ商法施行前ニ債券發行
ノ認許ヲ得タル場合ニ於テ一時ニ全額ノ拂込
ヲ爲サシメサルトキハ第一回ノ拂込アリタル
後二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ拂
込ミタル金額及ヒ商法第七十三條第三號乃
至第六號ニ掲ケタル事項ヲ登記スルコトヲ要
ス
第八十條 商法施行前ニ社債ノ全額又ハ一部ノ
拂込アリタルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内
ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ拂込ミタル金
額及ヒ商法第七十三條第三號乃至第六號ニ

掲ケタル事項ヲ登記スルコトヲ要ス
第八十一條 商法施行前ニ發行シタル債券ハ商
法第二百五條ノ規定ニ違フモ之ヲ改ムルコト
ヲ要セス
第五十七條但書ノ規定ハ債券ニ之ヲ適用ス
第八十二條 商法第二百九條第二項ノ規定ハ商
法施行前ニ假決議ヲ爲シテ未タ其通知ヲ發セ
サル場合ニモ亦之ヲ適用ス
第八十三條 商法第二百九條第四項ノ規定ハ株
式會社カ商法施行前ニ定款變更ノ決議又ハ假
決議ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セス
第八十四條 株式會社カ商法施行前ニ資本ノ増
加若クハ減少ノ決議又ハ假決議ヲ爲シタル場
合ニ於テハ舊商法ノ規定ニ依リテ其増加又ハ
減少ヲ爲スコトヲ得
商法第二百二十八條乃至第三百十條ノ規定ハ前
項ノ場合ニ之ヲ適用ス
第八十五條 商法施行前ニ爲シタル決議又ハ假
決議ニ依リテ資本ヲ増加シタル場合ニ於テ商
法施行前ニ新株ニ付キ拂込ミタル株金額ノ登
記ヲ爲ササリシトキハ其施行ノ日ヨリ商法施
行後ニ拂込アリタルトキハ其日ヨリ二週間内

ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲ス
コトヲ要ス
第八十六條 株式會社カ商法施行前ニ解散シタ
ル場合ニ於テ未タ解散ノ決議ヲ爲ササルトキ
ハ取締役ハ商法施行ノ後遲滞ナク株主ニ對シ
テ解散ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス
第八十七條 取締役カ前二條ノ規定ニ違反シタ
ルハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラ
第八十八條 株式會社ノ清算人ハ株主總會又ハ
裁判所カ商法施行前ニ與ヘタル訓示ヲ遵守ス
ルコトヲ要ス
第八十九條 商法施行前ニ舊商法第二百四十二
條ノ規定ニ依リテ選任シタル代人ハ商法施行
ノ後ト雖モ其權限ヲ保有ス
第九十條 第三十三條ノ規定ハ商法施行前ニ解
散シタル株式會社ノ清算人カ爲スヘキ公告ニ
之ヲ適用ス
第九十一條 第二十六條、第三十條乃至第三十
二條、第三十五條及ヒ第三十六條ノ規定ハ株
式會社ニ之ヲ適用ス
第九十二條 商法施行前ニ日本ニ支店ヲ設ケタ
ル外國會社ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ

設クルコトヲ得商法施行前ニ外國人カ日本ニ於テ設立シタル會社及ヒ組合ニ付キ亦同シ
第九十三條 商法施行前ニ舊法中會社ニ關スル罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ商法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス

第九十四條 (消滅三十三年法律第六十四號)
第九十五條乃至第九十六條 (削除三十三年法律第六十九號第三條)

第九十七條 明治十年第六十六號布告利息制限法第五條ノ規定ハ商事ニハ之ヲ適用セズ

第九十八條 商法施行前ニ設定シタル質權ノ實行ニ付テハ別段ノ意思表示アリタル場合ヲ除ク外競賣法ノ規定ヲ適用ス但取引所ノ相場アル有價證券其他ノ商品ニ在リテハ執達吏ハ取引所ニ於テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第九十九條 商法施行前ニ發行シタル指圖證券及ヒ無記名證券ニハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外舊商法ノ規定ヲ適用ス但民法施行法第三十條、第三十一條及ヒ第三十三條ノ準用ヲ妨ケズ

第一百零九條 商法施行前ニ發行シタル指圖證券及ヒ無記名證券ニハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外舊商法ノ規定ヲ適用ス但民法施行法第三十條、第三十一條及ヒ第三十三條ノ準用ヲ妨ケズ

六百十四

第二百十條 商法第二百八十一條ノ規定ハ商法施行前ニ發行シタル指圖證券及ヒ無記名證券ニモ亦之ヲ適用ス

第二百十一條 商法第二百九十九條ノ規定ハ商法施行前ニ約シタル匿名組合ニモ亦之ヲ適用ス

第二百二十二條 湖川、港灣及ヒ沿岸小航海ノ範圍ハ遞信大臣之ヲ定ム

第二百二十三條 手形ノ所持人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ支拂拒絕證書ノ作成カ商法施行前ニ在リタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ支拂拒絕證書ノ作成カ商法施行後ニ在リタル場合ニ於テハ其作成ノ日ヨリ六個月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

裏書人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ商法施行前ニ償還ヲ爲シタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ商法施行後ニ償還ヲ爲シタル場合ニ於テハ其日ヨリ六個月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

商法施行前ニ進行ヲ始メタル時効ノ殘期カ商法施行ノ日ヨリ起算シテ六個月ヨリ短キトキハ時効ハ其殘期ヲ經過スルニ因リテ完成ス

第二百二十四條 明治十九年法律第二號公證人規則第二十八條ノ規定ハ公證人カ拒絕證書ヲ作ル場合ニハ之ヲ適用セズ

第二百五條 外國ニ於テ爲シタル手形行爲ノ要件ハ行爲地ノ法律ニ依ル

前項ノ規定ニ拘ハラズ外國ニ於テ爲シタル手形行爲カ日本ノ法律ニ定メタル要件ヲ具備スルトキハ外國ノ法律ニ依レハ要件ヲ具備セサルトキト雖モ爾後日本ニ於テ爲シタル手形行爲ハ有效トス日本人カ外國ニ於テ日本人ニ對シテ爲シタル手形行爲カ日本ノ法律ニ定メタル要件ヲ具備スルトキ亦同シ

第二百二十六條 外國ニ於テ手形上ノ權利ヲ行使又ハ保全スル爲メニ爲ス行爲ノ方式ハ行爲地ノ法律ニ依ル

第二百二十七條 商法第五百五十二條第三項ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル船舶管理人ニモ亦之ヲ適用ス

商法第五百五十三條ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ選任シタル船舶管理人ニモ亦之ヲ適用ス

第二百二十七條 商法第五百五十二條第三項ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル船舶管理人ニモ亦之ヲ適用ス
商法第五百五十三條ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ選任シタル船舶管理人ニモ亦之ヲ適用ス

第二百二十八條 商法第五百五十六條ノ規定ハ商法施行前ニ爲シタル船舶ノ貸賃借ニモ亦之ヲ適用ス

第二百二十九條 商法第五百五十八條乃至第五百六十八條及ヒ第五百七十條乃至第五百七十四條ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ選任シタル船長ニモ亦之ヲ適用ス

第三百十條 商法第五百六十二條第一項第二號乃至第五號ニ掲ケタル書類ノ書式ハ遞信大臣之ヲ定ム

第三百十一條 委付ノ原因カ商法施行後ニ生シタルトキハ其施行前ニ爲シタル保險契約ニ付テモ被保險者ハ商法ノ規定ニ從ヒテ委付ヲ爲スコトヲ得

第三百十二條 船舶ノ存否カ商法施行ノ日ヨリ六個月間分明ナラサルトキハ未タ舊商法第九百六十六條第一項ノ期間ヲ經過セサルトキト雖モ其船舶ハ行方ノ知レサルモノト看做ス

第三百十三條 商法施行ノ際舊商法第九百六十九條第一項ニ定メタル三日ノ期間カ未タ滿了ニ至ラサルトキハ商法施行ノ日ヨリ三個月内ニ商法第六百七十四條ニ定メタル通知ヲ發シ

テ委付ヲ爲スコトヲ得

第三百三十四條 船舶ノ先取特權ニ關スル商法ノ規定ハ其施行前ニ發生シタル債權ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第三百三十五條 第三十三條ノ規定ハ商法第六百八十四條第一項ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ニ之ヲ適用ス

第三百三十六條 船舶ノ抵當權ニ關スル商法ノ規定ハ商法施行前ニ設定シタル抵當權ニモ亦之ヲ適用ス

第三百三十七條 民法施行法第二條、第三條、第三十條、第三十一條、第三十三條、第三十四條、第五十三條及ヒ第五十六條ノ規定ハ商事ニ之ヲ適用ス

第三百三十八條 明治二十三年法律第三十二號商法第九百七十八條ヲ左ノ如ク改ム

商人カ支拂ヲ停止シタルトキハ裁判所ハ本人又ハ債權者ノ申立ニ因リ決定ヲ以テ破産ヲ宣告ス

裁判所ハ口頭辯論ヲ經シテ裁判ヲ爲スコトヲ得此裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百三十九條 破産宣告ノ申立ヲ爲ス債權者ハ裁判所ノ定ムル所ニ從ヒ破産手續ニ必要ナル費用ヲ豫納スルコトヲ要ス

債權者カ前項ノ費用ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ破産宣告ノ申立ヲ棄却スルコトヲ得

第四百十條 本人カ破産宣告ノ申立ヲ爲シタルトキハ破産手續ニ必要ナル費用ハ假ニ國庫ヨリ之ヲ支辨スルコトヲ要ス債權者カ破産宣告ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テ裁判所カ前條第二項ノ規定ニ依リテ其申立ヲ棄却セサルトキ亦同シ

第四百十一條 裁判所ハ破産事件ニ付キ地方裁判所又ハ區裁判所ニ法律上ノ補助ヲ求ムルコトヲ得

第四百十二條 明治二十三年法律第三十二號商法第五十一條第五號ヲ左ノ如ク改ム

第五 財産目錄、貸借對照表ノ作成若クハ支拂停止届出ノ義務ヲ怠リタルトキ又ハ裁判所ノ許可ヲ得スシテ其住地ヲ離レタルトキ

第四百十三條 明治二十三年法律第三十二號商法第五十四條ヲ左ノ如ク改ム

破産宣告ヲ受ケタル債務者ハ復權ヲ得ルニ非サレハ會社ノ無限責任社員、舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合資會社ノ業務擔當社員、株式會社ノ取締役若クハ監査役、清算人、破産管財人又ハ商業會議所ノ會員ト爲ルコトヲ得ス

第四百十四條 明治二十三年法律第三十二號商法第五十五條第三項ハ之ヲ削除ス

第四百十五條 明治二十三年法律第三十二號商法第五十九條ヲ左ノ如ク改ム

商人カ商行爲ニ因リテ生シタル債務ニ付キ自己ノ過失ナクシテ支拂ヲ中止セサルコトヲ得サルニ至リタル場合ニ於テ其債權者ノ過半數以上ノ承諾ヲ得タルトキハ營業所ノ所在地又ハ住所地ヲ管轄スル裁判所ハ一年ヲ超エサル範圍内ニ於テ支拂猶豫ヲ與フルコトヲ得

附則 第四百十六條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四百十七條 明治二十三年法律第五十九號商法施行條例ハ第二十條、第二十四條、第二十五

條、第三十五條乃至第四十五條及ヒ第四十八條乃至第五十條ヲ除ク外本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但第二十一條乃至第二十三條及ヒ第五十一條ノ規定ハ舊商法ノ規定ニ依ルヘキ場合ニ於テハ仍ホ其效力ヲ存ス

舊商法商事會社

法抄錄

(明治二十三年三月法律第三十二號)

第六章 第一節 合名會社

第一款 會社ノ設立

第七十四條 二人以上七人以下共通ノ計算ヲ以テ商業ヲ營ム爲メ金錢又ハ有價物又ハ勞力ヲ出資ト爲シテ共有資本ヲ組成シ責任其出資ニ止マラサルモノヲ合名會社ト爲ス

第七十五條 商號ニハ總社員又ハ其一人若クハ數人ノ氏ヲ用井之ニ會社ナル文字ヲ附スヘシ會社若シ現存セル他人ノ營業ヲ引受クルトキハ其舊商號ヲ續用スルコトヲ得ス

第七十六條 社員ノ退社シタル後ト雖モ從前ノ商號ヲ續用スルコトヲ得但退社員ノ氏ヲ商號

中ニ續用セントスルトキハ本人ノ承諾ヲ受ク
ルコトヲ要ス

第七十七條 會社ハ書面契約ニ因リテノミ之ヲ
設立スルトキハ其契約書ハ總社員之ニ連署
シ各自一通ヲ所持ス

右ノ規定ハ會社契約ノ變更ニ於テモ亦之ヲ遵
守ス

第七十八條 會社ハ設立後十四日內ニ本店及ヒ
支店ノ地ニ於テ其登記ヲ受ク可シ

第七十九條 登記及ヒ公告ハ可キ事項左ノ如シ

第一 合名會社ナルコト

第二 會社ノ目的

第三 會社ノ商號及ヒ營業所

第四 各社員ノ氏名、住所

第五 設立ノ年月日

第六 存立時期ヲ定メタルトキハ其時期

第七 業務擔當社員ヲ特ニ定メタルトキハ其
氏名

第八十條 前條ニ掲ケタル一箇又ハ數箇ノ事項
ニ變更ヲ生シ又ハ合意ヲ以テ變更ヲ爲シタル
トキハ七日內ニ其登記ヲ受ク可シ

第八十一條 會社ハ登記前ニ開業スルトキハ得

ス之ニ違フトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ其營業
ヲ差止ム但其命令ニ對シ即時抗告ヲ爲スコト
ヲ得

第八十二條 會社其登記ノ日ヨリ六個月內ニ開
業セサルトキハ其登記及ヒ公告ハ無効タリ

第二款 會社契約ノ變更

第八十三條 會社契約ハ總社員ノ承諾アルニ非
サレハ之ヲ變更スルトコトヲ得ス其承諾ナキト
キハ契約ノ從前ノ規定ニ從フ

第八十四條 會社契約ノ規定ニシテ會社ノ施行
セサリシモノハ社員又ハ第三者ニ對シ其效用
ヲ致サシムルコトヲ得ス

第三款 社員間ノ權利義務

第八十五條 社員間ノ權利義務ハ本法及ヒ會社
契約ニ因リテ定マルモノトス

第八十六條 會社ノ目的ニ反セサルモノ之ニ異ナ
ル業務及ヒ事項ニ付テハ業務擔當ノ任アル總
社員ノ承諾ヲ要ス

第八十七條 會社契約ノ規定ノ施行ニ關スル事
項ハ業務擔當ノ任アル社員ノ多數ヲ以テ之ヲ
決ス

第八十八條 會社ノ業務ヲ行ヒ及ヒ其利益ヲ保

衛スルニ付テハ各社員同等ノ權利ヲ有シ義務
ヲ負フ但會社契約ニ別段ノ定アルトキハ此限
ニ在ラス

第八十九條 社員ノ議決權ハ其出資ノ額ニ應シ
テ等差ヲ立ツルコトヲ得ス

第九十條 業務擔當ノ任ナキ社員ハ何時ニテモ
業務ノ實況ヲ監視シ會社ノ帳簿及ヒ書類ヲ檢
査シ且此事ニ關シ意見ヲ述フルコトヲ得

第九十一條 業務擔當ノ任アル各社員ハ代務ノ
委任又ハ解任ヲ爲ス權利アリ

第九十二條 各社員ハ會社ニ對シ正整ナル商人
ノ自己ノ事務ニ於テ爲スト同シキ勸勵注意ヲ
爲ス義務アリ其義務ニ背キ會社ニ損害ヲ生セ
シメタルトキハ之ヲ賠償スルコトヲ要ス

第九十三條 社員ノ差入レタル金錢又ハ有價物
ノ出資ハ契約ニ定メタル評價額ヲ附シテ會社
ノ財産目錄ニ記入シ會社ノ所有ニ歸ス

第九十四條 社員其負擔シタル出資ヲ差入ル
コト能ハサルトキハ除名セラレタルモノト看
做ス但總社員ノ承諾ヲ得テ他ノ出資ヲ差入ル
トキハ此限ニ在ラス

第九十五條 社員其負擔シタル出資ヲ差入レザ

ルトキハ會社ハ之ヲ除名スルト年百分ノ七ノ
利息ヲ拂ハシムルトキハ尚ホ其執レノ場合
ニ於テモ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得

第九十六條 社員ハ契約上ノ額外ニ出資ヲ増シ
又ハ損失ニ因リテ減シタル出資ヲ補充スル義
務ナシ

第九十七條 社員ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニ非サ
レハ其出資又ハ會社財産中ノ持分ヲ減スルコ
トヲ得ス

第九十八條 社員ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニ非サ
レハ第三者ヲ入社セシメ又ハ第三者ヲシテ己
レノ地位ニ代ハラシムルコトヲ得ス

社員ノ相續人又ハ承繼人ハ契約ニ於テ反對ヲ
明示セサルトキハ其社員ノ地位ニ代ハルコト
ヲ得但總社員ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ業務ヲ
擔當スルノ權利ナシ

第九十九條 社員ヨリ他人ニ爲シタル持分ノ讓
渡ハ會社及ヒ第三者ニ對シテ其效ナシ

第一百條 社員其持分ニ他人ヲ加入セシムルトキ
ハ其關係ハ共算商業組合ノ規定ニ依リテ之ヲ
定ム

第一百一條 社員カ會社ノ消費貸ヲ爲シ又ハ會社

ノ爲メニ立替金ヲ爲シタルトキハ年百分ノ七ノ年利息ヲ求ムルコトヲ得又社員カ業務施行ノ爲メ直接ニ受ケタル損失ニ付テハ其補償ヲ求ムルコトヲ得

第二百二條 會社契約ニ於テ明示ノ合意ナキトキハ社員ハ業務施行ノ勤勞ニ付キ其報酬ヲ求ムルコトヲ得然レトモ勞力ヲ出資ト爲シタル社員其負擔シタル出資外ニ爲シタル勞力ニ付テハ相當ノ報酬ヲ求ムルコトヲ得

第二百三條 社員カ會社ノ爲メニ受取りタル金錢ヲ相當ノ時日内ニ會社ニ引渡サス又ハ會社ノ金錢ヲ自己ノ用ニ供シタルトキハ會社ニ對シテ年百分ノ七ノ利息ヲ拂ヒ且如何ナル損害ヲモ賠償スル義務アリ

第二百四條 社員ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニ非サルハ自己ノ計算ニテモ又第三者ノ計算ニテモ會社ノ商部類ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ之ニ與カサルコトヲ得ス之ニ背キタルトキハ會社ハ其擇ニ從ヒ其社員ヲ除名シ又ハ其取引ヲ會社ニ引受ケ尙ホ其執レノ場合ニ於テモ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得

第二百五條 各社員ノ會社ノ損益ヲ共分スル割合

ヨリ業務擔當ノ任アル各社員ニ對シテ其履行ヲ求ムルコトヲ得

第六十一條 業務擔當ノ任アル社員ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ第三者ニ對シテ其效ナシ

第六十二條 會社ノ義務ニ付テハ先ツ會社財產之ヲ負擔シ次ニ各社員其全財產ヲ以テ不分明ニ之ヲ負擔ス

第六十三條 社員ニ非スシテ商號ニ其氏ヲ表スルコトヲ承諾シ若クハ之ヲ表スルニ任セ又ハ會社ノ業務ノ施行ニ與カリ又ハ事實社員タルノ權利義務ヲ有スル者ハ社員ト同シク連帶無限ノ責任ヲ負フ

第六十四條 商業使用人又ハ代務人ハ其給料ノ全部又ハ一分ヲ一定又ハ不定ノ利益配當ニ因リテ受クルモノト雖モ前條ノ者ト同視セス

第六十五條 新ニ入社スル社員ハ契約上他ノ定ナキトキハ其入社前ニ生シタル會社ノ義務ニ付テモ責任ヲ負フ

第六十六條 會社財產ニ屬スル物ハ社員ノ債權者其債權ノ爲メ之ヲ請求スルコトヲ得ス但差入前ニ於テ其物ニ付キ第三者ノ爲メ權利ノ設定セラレタルトキハ此限ニ在ラス

ハ契約ニ於テ他ノ準率ヲ定メサルトキハ其出資ノ價額ニ準ス

出資ト爲シタル勞力ノ價額ヲ契約ニ於テ定メサルトキハ各般ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第六六條 社員カ業務擔當ノ任ナクシテ業務擔當ノ所爲ヲ爲シ又ハ會社ニ對シテ詐欺ヲ行ヒ又ハ其他會社ニ對シテ主要ノ責務ヲ甚クシク缺キタルトキハ會社ハ之ヲ除名シ且損害賠償ヲ求ムルコトヲ得

第六七條 社員カ會社契約ニ依リ又ハ本法ノ規定ニ依リテ會社ノ爲メニ爲シタル總テノ行爲及ヒ取引ハ各社員互ニ之ヲ承認スル義務アリ

第四款 第三者ニ對スル社員ノ權利義務

第六八條 會社ハ業務擔當ノ任アル社員ノ明示シテ會社ノ爲メニ爲シ又ハ事實會社ノ爲メニ爲シタル總テノ行爲ニ因リテ直接ニ權利ヲ得義務ヲ負フ

第六九條 會社ノ權利ハ業務擔當ノ任アル社員裁判上ト裁判外トナ問ハス之ヲ主張シ又ハ有效ニ之ヲ處分スルコトヲ得

第七十條 第三者ニ對スル會社ノ義務ハ第三者

第七十七條 社員ノ債權者ハ社員自ラ要求シ得

ヘキ利息又ハ配當金ノミナ會社ニ對シテ要求スルコトヲ得

然レトモ社員ノ持分ハ社員ノ退社又ハ會社解散ノ場合ニ非サルハ之ヲ要求スルコトヲ得ス

第七十八條 會社ニ對スル債務ト社員ニ對スル債權ト又會社ニ對スル債權ト社員ニ對スル債務トノ相殺ハ會社財產ノ分割前ニ在テハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第七十九條 社員ノ持分ヲ減シタル爲メ會社ノ債權者カ其會社財產ヨリ得ヘキ償額ヲ減損セラレ又ハ支障セラレタルトキハ減少ノ時ヨリ二年内ニ在テハ其減少ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得

第五款 社員ノ退社

第八十條 社員ハ會社契約カ有期ナルトキハ總社員ノ承諾ヲ要シ無期又ハ終身ナルトキハ其承諾ヲ要セスシテ任意ニ退社スルコトヲ得其退社ハ六ヶ月前ニ豫告ヲ爲シタル上事業年度ノ末ニ限ル但急速ニ退社スヘキ重要ノ事由アルトキハ此限ニ在ラス

第八十一條 右ノ外社員ハ左ノ諸件ニ因リテ

退社ス

第一 除名

第二 死亡但亡社員ノ地位ニ代ハル可キ相繼人又ハ承繼人ナキ時ニ限ル

第三 破産

第四 能力ノ喪失但特約ナキトキニ限ル

第二百二十二條 社員退社スル毎ニ會社ハ七日内ニ其理由ヲ附シタル登記ヲ受ク可シ

第二百二十三條 會社ハ退社員ノ爲メ特ニ作リタル貸借對照表ニ依リ退社ノ時ノ割合ヲ以テ其持分ヲ退社員又ハ其相繼人若クハ承繼人ニ拂渡スコトヲ要ス

退社前ノ取引ニシテ未ダ結了セサルモノハ其結了ノ後之ヲ計算スルコトヲ得

第二百二十四條 退社員ノ持分ノ價直ハ特約アルニ非サレハ其出資ノ何種類タルヲ問ハス金錢ノミニテ之ヲ拂渡ス

勞力ノ出資又ハ其他退社ト共ニ終止スル出資ニ付テハ特約アルニ非サレハ之ニ對スル報償ヲ爲ス義務ナシ

第二百二十五條 退社員ハ退社前ニ係ル會社ノ義務ニ付テハ退社後二ヶ年間仍ホ全財産ヲ以テ

其責任ヲ負フ

第九十八條ノ場合ニ於テ第三者ナシテ己レノ地位ニ代ハラシメタル者ニ付テモ亦前項ヲ適用ス

第六款 會社ノ解散

第二百二十六條 會社ハ左ノ諸件ニ因リテ解散ス

第一 會社存立時期ノ満了

第二 會社契約ニ定メタル解散事由ノ起發

第三 總社員ノ承諾

第四 會社ノ破産

第五 裁判所ノ命令

第二百二十七條 第六十七條ニ掲ケタル場合ノ外

會社其目的ヲ達スルコト能ハス又ハ會社ノ地位ヲ維持スルコト能ハサル理由ヲ以テ一人又ハ數人ノ社員ヨリ會社ノ解散ヲ申立ツルトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ解散セシムルコトヲ得

會社ノ地位ヲ維持スルコト能ハサル場合ニ於テ會社ノ解散ニ換ヘテ或ル社員ヲ除名スヘキコトヲ他ノ總社員ヨリ相當ノ理由ヲ以テ申立ツルトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ除名スルコトヲ得

前二項ニ掲ケタル裁判所ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百二十八條 第二百二十六條ノ第一號第二號ニ記載シタル場合ニ於テハ總社員又ハ社員ノ一分ニテ會社ヲ保續スルコトヲ得但社員ノ一分ニテ保續シタルトキハ其離脱シタル社員ハ退社シタルモノト看做ス

第二百二十九條 會社解散スルトキハ破産ノ場合ヲ除ク外總社員ノ多數決ヲ以テ清算人一人又ハ數人ヲ任シ七日内ニ解散ノ理由、年月日及ヒ清算人ノ氏名、住所ノ登記ヲ受ク可シ

第二百三十條 清算人ハ會社ノ現務ヲ結了シ會社ノ義務ヲ履行シ未收ノ債權ヲ行用シ現存ノ財産ヲ賣却ス又清算人ハ清算ノ目的ヲ超エテ營業ヲ保續シ又ハ新ニ取引ヲ爲スコトヲ得又清算人ハ裁判上會社ヲ代理シ且會社ノ爲メ和解契約及ヒ仲裁契約ヲ爲スコトヲ得

第二百三十一條 清算人ノ權ハ社員ノ制限スルコトヲ得且重要ナル事由ニ基ク社員ノ申立ニ因リ裁判所ノ命令ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ解任スルコトヲ得但其命令ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百三十二條 清算人ハ委任事務ヲ履行シタル後社員ニ計算ヲ報告シ第五條及ヒ第二百二十四條ノ規定ニ準シ會社財産ヲ社員ニ分配ス又清算中ト雖モ自由ト爲リタル財産ハ之ヲ社員ニ分配スルコトヲ得

第二百三十三條 社員ニ分配ス可キ物ハ會社ノ總テノ義務ヲ了スルニ要セザル會社財産ニ限ル

第二百三十四條 解散シタル會社ノ商業帳簿及ヒ其他ノ書類ハ社員第三十四條ノ規定ニ從ヒ之ヲ處分ス

第二百三十五條 會社ノ義務ニ對スル社員ノ無限責任ハ其義務ニ付キ五ヶ年未滿ノ時數ノ定ナキトキニ限リ解散後五ヶ年ノ満了ニ因リテ時數ニ罹ル但債權者カ未ダ分配セラレサル會社財産ニ對シテ請求ヲ爲ストキハ此限ニ在ラス

第二百三十六條 社員ノ一人又ハ數人ニ對シ契約上別段ノ定ナキトキハ社員ノ責任カ金錢又ハ有價物ヲ以テスル出資ノミニ限ルモノヲ合資會社ト爲ス

第二百三十七條 合資會社ハ本節ニ定メタル規程

合資會社ノ社員ノ數ハ之ヲ制限セス

六三二二三

ノ外總テ合名會社ノ規定ニ從フ

第三百三十八條 合資會社ノ登記及ヒ公告ニハ第

七十九條ノ第二號乃至第六號ニ列記シタルモ

ノ、外尙ホ左ノ事項ヲ掲グルコトヲ要ス

第一 合資會社ナルコト

第二 會社資本ノ總額

第三 各社員ノ出資額

第四 無限責任社員アルトキハ其氏名

第五 業務擔當社員又ハ取締役アルトキハ其

氏名及ヒ其責任ノ有限又ハ無限ナルコ

ト

第三百三十九條 社名ニハ社員ノ氏ヲ用ユルコト

ヲ得ス但無限責任社員ノ氏ハ此限ニ在ラス又

商號ニハ何レノ場合ニ於テモ合資會社ナル文

字ヲ附ス可シ若シ商號ニ社員ノ氏ヲ用ヰタル

トキハ其社員ハ此力爲メ當然會社ノ義務ニ對

シ無限ノ責任ヲ負フ

第四百十條 無限責任ノ社員、取締役ヲ除ク外

社員ハ自己ノ計算又ハ第三者ノ計算ニテ會社

ノ商部類ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ之ニ與カル

コトヲ得

第四百十一條 各社員ハ契約上他ノ定ナキトキ

六百二十四

ハ同等ニ會社ヲ代理スル權利義務ヲ有ス

第四百十二條 社員七人ヲ超ユル會社ニ在テハ

其契約ヲ以テ社員中ヨリ一人又ハ數人ノ取締

役ヲ任シ又設立後七人ヲ超ユルトキハ會社ノ

決議ヲ以テ之ヲ任ス但其決議ノ效力ハ總社員

四分三以上ノ多數決ニ依リテ生ス

取締役ハ何時ニテモ會社ノ決議ニ依リテ解任

セラル、コト有ル可シ其決議ノ效力ハ亦總社

員四分三以上ノ多數決ニ依リテ生ス

第四百十三條 業務擔當ノ任アル社員又ハ取締

役ハ裁判上ト裁判外トチ間ハス總テ會社ノ事

務ニ付キ會社ヲ代理スル專權ヲ有ス然レトモ

會社契約又ハ會社ノ決議ニ依リテ羈束セラル

數人ノ業務擔當社員又ハ取締役アル場合ニ於

テハ各別ニ業務ヲ取扱フコトヲ得ルモノタリ

ヤ又ハ其總員若クハ數人共同ニ非サレハ之ヲ

取扱フコトヲ得サルモノタリヤハ會社契約又

ハ會社ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第四百十四條 業務擔當ノ任アル社員又ハ取締

役ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ善意ヲ以テ之ト

取引ヲ爲シタル第三者ニ對シテ其效ナシ

第四百十五條 無限責任社員ハ業務擔當ノ任ア

ル社員又ハ取締役ノ認可ヲ得テ其持分ヲ他人

ニ讓渡スルコトヲ得此場合ニ於テハ取得者ハ

讓渡人ノ權利義務ヲ襲承ス

第四百十六條 會社契約ニ於テ又ハ第四百十二

條ニ定メタル會社ノ決議ニ依リテ業務擔當ノ

任アル社員又ハ取締役ノ總員、數人若クハ一

人カ其業務施行中ニ生シタル會社ノ義務ニ付

キ無限ノ責任ヲ負フ可キ旨ヲ豫メ定ムルコト

ヲ得

第四百十七條 前條ニ掲ゲタル無限ノ責任ハ業

務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ノ退任後一ケ

年ノ滿了ニ因リテ消滅ス

第四百十八條 業務擔當ノ任アル社員又ハ取締

役ハ毎年少ナクトモ一回通常總會ヲ召集シ其

他業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ニ於テ必

要ト認ムルトキ又ハ總社員四分一以上ノ申立

アルトキハ臨時總會ヲ召集ス可シ

第四百十九條 總會ヲ召集スルニハ會日ヨリ少

ナクトモ七日前ニ各社員ニ會議ノ目的ヲ通知

シ及ヒ提出スヘキ書類ヲ送付スルコトヲ要ス

第四百二十條 事業年度ノ終リタル後直チニ通常

總會ヲ開キ其年度ノ貸借對照表及ヒ事業并ニ

其成果ノ報告書ヲ社員ニ提出シテ検査及ヒ認

定ヲ受ク其認定ハ出席社員ノ多數決ニ依ル

第四百二十一條 臨時總會ニ於テ決議ス可キ事項ハ

總社員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

然レモ合名會社ニ在テ總社員ノ承諾ヲ要スヘ

キ事項ハ總社員四分三以上ノ多數ヲ以テ之ヲ

決ス此場合ニ於テハ不同意ノ社員ハ直チニ退

社スル權利アリ

第四百二十二條 前條ニ掲ゲタル決議ニ要スル定

數ノ社員出席セサルトキハ其總會ニ於テ假ニ

決議ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ其決議ヲ

總社員ニ通知シテ再ヒ總會ヲ召集ス其通知ニ

ハ若シ第二ノ總會ニ於テ出席社員ノ多數ヲ以

テ第一ノ總會ノ決議ヲ認可シタルトキハ之ヲ

有效ト爲ス可キ旨ヲ明告スルコトヲ要ス

第四百二十三條 利息又ハ配當金ハ會社資本額カ

損失ニ因リテ減シタル間ハ之ヲ社員ニ拂渡ス

コトヲ得ス

六百二十五

初事件ノ申立ヲ受ケタル裁判所其事件ヲ管轄ス但其他ノ管轄裁判所ニ事件ヲ移送スルコトヲ得

第四條 管轄裁判所ノ指定ハ裁判所構成法第十條第一號ニ掲ケタル場合ノ外數個ノ裁判所ノ土地ノ管轄ニ付キ歸アルトキ之ヲ爲ス
民事訴訟法第二十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條 裁判所職員ノ除斥ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

第六條 事件ノ關係人ハ訴訟能力者ヲシテ代理セシムルコトヲ得但自身出頭ヲ命セラレタルトキハ此限ニ在ラス
裁判所ハ辯護士ニ非スシテ代理ヲ營業トスル者ニ退斥ヲ命スルコトヲ得此命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七條 民事訴訟法第六十四條ノ規定ハ前條第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス但裁判所ハ職權ヲ以テ私署證書ニ認證ヲ受クヘキ旨ヲ命スルコトヲ得此命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
第八條 申立及ヒ陳述ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之

ヲ爲スコトヲ得

民事訴訟法第百三十五條ノ規定ハ口頭ノ申立及ヒ陳述ニ之ヲ準用ス

第九條 申立ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ代理人ノ署名、捺印スヘシ

- 一 申立人ノ氏名、住所
- 二 代理人ニ依リテ申立ヲ爲ストキハ其氏名住所
- 三 申立ノ趣旨及ヒ其原因タル事實
- 四 年月日
- 五 裁判所ノ表示

第十條 期日、期間、疏明ノ方法、人證及ヒ鑑定ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

第十一條 裁判所ハ職權ヲ以テ事實ヲ探知及ヒ必要ト認ムル證據調ヲ爲スヘシ

第十二條 事實ノ探知、呼出、告知及ヒ裁判ノ執行ニ關スル行為ハ之ヲ囑託スルコトヲ得

第十三條 審問ハ之ヲ公行セス但裁判所ハ相當ト認ムル者ニ傍聽ヲ許スコトヲ得

第十九條 裁判所ハ裁判ヲ爲シタル後其裁判ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ申立ヲ却下シタル裁判ハ申立ニ因ルニ非サレハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得ス
即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判ハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得ス

第二十條 裁判ニ因リテ權利ヲ害セラレタリトスル者ハ其ノ裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ申立人ニ限リ抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 抗告ハ特ニ定メタル場合ヲ除ク外執行停止ノ效力ヲ有セス

第二十二條 即時抗告ノ期間ハ裁判ノ告知ノ日ヨリ之ヲ起算ス

民事訴訟法第百七十四條乃至第百七十六條ノ規定ハ即時抗告ノ期間ヲ懈怠シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 抗告裁判所ノ裁判ニハ理由ヲ附ス

第十四條 證人又ハ鑑定人ノ訊問ニ付テハ調書ヲ作ラシメ其他ノ審問ニ付テハ必要ト認ムル場合ニ限リ之ヲ作ラシムヘシ

第十五條 檢事ハ事件ニ付キ意見ヲ述ヘ審問ヲ爲ス場合ニ於テハ之ニ立會フコトヲ得

第十六條 裁判所其他ノ官廳、檢事及ヒ公吏ハ其職務上檢事ノ請求ニ因リテ裁判ヲ爲スヘキ場合カ生シタルコトヲ知リタルトキハ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ通知スヘシ

第十七條 裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

裁判ノ原本ニハ判事署名、捺印スヘシ但申立書又ハ調書ニ裁判ヲ記載シ判事之ニ署名、捺印シテ原本ニ代フルコトヲ得

裁判ノ正本及ヒ謄本ニハ書記署名、捺印シ且正本ニハ裁判所ノ印ヲ捺捺スヘシ

第十八條 裁判ハ之ヲ受クル者ニ告知スルニ因リテ其效力ヲ生ス

裁判ノ告知ハ裁判所ノ相當ト認ムル方法ニ依リテ之ヲ爲ス
告知ノ方法、場所及ヒ年月日ハ之ヲ裁判ノ原本ニ記入スヘシ

ルコトヲ要ス

第二十四條 抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限り抗告ヲ爲スコトヲ得

民事訴訟法第四百三十五條、第四百三十六條及七百五十三條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第二十五條 抗告ニハ前五條ニ定メタルモノヲ除ク外民事訴訟法ノ抗告ニ關スル規定ヲ準用ス

第二十六條 裁判前ノ手續及ヒ裁判ノ告知ノ費用ハ特ニ其負擔者ヲ定メタル場合ヲ除ク外事件ノ申立人ノ負擔トス但檢事カ申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第二十七條 裁判所ハ前條ノ費用ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ必要ト認ムルトキハ其額ヲ確定シテ事件ノ裁判ト共ニ之ヲ爲スヘシ

第二十八條 裁判所ハ特別ノ事情アルトキハ本法ノ規定ニ依リテ費用ヲ負擔スヘキ者ニ非サル關係人ニ費用ノ全部又ハ一部ノ負擔ヲ命スルコトヲ得

第二十九條 民事訴訟法第八十條第一項ノ規定

六百三十

ハ共同ニテ費用ヲ負擔スヘキ者數人アル場合ニ之ヲ準用ス

第三十條 費用ノ裁判ニ對シテハ其負擔ヲ命セラレタル者ニ限り不服ヲ申立ツルコトヲ得

民事訴訟法第八十二條第一項ノ規定ハ前項ノ申立ニ之ヲ準用ス

第三十一條 費用ノ債權者ハ費用ノ裁判ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得

民事訴訟法第六編ノ規定ハ前項ノ強制執行ニ之ヲ準用ス但執行ヲ爲ス前裁判ヲ送達スルコトヲ要セス

費用ノ裁判ニ對スル抗告アリタルトキハ民事訴訟法第五百條ノ規定ヲ準用ス

第三十二條 職權ヲ以テ爲ス探知、證據調、呼出、告知其他必要ナル處分ノ費用ハ國庫ニ於テ之ヲ立替フヘシ

第三十三條 本編ニ於ケル申立トハ申立、申請及ヒ申述ヲ謂フ

第二編 民事非訟事件
第一章 法人ニ關スル事件

第三十四條 民法第四十條ニ定メタル事件ハ法人ノ設立者カ死亡ノ時ニ有シタル住所ノ區

第四十條 裁判所ハ何時ニテモ其選任シタル管理人ヲ改任スルコトヲ得

管理人ハ其任務ヲ辭セントスルトキハ裁判所ニ其旨ヲ届出ツハシ此場合ニ於テハ裁判所ハ更ニ管理人ヲ選任スヘシ

第四十一條 管理人ノ選任又ハ改任ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第四十二條 裁判所ハ其選任シタル管理人ニ財産ノ狀況ヲ報告シ且管理ノ計算ヲ爲スヘキ旨ヲ命スルコトヲ得

民法第二十七條第二項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ不在者カ置キタル管理人ニモ前項ノ手續ヲ命スルコトヲ得

第四十三條 利害關係人ハ前條ノ報告及ヒ計算ニ關スル書類ノ閱覽ヲ申請シ又ハ手数料ヲ納付シテ其謄本ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

檢事ハ前項ノ書類ヲ閱覽スルコトヲ得
第四十四條 民法第六百四十四條、第六百四十六條、第六百四十七條及ヒ第六百五十條ノ規定ハ裁判所カ選任シタル管理人ニ之ヲ準用ス
第四十五條 裁判所ハ管理人ヲシテ擔保ヲ供セ

五百三十一

裁判所ノ管轄トス

法人ノ設立者カ日本ニ住所ヲ有セザリシトキ又ハ其住所カ知レサルトキハ其死亡ノ時ノ居所地又ハ法人設立地ノ區裁判所ノ管轄トス

第三十五條 假理事又ハ特別代理人ノ選任ハ法人ノ主タル事務所所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

法人ノ解散及ヒ清算ノ監督ハ其主タル事務所所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

第三十六條 裁判所ハ特ニ選任シタル者ヲシテ法人ノ監督ニ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十七條 第三百三十六條乃至第三百三十八條及七百七十五條乃至第七百七十七條ノ規定ハ法人ノ清算人ニ之ヲ準用ス(改正三十二年法律第五十一號)

第二章 財産ノ管理ニ關スル事件
第三十八條 不在者ノ財産ノ管理ニ關スル事件ハ其住所ノ區裁判所ノ管轄トス

第三十九條 裁判所ハ管理人ヲ選任シ又ハ改任スヘキ場合ニ於テハ利害關係人ノ意見ヲ聽クコトヲ得

シメタル後其増減、變更又ハ免除ヲ命スルコトヲ得

第四十五條 裁判所ハ管理人ノ不動産又ハ船舶ノ上ニ抵當權ヲ設定スヘキコトヲ命シタルトキハ其設定ノ登記ヲ囑託スルコトヲ得
前項ノ囑託ニハ抵當權ノ設定ヲ命シタル裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ
前二項ノ規定ハ設定シタル抵當權ノ變更又ハ消滅ノ登記ニ之ヲ準用ス

第四十六條 裁判所カ財産ノ封印ヲ命シタル場合ニ於テハ管轄區裁判所之ヲ爲ス
利害關係人、管理人及ヒ檢事ハ封印ノ手續ニ立會フコトヲ得

第四十七條 左ニ掲ケタル物ニハ封印ヲ爲スヘカラス
一 日用品
二 封印ヲ爲スニ適セサル物
三 第三者ノ占有ニ屬スル物但其提出ヲ拒マサルトキハ此限ニ在ラス

第四十八條 封印ニハ判事ノ職印ヲ用ユヘシ
民事訴訟法第五百三十六條ノ規定ハ封印ノ手續ニ之ヲ準用ス

本法第五十九條以外ノ場合ニ於テモ封印ノ除去ヲ命スルコトヲ得

第四十六條、第五十條第一項及ヒ民事訴訟法第五百三十六條ノ規定ハ封印ノ除去ニ之ヲ準用ス

保管者ハ封印ノ除去ニ立會フコトヲ得

第五十二條 裁判所ハ豫メ封印ヲ除去スヘキ期日ヲ定メ申立人、利害關係人、保管者、管理人及ヒ檢事ニ之ヲ告知スヘシ
利害關係人、管理人及ヒ檢事ハ前項ノ期日前ニ裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得但民法第二十五條第二項及ヒ本法第五十九條ノ場合ハ此限ニ在ラス

異議ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五十三條 異議ノ申立アリタルトキハ其申立ノ取下又ハ却下ノ後ニ非サレハ封印ヲ除去スルコトヲ得ス

封印ヲ除去シタルトキハ直チニ書記又ハ公證人ヲシテ財産ノ目錄ヲ調製セシムヘシ但民法第二十五條第二項及ヒ本法第五十九條ノ場合ニ於テ立會人カ之ヲ調製セサルコトニ同意シ

第四十九條 裁判所ハ封印ヲ爲シタルトキハ財産ノ保管者ヲ選任スヘシ

第四十條、第四十條ノ二、民法第六百五十八條第一項、第六百五十九條乃至第六百六十一條及ヒ第六百六十四條ノ規定ハ裁判所カ選任シタル保管者ニ之ヲ準用ス但民法第六百六十條ノ通知ハ之ヲ檢事ニ爲スコトヲ要ス

第五十條 封印ヲ爲シタルトキハ書記ハ直チニ調書ヲ作ルヘシ

調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ判事、書記及ヒ立會人、之ニ署名、捺印スヘシ

一 封印ヲ命シタル裁判ノ表示
二 封印ノ手續ヲ爲シタル場所、年月日及ヒ其事由

三 申立人ノ氏名、住所

四 封印ヲ爲シタル物件、家屋又ハ倉庫

五 封印ヲ爲ササリシ物件ノ概略及ヒ其事由
調書ハ二通ヲ作り其一通ハ之ヲ裁判所ニ保存シ其一通ハ之ヲ保管者ニ交付シテ受領證ヲ取置クヘシ

第五十一條 裁判所ハ利害關係人、管理人又ハ檢事ノ請求ニ因リ民法第二十五條第二項及ヒ

タルトキハ此限ニ在ラス

第五十四條 封印ノ除去ノ調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ判事、書記及ヒ立會人之ニ署名、捺印スヘシ

一 封印ノ除去ヲ命シタル裁判ノ表示

二 封印ノ除去ヲ爲シタル場所、年月日及ヒ其事由

三 申立人ノ氏名、住所

四 異議ノ申立ナカリシコト又ハ其申立ノ取下若クハ却下アリタルコト

五 財産ノ目錄ヲ調製セシメ又ハ之ヲ調製セシメサリシコト

六 封印ノ狀況及ヒ異狀アルトキハ其事由

調書ハ裁判所ニ之ヲ保存スヘシ

第五十五條 管理人カ調製スヘキ財産ノ目錄ニハ左ノ事項ヲ記載シ管理人及ヒ立會人之ニ署名、捺印スヘシ

一 調製ノ場所、年月日及ヒ其事由

二 申立人ノ氏名、住所

三 不動産ノ表示

四 動産ノ種類及ヒ數量

五 債權及ヒ債務ノ表示

六 帳簿、證書其他ノ書類

財産ノ目録ハ二通ヲ調製シ其一通ハ管理人ノ
ヲ保管シ其一通ハ之ヲ裁判所ニ提出スヘシ
第四十六條第二項ノ規定ハ財産ノ目録ノ調製
ニ之ヲ準用ス

第五十六條 民法第二十七條第一項及第二項
ノ場合ニ於テ裁判所ハ公證人ヲシテ財産ノ目
録ヲ調製セシムヘキ旨ヲ管理人ニ命スルコト
ヲ得管理人カ調製シタル目録ヲ不充分ト認メ
タルトキ亦同シ
前項ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ
得ス

第五十七條 利害關係人ハ財産ノ目録ノ閲覧ヲ
申請シ又ハ手数料ヲ納付シテ其謄本ノ交付ヲ
申請スルコトヲ得
檢事ハ財産ノ目録ヲ閲覧スルコトヲ得

第五十八條 裁判所ハ不在者ノ財産ヲ賣却セシ
ムヘキ場合ニ於テハ競賣法ノ規定ニ依リテ之
ヲ賣却スヘキコトヲ命スヘシ

第五十九條 本人カ自ラ其財産ヲ管理スルコト
ヲ得ルニ至リタルトキ又ハ其死亡カ分明ト爲
リ若クハ失踪ノ宣告アリタルトキハ裁判所ハ
本人、利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ其命
シタル處分ヲ取消スヘシ

第六十條 利害關係人ハ不在者ノ財産ノ管理若
クハ保存ニ付キ處分ヲ命シ、其處分ヲ取消シ
又ハ管理人ニ其權限ヲ超ユル行爲ヲ爲スコト
ヲ許可シタル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ
得

不在者カ置キタル管理人ハ其改任ヲ命シタル
裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ
期間ハ管理人カ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ
之ヲ起算ス

第六十一條 裁判所カ職權ヲ以テ裁判ヲ爲シ又
ハ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テ
ハ裁判前ノ手續及ヒ裁判ノ告知ノ費用ハ不在
者ノ財産ノ負擔トス裁判所ノ命シタル處分ニ
付キ必要ナル費用亦同シ

第六十二條 裁判所カ抗告人ノ申立ニ相當スル
裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ抗告手續ノ費用
及ヒ抗告人ノ負擔ニ歸シタル前審ノ費用ハ不

第六十三條 民法第八百九十二條第二項乃至第
四項ノ財産ノ管理ニ關スル事件ハ子ノ住所地
ノ區裁判所ノ管轄トス

第六十四條 第三項カ被後見人ニ與ヘタル財産
ノ管理ニ關スル事件ハ被後見人ノ住所地ノ區
裁判所ノ管轄トス

第六十五條 民法第九百七十八條ノ遺產ノ管理
ニ關スル事件ハ相続開始地ノ區裁判所ノ管轄
トス

第六十六條 民法第九百七十八條ノ遺產ノ管理
ニ關スル事件ハ相続人ノ廢除又ハ其取消ノ請
求ニ付キ第一審ニ於テ訴ヲ受ケタル裁判所ノ
管轄トス

第六十七條 民法第九百七十八條ノ遺產ノ管理
ニ關スル事件ハ遺產分難ノ請求ニ付キ第一
審ニ於テ訴ヲ受ケタル裁判所ノ管轄トス

第六十八條 第三十九條ノ規定ニ依リテ
第六十九條 民法第九百七十八條ノ遺產ノ管理
ニ關スル事件ハ其管轄トス

第七十條 民法第九百七十八條ノ遺產ノ管理
ニ關スル事件ハ其管轄トス

第七十一條 民法第九百七十八條ノ遺產ノ管理
ニ關スル事件ハ其管轄トス

第七十二條 民法第九百七十八條ノ遺產ノ管理
ニ關スル事件ハ其管轄トス

第七十三條 民法第九百七十八條ノ遺產ノ管理
ニ關スル事件ハ其管轄トス

第七十條 管理人ノ氏名、住所
ノ記載スヘシ

第七十一條 民法第九百七十八條ノ遺產ノ管理
ニ關スル事件ハ其管轄トス

第七十二條 民法第九百七十八條ノ遺產ノ管理
ニ關スル事件ハ其管轄トス

第七十三條 民法第九百七十八條ノ遺產ノ管理
ニ關スル事件ハ其管轄トス

第七十四條 民法第九百七十八條ノ遺產ノ管理
ニ關スル事件ハ其管轄トス

第七十五條 民法第九百七十八條ノ遺產ノ管理
ニ關スル事件ハ其管轄トス

第七十六條 民法第九百七十八條ノ遺產ノ管理
ニ關スル事件ハ其管轄トス

第七十七條 民法第九百七十八條ノ遺產ノ管理
ニ關スル事件ハ其管轄トス

第七十八條 民法第九百七十八條ノ遺產ノ管理
ニ關スル事件ハ其管轄トス

第七十九條 民法第九百七十八條ノ遺產ノ管理
ニ關スル事件ハ其管轄トス

第七十一條ノ五 第三十九條、第四十條第二項
及第四十條ノ二ノ規定ハ信託管理人又ハ信
託財產ノ管理人ノ選任又ハ改任ニ付テハ信
託第四十三條ノ規定ハ裁判所カ選任シタル信
託管理人又ハ信託財產ノ管理人ニ之ヲ準用ス
ル
第七十二條 第六百二十八條ノ信託法第四十
一條第二項ノ規定ニ依リテ裁判所カ選任シタ
ル
第七十三條 第六百二十八條ノ信託法第四十
一條第二項ノ規定ニ依リテ裁判所カ選任シタ
ル
第七十四條 第六百二十八條ノ信託法第四十
一條第二項ノ規定ニ依リテ裁判所カ選任シタ
ル
第七十五條 第六百二十八條ノ信託法第四十
一條第二項ノ規定ニ依リテ裁判所カ選任シタ
ル
第七十六條 第六百二十八條ノ信託法第四十
一條第二項ノ規定ニ依リテ裁判所カ選任シタ
ル
第七十七條 第六百二十八條ノ信託法第四十
一條第二項ノ規定ニ依リテ裁判所カ選任シタ
ル

第六百三十六
申請ヲ許可シタル裁判ニ對シテハ債務者ハ即
時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ債務者カ
裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス
第七十八條 抗告手續ノ費用及ヒ抗告人ノ負擔
ニ歸シタル前審ノ費用ニ付テハ申請人及ヒ抗
告人ヲ當事者ト看做シ民事訴訟法第七十二條
第七十九條ノ規定ニ從ヒテ其負擔ヲ定ム
第七十九條 第十三條及ヒ第十五條ノ規定ハ本
章ノ手續ニ之ヲ適用セス
第八十條 民法第二百六十二條第三項ノ證書保
存者ノ指定ハ共有物ノ分割アリタル地ノ區裁
判所ノ管轄トス
第八十一條 民法第四百九十五條第二項ノ供託
ノ手續ノ費用ハ共有者ノ全員ノ負擔トス
第八十二條 民法第四百九十五條第二項ノ供託
ノ手續ノ費用ハ共有者ノ全員ノ負擔トス
第八十三條 民法第四百九十五條第二項ノ供託
ノ手續ノ費用ハ共有者ノ全員ノ負擔トス
第八十四條 民法第四百九十五條第二項ノ供託
ノ手續ノ費用ハ共有者ノ全員ノ負擔トス
第八十五條 民法第四百九十五條第二項ノ供託
ノ手續ノ費用ハ共有者ノ全員ノ負擔トス
第八十六條 民法第四百九十五條第二項ノ供託
ノ手續ノ費用ハ共有者ノ全員ノ負擔トス
第八十七條 民法第四百九十五條第二項ノ供託
ノ手續ノ費用ハ共有者ノ全員ノ負擔トス

第八十三條 第八十一條ノ規定ハ民法第四百九
十七條ノ裁判所ノ許可ニ之ヲ準用ス
第八十三條ノ二 第八十一條第一項及ヒ第二項
ノ規定ハ民法第三百五十四條ニ依リ質物ヲ以
テ直チニ擔保ニ充ツルコトヲ申請スル場合ニ
之ヲ準用ス(追加三十二年法律第五十一號)
第八十四條 民法第五百八十二條ノ鑑定人ノ選
任、呼出及ヒ訊問ハ不動産所在地ノ區裁判所
ノ管轄トス
第八十五條 民法第三百三十二條第二項、第三百
三十四條及ヒ第三百三十二條第二項ノ鑑定人ノ
選任、呼出及ヒ訊問ハ相續開始地ノ區裁判所
ノ管轄トス
第八十六條 民法第四百十七條及ヒ第四百五十條
ノ場合ニ於ケル鑑定人ノ選任、呼出及ヒ訊問
ハ第六十七條ニ定メタル裁判所ノ管轄トス
第八十七條 民法第三百三十二條第二項、第三百三

第十四條、第四百十七條及ヒ第四百五十條ノ場合
ニ於ケル鑑定人ノ選任ニ關スル費用ハ相續財
產ノ負擔トス
第八十八條 第十五條ノ規定ハ本章ノ手續ニハ
之ヲ適用セス
第八十九條 本章ノ規定ニ依リテ指定若クハ選
任ヲ爲シ又ハ許可ヲ與ヘタル裁判所ニ對シテ
ハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
第六章 隱居、廢家、子ノ懲戒、家督相
續人及ヒ親族會ニ關スル事件
第九十條 隱居ノ許可ハ隱居ヲ爲サントスル戶
主ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス
許可ノ申請ニハ法定ノ推定家督相續人ヲ表示
シ又ハ家督相續人タルヘキコトヲ承認シタル
者ヲ表示シ且其者ヲシテ署名、捺印セシムヘ
シ
隱居ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテハ抗告ヲ
爲スコトヲ得ス
第九十一條 廢家ノ許可ハ廢家セントスル戶主
ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス
利害關係人及ヒ檢事ハ前項ノ許可ヲ與ヘタル
裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第七十八條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス
 第九十二條ノ懲戒ニ關スル事件ハ子ノ住所
 地ノ區裁判所ノ管轄トス
 檢事ノ前項ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテ抗
 告ヲ爲スコトヲ得
 第七十八條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス
 第九十三條 民法第九百七十八條ノ戶主權ノ行
 使ニ付キ必要ナル處分ハ第六十六條ニ定メタ
 ル裁判所ノ管轄トス
 第九十四條 家督相續人ノ選定ニ關スル許可ハ
 相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス
 裁判所カ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合
 ニ於テハ其手續ノ費用ハ相續財產ノ負擔トス
 第九十五條 親族及ヒ檢事ハ前條ノ許可ヲ與ヘ
 タル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得
 第六十二條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス
 第九十六條 無能力者ノ爲メニ設クヘキ親族會
 ニ關スル事件ハ其者ノ住所地ノ區裁判所ノ管
 轄トス
 裁判所カ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合
 ニ於テハ其手續ノ費用ハ無能力者ノ負擔トス
 第九十七條 家督相續人ノ選定ノ爲メニ開クヘ

キ親族會ニ關スル事件ハ相續開始地ノ區裁判
 所ノ管轄トス
 裁判所カ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合
 ニ於テハ其手續ノ費用ハ相續財產ノ負擔トス
 第九十八條 前二條ニ掲ケサル事件ノ爲メニ開
 クヘキ親族會ニ關シテハ事件ノ本人ノ住所
 ノ區裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス
 裁判所カ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合
 ニ於テハ其手續ノ費用ハ事件ノ本人ノ負擔ト
 ス
 第九十九條 裁判所ハ親族會員又ハ其補缺員ノ
 選定ニ付キ申請人又ハ民法第九百四十四條ニ
 掲ケタル者ヲシテ會員タルニ適當ナル者ヲ指
 定セシムルコトヲ得
 第一百條 親族會員タルコトヲ辭セントスル者ハ
 裁判所ニ其申請ヲ爲スヘシ
 前項ノ申請ニ相當スル裁判ニ對シテハ不服ヲ
 申立ツルコトヲ得ス
 第一百一條 親族會ノ召集又ハ親族會員ノ辭任ノ
 申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ
 爲スコトヲ得
 民法第九百四十四條ニ掲ケタル者ハ親族會員

タルコトヲ得サル者ノ選任ニ對シテ抗告ヲ爲
 スコトヲ得
 第六十二條ノ規定ハ前二項ノ抗告ニ之ヲ準用
 ス
 第一百二條 親族會員其他民法第九百四十四條ニ
 掲ケタル者ハ親族會ノ決議ニ代ハルヘキ裁判
 ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ裁判ノ申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテ
 ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 第六十二條ノ規定ハ前二項ノ抗告ニ之ヲ準用
 ス
 第三章 相續ノ承認及ヒ拋棄ニ關スル
 事件
 第一百三條 民法第十七條第一項但書ニ定メタ
 ル期間ノ伸長ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄
 トス
 第一百四條 相續ノ限定承認又ハ拋棄ノ申述ハ相
 續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス
 第一百五條 相續ノ限定承認又ハ拋棄ノ申述ニハ
 第九條第一號、第二號、第四號及ヒ第五號ニ掲
 ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載シテ申述人又
 ハ代理人之ニ署名、捺印スヘシ

一 被相續人ノ氏名及ヒ最後ノ住所
 二 相續ノ限定承認又ハ拋棄ヲ爲ス旨
 第六六條 期間ノ伸長ノ申請又ハ相續ノ限定承
 認若クハ拋棄ノ申述ヲ却下シタル裁判ニ對シ
 テハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 第六章 遺言ノ確認及ヒ執行
 第六七條 遺言執行者ノ選任及ヒ解任ハ相續開
 始地ノ區裁判所ノ管轄トス
 裁判所ニ於テ選任シタル遺言執行者カ其任務
 ナ辭セントスルトキ又ハ其就職ヲ拒マントス
 ルトキハ相續開始地ノ區裁判所ニ其申立ヲ爲
 スヘシ
 裁判所カ前二項ニ掲ケタル事件ニ付キ申立ニ
 相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續
 ノ費用ハ相續財產ノ負擔トス
 第六八條 遺言執行者ヲ選任シタル裁判又ハ其
 任務ヲ辭シ若クハ就職ヲ拒ムコトヲ許可シタ
 ル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 遺言執行者ノ選任若クハ解任ノ申請又ハ其任
 務ヲ辭シ若クハ就職ヲ拒ム申立ヲ却下シタル
 裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 遺言執行者ハ其解任ヲ命シタル裁判ニ對シテ

即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ遺言執行者カ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

第六十二條ノ規定ハ前二項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第九條 民法第七十六條及ヒ第八十一條但書ニ定メタル遺言ノ確認ハ遺言者ノ住所地又ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第十條 遺言ノ費用ハ遺言者又ハ相續財產ノ負擔トス

第十一條 遺言ノ確認ノ申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第十二條 利害關係人及ヒ檢事ハ遺言ノ確認ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ確認ノ申請人カ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

第十三條 前條第二項ノ規定ハ前二項ノ抗告ニ之ヲ適用ス

第十四條 遺言書ノ檢認ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第十五條 遺言書ノ檢認ハ公證人カ記載シタルモノヲ除ク外遺言ノ方式ニ關スル總テノ事實ヲ調査シ之ヲ爲ス

第十三條 封印アル遺言書ノ開封ニ付テハ豫メ其期日ヲ定メテ相續人ヲ呼出スヘシ

第十四條 遺言書ノ提出、開封及ヒ檢認ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

第十五條 調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ判事、書記及ヒ立會人之ニ署名、捺印スヘシ

一 提出者ノ氏名、住所

二 提出、開封及ヒ檢認ノ年月日

三 立會人ノ氏名、住所

四 訊問シタル證人、鑑定人、相續人其他ノ利害關係人ノ氏名、住所及ヒ其陳述

五 事實調査ノ結果

第十六條 裁判所ハ遺言書ノ開封及ヒ檢認ヲ爲シタルトキハ出頭セザリシ相續人其他遺言ノ旨趣ニ關係アル者ニ其旨ヲ告知スヘシ

第十七條 前項ニ掲ケタル者ハ裁判所ノ許可ヲ得テ前條ノ調書ヲ閱覽スルコトヲ得

第十八條 遺言書ノ提出、開封並ニ檢認及ヒ其告知ノ費用ハ相續財產ノ負擔トス

第十九條 第八章 法人及ヒ夫婦財產契約ノ登記

第二十條 法人ノ登記ニ付テハ法人ノ事務所所在地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記

第二十一條 添附スルコトヲ要ス(同上)

第二十二條 前二登記ノ申請ヲ爲シタル理事又ハ假理事カ同一登記所ニ第一項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス(同上)

第二十三條 法人ノ解散ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第二十四條 申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面及ヒ理事カ清算人タラサル場合ニ於テハ清算人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十五條 夫婦財產契約ニ關スル登記ハ契約者雙方ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第二十六條 申請書ニハ夫婦財產契約書又ハ管理者ノ變更若クハ共有財產ノ分割ヲ許可シタル判決ノ謄本又ハ之ニ關スル契約書ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十七條 第二百二十四條、第二百二十五條、第二百二十六條ノ規定ハ日本ニ事務所ヲ設ケタル外國法人ノ登記ニ之ヲ準用ス

第二十八條 第二百二十五條、第二百二十六條、第二百五十條ノ三乃至第五百一十一條ノ六、第五百一十四條乃至第五百一十七條及ヒ第五百一十七條

六百四十一

記所トス

第十八條 夫婦財產契約ノ登記ニ付テハ夫ト爲ルヘキ者ノ住所地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第十九條 夫ト爲ルヘキ者カ入夫又ハ婿養子ナルトキハ妻ト爲ルヘキ者ノ住所地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第二十條 各登記所ニ法人登記簿及ヒ夫婦財產契約登記簿ヲ備フ

第二十一條 法人設立ノ登記ハ理事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第二十二條 申請書ニハ定款、理事ノ資格ヲ證スル書面及ヒ主務官廳ノ許可書又ハ其認證アル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十三條 事務所ノ新設又ハ事務所ノ移轉其他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事、理事ノ缺ケタル場合ニ於テハ假理事ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス(改正三十二年法律第五十一號)

第二十四條 申請書ニハ理事又ハ假理事ノ資格ヲ證スル書面及ヒ事務所ノ新設又ハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附シ且主務官廳ノ許可ヲ要スルモノニ付テハ其許可書又ハ其認證アル謄本ヲ

添附スルコトヲ要ス(同上)

ノ規定ハ本章ニ定メタル登記ニ之ヲ準用ス
改正四十四年法律第七十四號)
第六十五條ノ規定ハ夫婦財産契約ノ登記ノ
更正ニ之ヲ準用ス(追加二年法律第十九號)

第三編 商事非訟事件

第一章 會社及ヒ競賣ニ關スル事件

第二百二十六條 商法第四十七條、第四十八條、第
百一十一條第二項、第二百二十四條、第六十條第
二項、第九十六條第二項、第九十八條及ヒ
商法施行法第九十五條第二項、第二百二條第二
項、第一百十條第二項ニ定メタル事件ハ會社ノ
本店所在地ノ地方裁判所ノ管轄トス(改正三
十二年法律第五一號)
商法第二百六十條ニ定メタル事件ハ閉鎖ヲ命
セラルヘキ外國會社ノ支店ノ所在地ノ地方裁
判所ノ管轄トス(同上)
商法第二百三十三條ニ定メタル事件ハ解散シ
タル株式會社ノ本店所在地ノ區裁判所ノ管轄
トス(同上)
商法第二百八十九條第一項及ヒ第六百十條第
一項ニ定メタル事件ハ競賣ニ付スヘキ物品所
在地ノ區裁判所ノ管轄トス(同上)

六百四十二

第二百二十七條 検査役ノ選任ノ申請ハ書面ヲ以
テ之ヲ爲スコトヲ要ス
申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ取締役又ハ株主
之ニ署名、捺印スヘシ
一 申請ノ事由
二 検査ノ目的
三 年月日
四 裁判所ノ表示
第二百二十八條 検査役ノ報告ハ書面ヲ以テ之ヲ
爲スコトヲ要ス
裁判所ハ検査ニ付キ説明ヲ必要トスルトキハ
検査役ヲ審訊スルコトヲ得
第二百二十九條 商法第二百二十四條第二項ノ規定
ニ依ル裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ
爲スヘシ
裁判所ハ裁判ヲ爲ス前發起人及ヒ取締役ノ陳
述ヲ聽クヘシ
發起人及ヒ取締役ハ第一項ノ裁判ニ對シテ即
時抗告ヲ爲スコトヲ得
第二百二十九條ノ二 商法第九十八條ノ規定ニ
依リ検査役ノ選任ニ關スル裁判ヲ爲ス場合ニ
於テハ裁判所ハ取締役及ヒ監査役ノ陳述ヲ聽

クヘシ(追加三十二年法律第五十一號)

(第二項削除四十四年法律第七十四號)

第二百二十九條ノ三 商法第二百二十四條又ハ第百

九十八條ノ規定ニ依リ裁判所カ検査役ヲ選任
シタル場合ニ於テハ會社ヲシテ之ニ報酬ヲ與
ヘシムルコトヲ得其額ハ取締役及ヒ監査役ノ
陳述ヲ聽キ裁判所之ヲ定ム(追加同上)

第二百二十九條ノ四 前二條ノ裁判ニ對シテハ即

時抗告ヲ爲スコトヲ得(同上)

第三百十條 商法第九十八條ノ検査ニ付キ株

主總會ノ招集ヲ必要ト認ムルトキハ裁判所ハ
一定ノ期間内ニ其召集ヲ爲スヘキコトヲ命ス
ヘシ

第三百十一條 商法第十一條第二項ノ規定ニ

依リ検査ノ許可ヲ申請スル場合ニ於テハ検査
ヲ要スル事由、同法第六十條第二項ノ規定
ニ依リ總會招集ノ許可ヲ申請スル場合ニ於テ
ハ取締役カ其招集ヲ怠リシ事實ヲ疏明スルコ
トヲ要ス(改正三十二年法律第五十一號)
前項ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス
(同上)

第三百十二條 前條ノ規定ニ依ル申請ニ付テハ

裁判所ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ裁判ヲ爲
スヘシ

申請ヲ認許スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツ
ルコトヲ得ス

第三百十三條 商法第九十六條第二項ノ規定

ニ依ル定款ノ認可ノ申請ハ開業前ニ利息ノ配
當ヲ爲スコトヲ要スル事由ヲ疏明シ總發起人
又ハ總取締役之ヲ爲スヘシ
前項ノ申請ニ對スル裁判ニ付テハ前條ノ規定
ヲ適用ス

第三百十四條 商法第四十七條、第四十八條及

ヒ商法施行法第二百二條第二項ノ場合ニ於ケ
ル會社ノ解散ハ命令ハ理由ヲ附シタル決定ヲ
以テ之ヲ爲スヘシ(同上)

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前利害關係人ノ陳述ヲ聽

キ検査ノ意見ヲ求ムヘシ(同上)
前二項ノ規定ハ會社ノ申請ニ因リ開業期間ノ
伸長ニ付キ裁判ヲ爲ス場合、商法施行法ノ規
定ニ依リ會社ノ營業ノ禁止ヲ命スル場合及ヒ
日本ニ設立シタル外國會社ノ支店ノ閉鎖ヲ命
スル場合ニ之ヲ準用ス(同上)

第三百十五條 會社及ヒ検査ハ前條ノ決定ニ對

スル場合ニ之ヲ準用ス(同上)

六百四十三

シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス(同上)

抗告裁判所カ會社ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ抗告手續ノ費用及ヒ抗告人ノ負擔ニ歸シタル前審ノ費用ハ國庫ノ負擔トス(同上)

第三百三十五條ノ二 會社ノ解散若クハ營業ノ禁止又ハ外國會社ノ支店ノ閉鎖ヲ命スル裁判カ確定シタルトキハ裁判所ハ解散シタル會社、營業ヲ禁止セラレタル會社ノ本店及ヒ支店又ハ閉鎖シタル外國會社ノ支店所在地ノ商業登記所ニ其登記ノ囑託ヲ爲スヘシ抗告裁判所カ裁判ヲ爲シタルトキ亦同シ(追加同上)

登記所カ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ外國會社ニ付テハ其支店ノ登記ヲ抹消シ營業ヲ禁止セラレタル會社ニ付テハ其本店及ヒ支店ノ登記ニ其旨ヲ記載スヘシ(同上)

第三百三十五條ノ三 第二百二十六條第一項及ヒ前三條ノ規定ハ會社ニ非スシテ商業登記ヲ爲シタル者ニ對シ裁判所カ商法施行法ノ規定ニ依リテ營業ノ禁止ヲ命スル場合ニ之ヲ準用ス(同上)

シタル場合ニ之ヲ準用ス(追加四十四年法律第七十四號)

第三百三十八條ノ三 商法第九十一條ノ二第二項ノ鑑定人ノ選任、呼出及ヒ訊問ハ會社ノ本店所在地ノ區裁判所ノ管轄トス(同上)

裁判所カ前項ノ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ會社ノ負擔トス呼出及ヒ訊問ノ費用亦同シ(同上)

第三百三十八條ノ四 第八十八條及ヒ第八十九條ノ規定ハ前條ノ鑑定人ノ選任ノ手續及ヒ裁判ニ之ヲ準用ス(同上)

第三章 商業登記

第一節 通則

第三百三十九條 商法ノ規定ニ依リテ登記ノ申請ヲ爲ス者ハ營業所所在地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第四百十條 各登記所ニ左ノ商業登記簿ヲ備フ

- 一 商號登記簿
二 未成年者登記簿
三 妻登記簿
四 法定代理人登記簿(改正同上)
五 支配人登記簿

六百四十四

第三百三十五條ノ四 會社ノ設立ヲ無効トスル判決カ確定シタルトキハ受託裁判所ハ會社ノ本店及ヒ支店ノ所在地ノ登記所ニ其ノ登記ノ囑託ヲ爲スヘシ(追加同上、改正四十四年法律第七十四號)

登記所カ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ會社ノ設立ノ無効ナルコトヲ登記スヘシ(同上)

第二章 會社ノ清算ニ關スル事件(同上)

第三百三十六條 清算人ノ選任又ハ解任ニ關スル事件ハ會社ノ本店所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

第三百三十七條 清算人ノ選任又ハ解任ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百三十八條 左ニ掲ゲタル者ハ清算人トシテ之ヲ選任スルコトヲ得ス

- 一 未成年者
二 禁治產者及ヒ準禁治產者
三 剝奪公權者及ヒ停止公權者
四 裁判所ニ於テ解任セラレタル清算人
五 破產者

第三百三十八條ノ二 第二百二十九條ノ三及ヒ第二百二十九條ノ四ノ規定ハ裁判所カ清算人ヲ選任

六 合名會社登記簿
七 合資會社登記簿
八 株式會社登記簿
九 株式合資會社登記簿
十 外國會社登記簿

第四百一十一條 各登記所ニ各商業登記簿ノ見出帳ヲ備フ

第四百一十二條 登記所ハ何人ニモ登記簿ノ閱覽ヲ許シ又ハ手数料ヲ納付スルトキハ之ニ其體本若クハ抄本ヲ交付スヘシ

登記所ハ登記上利害ノ關係ヲ疏明シテ申請ヲ爲シタル者ニハ其關係アル部分ニ限り登記簿ノ附屬書類ノ閱覽ヲ許スヘシ

郵送料ヲ納付シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ヲ請フトキハ登記所ハ之ヲ送付スヘシ

第四百一十三條 登記所ハ申請ニ因リ登記事項ニ變更ナキコト又ハ或事項ノ登記ナキコトノ證明ヲ爲スヘシ

第四百一十四條 登記シタル事項ノ公告ハ官報及新聞紙上ニ少クモ一回之ヲ爲スコトヲ要ス

公告ハ之ヲ掲載シタル最終ノ官報及ヒ新聞紙發行ノ日ノ翌日之ヲ爲シタルモノト看做ス

六百四十五

第四百四十五條 區裁判所ハ毎年十二月ニ翌年登

記事項ノ公告ヲ掲載セシムヘキ新聞紙ヲ選定シ官報及ヒ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ
公告ヲ掲載セシムヘキ新聞紙カ休刊又ハ廢刊ヲ爲ストキハ更ニ他ノ新聞紙ヲ選定シ前項ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第四百四十六條 區裁判所ハ其管轄内ニ公告ヲ爲

サシムルニ適當ナル新聞紙ナシト認ムルトキハ新聞紙上ノ公告ニ代ヘ登記所及ヒ其管轄内ノ市町村役場ノ揭示場ニ公告ヲ爲スコトヲ得

第四百四十七條 登記スヘキ事項ノ登記、其變更又ハ消滅ノ登記ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外當事者ノ申請アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百四十八條 當事者ハ登記ヲ受ケタル後其登記ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ管轄登記所ニ其更正ヲ申請スルコトヲ得

第四百四十八條ノ二 當事者ハ登記ヲ受ケタル後其登記カ商法又ハ本法ノ規定ニ依リテ許スヘカラサルモノナルコトヲ發見シタルトキハ管轄登記所ニ其抹消ヲ申請スルコトヲ得(追加同上)

六百四十六

第四百四十九條 登記ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲

スコトヲ要ス
申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人又ハ其代理人ノ署名、捺印スヘシ
一 申請人ノ氏名、住所、會社カ申請人ナキトキハ其商號及ヒ本店又ハ支店
二 代理人ニ依リテ申請ヲ爲ストキハ其氏名住所
三 登記ノ目的及ヒ事由
四 年月日
五 登記所ノ表示

第四百五十條 本章ノ規定ニ依リ連署ヲ以テ申請

ヲ爲スヘキ場合ニ於テ正當ノ事由ニ因リ連署スルコト能ハサル者アルトキハ其他ノ者ノミニテ申請ヲ爲スコトヲ得
連署ヲ爲スコト能ハサル事由ハ之ヲ證明スルコトヲ要ス

第四百五十條ノ二 官廳ノ許可ヲ要スル事項ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ官廳ノ許可書又ハ其認證アル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス(追加同上)

第四百五十條ノ三 本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ

第四百五十一條ノ三 異議ノ申立アリタルトキハ登記所ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ其裁判ヲ爲スヘシ(同上)

第四百五十一條ノ四 異議ノ申立ナキトキ又ハ異議ヲ却下スル裁判カ確定シタルトキハ登記所ハ職權ヲ以テ登記ヲ抹消スヘシ(同上)

第四百五十一條ノ五 前三條ノ規定ハ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ノ登記ニ付テハ本店ノ所在地ニ於テ爲シタル登記ニノミ之ヲ適用ス(同上)

第四百五十一條ノ六 登記所ハ登記ヲ爲シタル後前項ノ場合ニ於テ本店所在地ノ登記所カ登記ヲ抹消シタルトキハ遲滞ナク其旨ヲ支店所在地ノ登記所ニ通知スヘシ(同上)

第四百五十一條ノ六 登記所ハ登記ヲ爲シタル後其登記ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滞ナク登記ヲ爲シタル者ニ其旨ヲ通知スヘシ但其錯誤又ハ遺漏カ登記所ノ過誤ニ出テタルトキハ此限ニ在ラス(追加二年法律第

六百四十七

登記スヘキ事項ニ付キ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ申請スルニハ申請書ニ本店ノ所在地ニ於テ爲シタル登記ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ各本條ニ定メタル書類ハ之ヲ添附スルコトヲ要セス(同上)

第四百五十一條 登記所ハ登記ノ申請カ商法又ハ本章ノ規定ニ適セサルトキハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百五十一條ノ二 登記所ハ登記ヲ爲シタル後其登記カ商法又ハ本法ノ規定ニ依リテ許スヘカラサルモノナルコトヲ發見シタルトキハ登記ヲ爲シタル者ニ對シ一個月ヲ超エサル期間ヲ定メ其期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ登記ヲ抹消スヘキ旨ヲ通知スヘシ(同上)

第四百五十一條ノ三 登記所ハ登記ヲ爲シタル後前項ノ通知ニ代ヘ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ公告スヘシ(同上)
登記所ハ右ノ外相當ト認ムル新聞紙ニ同一ノ公告ヲ掲載セシムルコトヲ得(同上)

コトヲ得

第五百五十五條 司法大臣ハ數個ノ登記所ノ管轄ニ屬スヘキ商業登記ノ事務ヲ其一登記所ニ委任スルコトヲ得

第五百五十六條 登記簿ノ調製其他登記ニ關スル施行細則ハ司法大臣之ヲ定ム

第五百五十七條 不動産登記法第十條、第十三條、第十八條、第二十條、第二十二條、第二十四條、及ヒ第五十九條ノ規定ハ商業登記ニ之ヲ準用ス(改正三十二年法律第五十一號)

第二節 商號ノ登記

第五百五十八條 商號ノ登記ハ同市町村内ニ於テハ同一ノ營業ノ爲メ他人カ登記シタルモノト判然區別シ得ルトキニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五百五十九條 商法施行法第十三條第一項ノ規定ニ依リ他人カ登記シタル商號ト同一ノ商號ノ登記ヲ申請スル者ハ舊商法施行前ヨリ之ヲ使用スルコトヲ證明スルコトヲ要ス(同上)

第六百六十條 商號ノ登記ノ申請書ニハ第四百四十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外營業ノ種類ヲ記載スヘシ商號ノ變更ノ登記ヲ申請スルトキ

コトヲ得

第五百五十五條 司法大臣ハ數個ノ登記所ノ管轄ニ屬スヘキ商業登記ノ事務ヲ其一登記所ニ委任スルコトヲ得

第五百五十六條 登記簿ノ調製其他登記ニ關スル施行細則ハ司法大臣之ヲ定ム

第五百五十七條 不動産登記法第十條、第十三條、第十八條、第二十條、第二十二條、第二十四條、及ヒ第五十九條ノ規定ハ商業登記ニ之ヲ準用ス(改正三十二年法律第五十一號)

第二節 商號ノ登記

第五百五十八條 商號ノ登記ハ同市町村内ニ於テハ同一ノ營業ノ爲メ他人カ登記シタルモノト判然區別シ得ルトキニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五百五十九條 商法施行法第十三條第一項ノ規定ニ依リ他人カ登記シタル商號ト同一ノ商號ノ登記ヲ申請スル者ハ舊商法施行前ヨリ之ヲ使用スルコトヲ證明スルコトヲ要ス(同上)

第六百六十條 商號ノ登記ノ申請書ニハ第四百四十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外營業ノ種類ヲ記載スヘシ商號ノ變更ノ登記ヲ申請スルトキ

第十九號) 前項但書ノ場合ニ於テハ登記所ハ遲滞ナク地方裁判所長ノ許可ヲ得テ登記ノ更正ヲ爲スヘシ
第五百二十二條 削除(大正十一年四月二十四日法律第四十一號破産法第三百八十五條ヲ以テ削除ス)
第五百二十三條 削除(同上)
第五百二十四條 商業登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テハ司法大臣ハ一定ノ期間ヲ定メテ登記ノ回復ニ必要ナル處分ヲ命スル

亦同シ

第六百六十一條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ノ承認人カ商號ヲ續用セントスルトキハ其資格ヲ證スル書面又ハ讓受證書ヲ添ヘ其登記ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス(同上)

第六百六十二條 商號ノ廢止シ又ハ變更シタルトキハ當事者ハ其登記ヲ申請スヘシ(同上)

第六百六十三條 商法第二十四條第一項ノ規定ニ依リテ商號登記ノ抹消ヲ申請スル者ハ其登記上利害ノ關係ヲ有スルコトヲ證明スルコトヲ要ス

第六百六十四條 第五百五十一條ノ二乃至第五百五十一條ノ四ノ規定ハ前條ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス(改正四十四年法律第七十四號)

第六百六十五條

登記所カ第五百五十一條ノ六第二項ノ規定ニ依リ商號ニ關スル登記ノ更正ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク登記ヲ爲シタル者ニ其旨ヲ通知スヘシ(追加二年法律第十九號)

第三節 未成年者、妻及ヒ法定代理人ノ登記(改正同上)

第六百六十六條 未成年者カ商業ヲ營ム場合ニ於テ其登記ヲ申請スルニハ申請書ニ營業ノ種類ヲ記載シ法定代理人ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス但法定代理人カ之ニ連署スルトキハ此限ニ在ラス

親權ヲ行フ母又ハ後見人カ同意ヲ爲シタル場合ニ於テハ親族會ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ併セテ添附スルコトヲ要ス繼父、繼母又ハ嫡母カ同意ヲ爲シタルトキ亦同シ

第六百六十七條 妻カ商業ヲ營ム場合ニ於テ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ營業ノ種類ヲ記載シ夫ノ許可ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス但夫カ之ニ連署スルトキハ此限ニ在ラス

夫カ未成年者ナルトキハ前項ノ許可ヲ爲スニ付キ必要ナル同意ヲ得タルコトヲ證スル書面

合併セテ添附スルコトヲ要ス
妻カ夫ノ許可ヲ得ルコトヲ要セサル場合ニ於
テ營業ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由
ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第六十八條 商業ヲ營ムコトノ許可ヲ爲シタ
ル者カ之ヲ取消シ又ハ之ヲ制限シタルトキハ
遲滞ナク其登記ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス
第六十六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之
ヲ準用ス

第六十九條 前條ノ規定ニ從ヒテ制限ノ登記
ノ申請アリタルトキハ登記所ハ原登記ニ其旨
ヲ記載スヘシ

第七十條 法定財産制ニ異リタル契約ノ登記
ヲ爲シタル妻カ商業ノ登記ヲ申請スルトキ又
ハ其商業ノ登記ヲ爲シタル後管理者ノ變更若
クハ共有財産ノ分割ノ登記ヲ爲シタルトキハ
書面ヲ以テ登記所ニ其ノ届出ヲ爲スコトヲ要
ス

前項ノ届出アリタルトキハ登記所ハ當事者ノ
商業登記ニ之ヲ記載スヘシ
第七十一條 法定代理人カ無能力者ノ爲メニ
商業ヲ營ム場合ニ於テ登記ヲ申請スルニハ申

請書ニ法定代理人タル資格ヲ記載シ親族會ノ
同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコ
トヲ要ス(改正同上)

第四節 支配人及ヒ會社ノ清算人ノ
登記

第七十二條 支配人ノ選任ノ登記ハ主人ノ申
請ニ因リテ之ヲ爲ス
會社カ申請人ナル場合ニ於テハ前項ノ登記ハ
其會社ヲ代表スヘキ社員又ハ取締役ノ申請ニ
因リテ之ヲ爲ス(同上)

第七十三條 支配人ノ選任ノ登記ノ申請書ニ
ハ第四百九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左
ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 支配人ノ氏名、住所
 - 二 申請人カ數箇ノ商號ヲ以テ數種ノ商業ヲ
營ムトキハ支配人カ代理スヘキ商業及ヒ其
用ユヘキ商號
 - 三 支配人ヲ置キタル場所
 - 四 數人ノ支配人カ共同シテ代理權ヲ行フヘ
キコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規
定(追加同上)
- 會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ其設

立ノ登記ノ年月日ヲ記載シ支配人ノ選任及ヒ
前項第四號ニ掲ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添
附スルコトヲ要ス(改正同上)

第七十四條 第七十二條ノ規定ハ支配人ノ
代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ掲ケタ
ル事項並ニ其變更、消滅ノ登記ヲ申請スル場
合ニ之ヲ準用ス(同上)

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項
ニ掲ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコト
ヲ要ス(同上)

第七十五條 清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲
スヘキ會社ノ登記所ノ管轄トス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス
第七十六條 清算人ノ選任ノ登記ノ申請書ニ
ハ其選任及ヒ商法第九十條第二號並ニ第三號
ニ掲ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコト
ヲ要ス(同上)

第七十七條 商法第九十條ニ掲ケタル事項ノ
變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ現任清算人ノ
申請ニ因リテ之ヲ爲ス(同上)
申請書ニハ變更ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附ス
ルコトヲ要ス(同上)

第七十八條 清算ノ終了ノ登記ヲ申請スルニ

ハ申請書ニ清算人カ其計算ノ承認ヲ得タルコ
トヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第五節 合名會社及合資會社ノ登記

第七十九條 合名會社ノ設立ノ登記ハ總社員
ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ定款ヲ添附シ且社員中ニ未成年者
又ハ妻アル者ハ其社員タルコト同意ヲ爲スヘ
キ者ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第八十條 合名會社ノ支店ノ設立、其本店又
ハ支店ノ移轉其他變更ノ登記ハ會社ヲ代表ス
ヘキ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

前項ノ申請書ニハ其登記事項ニ付キ總社員ノ
同意又ハ或社員ノ一致ヲ要スル場合ニ於テハ
會社ヲ代表スヘキ社員ノ定アルトキニ限り總
社員ノ同意又ハ或社員ノ一致アリタルコトヲ
證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

商法第八十三條但書ノ規定ニ依リ裁判所カ或
社員ヲ除名シタル場合ニ於ケル變更ノ登記ノ
申請書ニハ其判決ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要
ス
社員ノ氏、名若クハ住所ノ變更ノ登記ハ會社

ヲ代表スヘキ社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘ

第八十一條 合名會社ノ解散ノ登記ハ總社員

又ハ其相續人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且相續人カ申
請ヲ爲ストキハ其資格ヲ證スル書面ヲ添附ス
ルコトヲ要ス

會社カ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタル場合
ニ於テハ登記所ハ裁判所ノ囑託ニ因リテ其登
記ヲ爲スヘシ

第八十二條 合名會社ノ合併ニ因ル解散ノ登
記ハ解散スヘキ會社ノ總社員ノ申請ニ因リテ
之ヲ爲ス

申請書ニハ商法第七十八條第二項ニ依ル公告
及ヒ催告ヲ爲シタルコト、若シ異議ヲ述ヘタ
ル債權者アルトキハ之ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ
擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面ヲ添附スル
コトヲ要ス

第八十二條ノ二 合名會社カ合併ニ因ル變更
ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載
シ第七十九條第二項及ヒ前條第二項ニ掲ケ
タル書類ヲ添附スルコトヲ要ス(追加同上)

第八十二條ノ三 合名會社カ合併ニ因ル設立

ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載
シ第七十九條第二項並ニ第八十二條第二
項ニ掲ケタル書類及ヒ商法第四十四條ノ第三
項ノ規定ニ依リテ選任セラレタル者ノ資格
ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス(同上)

第八十三條 第七十九條第一項ノ規定ハ合
名會社ノ合併ニ因ル變更又ハ設立ノ登記ノ申
請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八十四條 合名會社カ社員ノ請求ニ因リテ
解散シタルトキハ各社員ノ請求ニ因リテ其登
記ヲ爲スヘシ

前項ノ申請書ニハ判決ノ謄本ヲ添附スルコト
ヲ要ス
(第三項削除同上)

第八十四條ノ二 第八十一條第一項及ヒ第
二項ノ規定ハ合名會社ノ設立取消ノ登記ノ申
請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス(追加同上)

第八十四條ノ三 第八十二條ノ規定ハ合名
會社ノ組織變更ニ因ル解散ノ登記ノ申請ヲ爲
ス場合ニ之ヲ準用ス(同上)

第八十四條ノ四 商法第八十三條ノ三又ハ第

八十三條ノ四ノ規定ニ依リ合資會社ニ付キ爲ス

ヘキ登記ハ無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リ
テ之ヲ爲ス(同上)

申請書ニハ組織變更ノ事由ヲ記載シ定款ヲ添
附スルコトヲ要ス(同上)

有限責任社員ヲ加入セシメタル場合ニ於テハ
其加入ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス(上
同上)

第八十五條 商法第十八條第二項ノ規定ニ
依リ合名會社ニ付キ爲スヘキ登記ハ總社員ノ
申請ニ因リテ之ヲ爲ス(改正同上)

前條第二項ノ規定ハ前項ノ登記ノ申請ヲ爲ス
場合ニ之ヲ準用ス(同上)

第八十五條ノ二 第七十九條第二項及ヒ前
條ノ規定ハ商法第十八條ノ二ノ規定ニ依リ
合名會社ニ付キ爲スヘキ登記ニ之ヲ準用ス(追
加同上)

第八十六條 第七十九條乃至第八十四條
ノ三ノ規定ハ合資會社ノ登記ニ之ヲ準用ス但
合名會社ニ於テ總社員ノ申請ニ因リテ爲スヘ
キ登記ハ合資會社ニ於テハ其無限責任社員ノ
全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス(改正同上)

第六節 株式會社ノ登記

第八十七條 株式會社ノ設立ノ登記ハ總取締

役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス(改
正三十二年法律第五十一號)

申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス(改
正四十四年法律第七十四號)

一 定款

二 株式ノ引受ヲ證スル書面

三 株式申込證

四 取締役及ヒ監査役又ハ檢査役ノ調査報告
書及ヒ其附屬書類

五 檢査役ノ報告ニ關スル裁判アリタルトキ
ハ其謄本

六 發起人カ取締役及ヒ監査役ヲ選任シタル
トキハ之ニ關スル書類

七 創立總會ノ決議錄

第八十八條 支店ノ設立、本店又ハ支店ノ移
轉其他變更ノ登記ハ總取締役ノ申請ニ因リテ
之ヲ爲ス(改正三十二年法爲第五十一號)

申請書ニハ登記事項ニ付キ株主總會ノ決議ヲ
要スル場合ニ於テハ其決議錄ヲ添附スルコト
ヲ要ス(改正四十四年法律第七十四號)

取締役又ハ監査役ノ氏、名又ハ住所ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ(同上)

第六百八十九條 會社ノ資本増加ノ登記ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

- 一 株式ノ引受ヲ證スル書面(同上)
- 二 株式申込證(同上)
- 三 商法第二百十四條ノ規定ニ從ヒテ監査役又ハ検査役カ爲シタル調査報告書及ヒ其附屬書類
- 四 資本ノ増加ニ關スル株主總會ノ決議錄

第六百九十條 會社ノ資本減少ノ登記ノ申請書ニハ之ニ關スル株主總會ノ決議錄ヲ添附スルコトヲ要ス

第六百八十二條第二項ノ規定ハ資本減少ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第六百九十一條 社債ノ登記ハ總取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス(同上)

申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス(同上)

- 一 最終ノ貸借對照表
- 二 社債ノ引受ヲ證スル書面

第六百九十二條 社債ニ關スル株主總會ノ決議錄ヲ代表スヘキ總取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス(同上)

申請書ニハ變更ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス(同上)

第六百九十三條 會社ノ解散ノ登記ノ申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且會社カ株主總會ノ決議又ハ合併ニ因リテ解散シタルトキハ株主總會ノ決議錄ヲ添附スルコトヲ要ス

第六百八十二條第二項ノ規定ハ株式會社カ合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

會社カ裁判所ノ命令ニ因リ解散シタルトキハ登記所ハ裁判所ノ囑託ニ因リテ其登記ヲ爲スヘシ

第六百九十三條ノ二 株式會社合併ニ因ル變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其ノ事由ヲ記載シ第百八十二條第二項並ニ第百八十九條第三

號、第四號ニ掲ケタル書類及ヒ株式ノ割當並ニ引受ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス(追加同上)

第六百九十三條ノ三 株式會社カ合併ニ因ル設立ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第百八十二條第二項並ニ第百八十七條第二項ニ掲ケタル書類及ヒ商法第四十四條ノ三第二項ノ規定ニ依リテ選任セラレタル者ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス(同上)

第六百九十四條 (削除同上)

第六百九十四條ノ二 舊商法ノ規定ニ依リテ設立シタル株式會社カ商法施行法第五十條ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス(追加三十二年法律第五十一號)

- 一 定款
- 二 株主名簿
- 三 各株主ノ株式ノ申込ヲ證スル書面
- 四 設立免許書
- 五 創業總會ノ決議錄

第六百八十七條第一項ノ規定ハ前項ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス(同上)

第六百九十四條ノ三 舊商法ノ規定ニ依リ資本ヲ

増加シタル場合ニ於テ會社カ商法施行法第八十五條ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス(同上)

- 一 株主名簿
- 二 新株主ノ株式ノ申込ヲ證スル書面
- 三 資本ノ増加ニ關スル株主總會ノ決議錄及ヒ假決議錄

第六百九十四條ノ四 舊商法ノ規定ニ依リ資本ヲ減少シタル場合ニ於テ會社カ資本減少ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス(同上)

- 一 舊商法第二百七條ニ依ル通知及ヒ催告ヲ爲シタルコト及ヒ異議ヲ申出テタル債權者ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面
- 二 資本ノ減少ニ關スル株主總會ノ決議錄及ヒ假決議錄

第六百九十四條ノ五 舊法ノ規定ニ依リ債券ヲ發行シタル場合ニ於テ會社カ商法施行法第七十九條及ヒ第八十條ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス(同上)

- 一 株金ノ拂込金額ヲ證スル書面

二 債券原簿

三 主務省ノ認許書又ハ其認證アル謄本

四 債券ノ發行ニ關スル株主總會ノ決議錄

第九十五條 資本ノ増加並ニ減少、解散及ヒ合併ニ因ル變更並ニ設立ノ登記ハ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス(改正四十四年法律第七十四號)

第九十五條ノ二 第三百三十五條ノ四ノ規定ハ商法第六十三條ノ四ニ定メタル登記ニ之ヲ準用ス(追加同上)

第七節 株式合資會社ノ登記

第九十六條 株式合資會社ノ設立ノ登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第九十七條 支店ノ設立、本店又ハ支店ノ移轉其他變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第九十七條ノ二 第九十七條第二項ノ規定ハ前項ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

六百五十六

外第九十條第二項ノ規定ヲ準用ス

無限責任社員又ハ監査役ノ氏、名若クハ住所ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

第九十八條 第九十九條、第九十條及ヒ第九十六條第一項ノ規定ハ資本ノ増加又ハ減少ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス(改正三十二年法律第五十一號及四十四年同第七十四號)

第九十八條ノ二 社債ノ登記ハ無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス(追加四十四年法律第七十四號)

第九十九條 第九十九條第二項、第九十九條ノ二、第九十九條ノ三及ヒ第九十九條第一項ノ規定ハ合併ニ因ル變更又ハ設立ノ申請書ニハ變更ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス(同上)

第九十九條ノ三 社債ニ關スル變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス(同上)

第九十九條ノ二 第九十九條第二項、第九十九條ノ二、第九十九條ノ三及ヒ第九十九條第一項ノ規定ハ合併ニ因ル變更又ハ設立ノ申請書ニハ變更ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス(同上)

登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス(改正同上)

第二百條 株式會社ノ解散ノ登記ハ無限責任社員ノ全員又ハ其相繼人及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス但無限責任社員ノ全員カ退社シタル場合ニ於ケル解散ノ登記ハ無限責任社員又ハ其ノ相繼人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附シ且無限責任社員ノ同意及ヒ株主總會ノ決議ニ因リ又ハ會社ノ合併ニ因リテ解散シタルトキハ之ニ關スル株主總會ノ決議錄ヲ添附スルコトヲ要ス

第八十二條第二項ノ規定ハ會社ノ合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

會社カ裁判所ノ命令ニ因リ解散シタルトキハ登記所ハ裁判所ノ囑託ニ因リテ其登記ヲ爲スヘシ

第二百條ノ二 株式合資會社ノ組織變更ニ因ル解散ノ登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス(追加同上)

申請書ニハ株主總會ノ決議錄及ヒ第九十二條第二項ノ規定ハ會社ノ合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

條第二項ニ掲ケタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス(同上)

第一百條 株式合資會社ノ組織ヲ變更シ株式會社ト爲シタル場合ニ於ケル設立ノ登記ハ設立シタル株式會社ノ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ組織變更ノ事由ヲ記載シ定款、株式ノ引受ヲ證スル書面及ヒ組織變更ニ關スル株主總會ノ決議錄ヲ添附スルコトヲ要ス(改正同上)

(第三項削除同上)

前二項ノ規定ハ商法第二百四十七條ノ規定ニ從ヒテ會社ヲ繼續スル場合ニ之ヲ準用ス(改正同上)

第二百一條ノ二 第九十五條ノ二ノ規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス(追加同上)

第八節 外國會社ノ登記

第二百二條 外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケタル場合ニ於テ其登記ヲ申請スルトキハ會社ノ代表者ハ申請書ニ支店ノ代表者ノ氏名、住所ヲ記載シ且左ノ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

一 本店ノ存在ヲ認ムルニ足ル書面

二 代表者タル資格ヲ證スル書面
三 會社ノ定款又ハ會社ノ性質ヲ識別スルニ足ル書面

前項ノ書面ハ外國會社ノ本國ノ管轄官廳又ハ日本ニ在ル領事ノ認證ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス

第二百三條 日本ニ於テ登記シタル外國會社ノ支店ノ代表者ニ變更アリタルトキハ現任代表者ハ管轄登記所ニ其届出ヲ爲スヘシ
前條ノ規定ハ前項ノ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二百四條 外國會社ノ支店ノ廢止又ハ其登記事項ノ變更ノ登記ハ支店ノ代表者ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

日本ニ於テ登記シタル外國會社ノ支店ノ代表者カ外國ニ於テ生シタル登記事項ノ變更ニ付キ其登記ヲ申請スル場合ニ於テハ會社ノ本國ノ管轄官廳又ハ日本ニ在ル領事ノ認證アル書面ニ依リテ變更ノ事實ヲ證明スルコトヲ要ス
第二百五條 (創除三十二年法律第五十一號)

附則
第二百六條 民法第八十四條、第一千七百條及ヒ民法施行法第二十二條及ヒ商法第十八條第二

項、第二百六十二條、第二百六十二條ノ二、第五百三十六條及ヒ商法施行法第十一條第二項、第二十七條、第三十九條第二項、第五十四條、第六十條第二項、第六十九條、第七十五條第三項、第八十七條ニ定メタル事件ハ過料ニ處セラルヘキ者ノ住所ノ地方裁判所ノ管轄トス(改正三十二年法律第五十一號及四十四年法律第七十四號)

第二百七條 過料ノ裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ(改正三十二年法律第五十一號)

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前當事者ノ陳述ヲ聽キ檢事ノ意見ヲ求ムヘシ(同上)

當事者及ヒ檢事ハ過料ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス(同上)

手續ノ費用ハ過料ニ處スニ言渡アリタル場合ニ於テハ其言渡ヲ受ケタル者ノ負擔トシ其他ノ場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス(同上)

抗告裁判所カ當事者ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタルトキハ抗告手續ノ費用及ヒ前審ニ於テ當事者ノ負擔ニ歸シタル費用ハ國庫ノ負擔

トス(同上)

第二百八條 過料ノ裁判ハ檢事ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス此命令ハ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

過料ノ裁判ノ執行ハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但執行ヲ爲ス前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第二百九條 非訟事件手續法其他從前ノ法令ニシテ本法ノ規定ト抵觸シ又ハ重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス(同上)

本法施行前ニ裁判所カ申立ヲ受ケ之ハ著手シタル事件ハ舊法令ニ依ル(同上)

第二百九條ノ二 外國人ニ關スル非訟事件手續ニシテ條約ニ因リ特ニ定ムルコトヲ要スルモノハ司法大臣之ヲ定ム(追加同上)

第二百十條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●明治四十四年(五月)法律第七十四號(非訟事件手續法中改正)ノ附則
本法ハ商法中改正法律施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行前ニ裁判所ノ受理シタル事件ニハ從前ノ規定ヲ適用ス

第一條 條約ノ規定ニ依リ外國人ノ死亡ノ通知ヲ爲シ、其通知ヲ受テ又ハ外國人ノ遺產ノ保存處分ニ干與スヘキ地方ノ當該官廳ハ死亡地

ノ管轄スル區裁判所トス
外國人カ日本ノ版圖外ニ於テ死亡シタルトキハ前項ノ當該官廳ハ遺產ノ所在地ヲ管轄スル

●非訟事件手續法第
二百九條ノ二ニ依
リ外國人ノ遺產ノ
保存處分ニ關スル
手續(三十二年七月八日
司法省令第四十號)

後見人登記簿ハ法定代理人登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有シ營利ヲ目的トスル社團法人ノ登記簿ハ其法人ノ種類ニ從ヒ合名會社登記簿、合資會社登記簿、株式會社登記簿又ハ株式合資會社登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有ス

商法中改正法律附則ノ規定ニ依リ舊法ノ規定ヲ適用スヘキ場合ニ付テハ從前ノ規定ハ仍ホ其效力ヲ有ス

後見人登記簿ハ法定代理人登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有シ營利ヲ目的トスル社團法人ノ登記簿ハ其法人ノ種類ニ從ヒ合名會社登記簿、合資會社登記簿、株式會社登記簿又ハ株式合資會社登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有ス

後見人登記簿ハ法定代理人登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有シ營利ヲ目的トスル社團法人ノ登記簿ハ其法人ノ種類ニ從ヒ合名會社登記簿、合資會社登記簿、株式會社登記簿又ハ株式合資會社登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有ス

後見人登記簿ハ法定代理人登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有シ營利ヲ目的トスル社團法人ノ登記簿ハ其法人ノ種類ニ從ヒ合名會社登記簿、合資會社登記簿、株式會社登記簿又ハ株式合資會社登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有ス

後見人登記簿ハ法定代理人登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有シ營利ヲ目的トスル社團法人ノ登記簿ハ其法人ノ種類ニ從ヒ合名會社登記簿、合資會社登記簿、株式會社登記簿又ハ株式合資會社登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有ス

後見人登記簿ハ法定代理人登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有シ營利ヲ目的トスル社團法人ノ登記簿ハ其法人ノ種類ニ從ヒ合名會社登記簿、合資會社登記簿、株式會社登記簿又ハ株式合資會社登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有ス

後見人登記簿ハ法定代理人登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有シ營利ヲ目的トスル社團法人ノ登記簿ハ其法人ノ種類ニ從ヒ合名會社登記簿、合資會社登記簿、株式會社登記簿又ハ株式合資會社登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有ス

後見人登記簿ハ法定代理人登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有シ營利ヲ目的トスル社團法人ノ登記簿ハ其法人ノ種類ニ從ヒ合名會社登記簿、合資會社登記簿、株式會社登記簿又ハ株式合資會社登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有ス

後見人登記簿ハ法定代理人登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有シ營利ヲ目的トスル社團法人ノ登記簿ハ其法人ノ種類ニ從ヒ合名會社登記簿、合資會社登記簿、株式會社登記簿又ハ株式合資會社登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有ス

後見人登記簿ハ法定代理人登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有シ營利ヲ目的トスル社團法人ノ登記簿ハ其法人ノ種類ニ從ヒ合名會社登記簿、合資會社登記簿、株式會社登記簿又ハ株式合資會社登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有ス

後見人登記簿ハ法定代理人登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有シ營利ヲ目的トスル社團法人ノ登記簿ハ其法人ノ種類ニ從ヒ合名會社登記簿、合資會社登記簿、株式會社登記簿又ハ株式合資會社登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有ス

後見人登記簿ハ法定代理人登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有シ營利ヲ目的トスル社團法人ノ登記簿ハ其法人ノ種類ニ從ヒ合名會社登記簿、合資會社登記簿、株式會社登記簿又ハ株式合資會社登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有ス

後見人登記簿ハ法定代理人登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有シ營利ヲ目的トスル社團法人ノ登記簿ハ其法人ノ種類ニ從ヒ合名會社登記簿、合資會社登記簿、株式會社登記簿又ハ株式合資會社登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有ス

後見人登記簿ハ法定代理人登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有シ營利ヲ目的トスル社團法人ノ登記簿ハ其法人ノ種類ニ從ヒ合名會社登記簿、合資會社登記簿、株式會社登記簿又ハ株式合資會社登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有ス

後見人登記簿ハ法定代理人登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有シ營利ヲ目的トスル社團法人ノ登記簿ハ其法人ノ種類ニ從ヒ合名會社登記簿、合資會社登記簿、株式會社登記簿又ハ株式合資會社登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有ス

後見人登記簿ハ法定代理人登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有シ營利ヲ目的トスル社團法人ノ登記簿ハ其法人ノ種類ニ從ヒ合名會社登記簿、合資會社登記簿、株式會社登記簿又ハ株式合資會社登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有ス

後見人登記簿ハ法定代理人登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有シ營利ヲ目的トスル社團法人ノ登記簿ハ其法人ノ種類ニ從ヒ合名會社登記簿、合資會社登記簿、株式會社登記簿又ハ株式合資會社登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有ス

後見人登記簿ハ法定代理人登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有シ營利ヲ目的トスル社團法人ノ登記簿ハ其法人ノ種類ニ從ヒ合名會社登記簿、合資會社登記簿、株式會社登記簿又ハ株式合資會社登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有ス

後見人登記簿ハ法定代理人登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有シ營利ヲ目的トスル社團法人ノ登記簿ハ其法人ノ種類ニ從ヒ合名會社登記簿、合資會社登記簿、株式會社登記簿又ハ株式合資會社登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有ス

旨ヲ領事官ニ通知スヘシ

第七條 本令ハ明治三十二年七月十七日ヨリ之ヲ施行ス

● 共通法

(大正七年四月十七日法律第三十九號)

第一條 本法ニ於テ地域ト稱スルハ内地、朝鮮、臺灣又ハ關東州ヲ謂フ

前項ノ内地ニハ樺太ヲ包含ス

第二條 民事ニ關シ一ノ地域ニ於テ他ノ地域ノ法令ニ依ルコトヲ定メタル場合ニ於テハ各地域ニ於テ其地ノ法令ヲ適用ス二以上ノ地域ニ於テ同一ノ他ノ地域ノ法令ニ依ルコトヲ定メタル場合ニ於テ其ノ相互ノ間亦同シ

民事ニ關シテハ前項ノ場合ヲ除クノ外法例ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ各當事者ノ屬スル地域ノ法令ヲ以テ其ノ本國法トス

第三條 一ノ地域ノ法令ニ依リ其ノ地域ノ家ニ入ル者ハ他ノ地域ノ家ヲ去ル

區裁判所トス

第二條 外國人ノ遺産ノ保存處分ニ關スル行爲ハ之ヲ囑託スルコトヲ得

第三條 警察官ハ外國人ノ死亡ノ事實ヲ知リタルトキハ直ニ死亡者ノ國籍、住所又ハ居所、氏名、年齢及ヒ死亡ノ場所並ニ年月日ヲ第一條第一項ノ區裁判所ニ報告スヘシ

第四條 條約ノ規定ニ依リ地方ノ當該官廳カ外國人ノ遺産ノ封印又ハ其開封ニ立會フヘキ場合ニ於テハ管轄區裁判所ノ列事及ヒ書記之ニ立會フヘシ檢事ハ之ニ立會フコトヲ得

第五條 條約ノ規定ニ依リ地方ノ當該官廳カ外國人ノ遺産目錄ヲ調製シ領事官ニ之ヲ送付スヘキ場合ニ於テハ管轄區裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ管理人ヲ選任シ財産目錄ノ謄本ヲ提出セシメ條約ニ定メタル他ノ書類ト共ニ之ヲ領事官ニ送付スヘシ

第六條 管轄區裁判所ハ外國人ノ遺産ニ關シ非訟事件手續法第六十九條、第七十條ノ公告又ハ民法第五十七條ノ公告アリタルトキハ其

一ノ地域ノ法令ニ依リ家ヲ去ルコトヲ得サル者ハ他ノ地域ノ家ニ入ルコトヲ得ス

陸海軍ノ兵籍ニ在ラサル者及兵役ニ服スル義務ナキニ至リタル者ニ非サレハ他ノ地域ノ家ニ入ルコトヲ得ス但シ徵兵終決處分ヲ經テ第二國民兵役ニ在ル者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 一ノ地域ニ於テ成立シタル法人ハ他ノ地域ニ於テ其ノ成立ヲ認ム

前項ノ法人ハ他ノ地域ノ法令ニ依リ同種又ハ類似ノ法人ノ爲スコトヲ得サル事項ハ其ノ地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 一ノ地域ノ法人ハ其ノ事務所若ハ營業所ヲ他ノ地域ニ移轉シ又ハ從タル事務所若ハ營業所ヲ他ノ地域ニ於テ設立スルコトヲ得但シ主タル事務所又ハ營業所ノ移轉ハ移轉地ニ於テ設立スルコトヲ得ヘキ法人ト同種ノ法人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ移轉又ハ設立ニ必要ナル條件ハ各地域ノ法令ノ定ムル所ニ依ル

第六條 一ノ地域ノ法人カ其ノ事務所若ハ營業

所ヲ他ノ地域ニ移轉シ又ハ從タル事務所若ハ營業所ヲ他ノ地域ニ於テ設立シタルトキハ四週間内ニ各其ノ地ノ法令ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ法人ニ關シ一ノ地域ニ於テ生シタル事項ニ付他ノ地域ニ於テ登記ヲ爲スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第七條 一ノ地域ノ會社ハ他ノ地域ノ會社ト合併ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ合併ニ必要ナル條件ハ各地域ノ法令ノ定ムル所ニ依ル

第八條 一ノ地域ノ法人ノ役員ノ行爲ニ付定メタル過料ノ規定ハ其ノ地域ニ於テ他ノ地域ノ同種又ハ類似ノ役員ノ爲シタル行爲ニ之ヲ適用ス

前項ノ役員トハ發起人、理事、監事及之ニ準スヘキ者並清算人ヲ謂フ

第九條 民事訴訟及非訟事件ニ付一ノ地域内ニ住所ヲ有シサル者ノ裁判管轄又ハ他ノ地域

ノ法人ノ裁判管轄ニ關シテハ民事訴訟法、人事訴訟手續法及非訴訟事件手續法中日本ニ住所有セサル者又ハ外國法人ノ裁判管轄ニ關スル規定ヲ準用ス

前項ノ規定ノ適用ニ付裁判管轄ノ指定ニ關スル司法大臣ノ職務ハ朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣總督又ハ關東都督之ヲ行フ

第十條 一ノ地域ニ主タル營業所又ハ住所ヲ有スル者ニ對シテハ其ノ地域ニ於テノミ破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

一ノ地域ニ於テ爲シタル破産ノ宣告ノ效力ハ他ノ地域ニ及フ

第十一條 一ノ地域ニ於テ民事訴訟、非訟事件又ハ破産事件ニ關シテ爲シタル訴訟行爲、裁判、處分其ノ他ノ手續上ノ行爲ハ他ノ地域ニ於ケル法令ノ適用ニ關シテハ其ノ地ノ法令ニ依リ爲シタルモノト同一ノ效力ヲ有ス但シ其ノ地ノ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ民事訴訟調停ニ付之ヲ準用ス民事訴訟調停ニ關スル規定ナキ地域ニ於テハ其ノ調停ハ民事訴訟法ニ依リテ爲シタル和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第十二條 一ノ地域ニ於テ作成シタル公正證書其ノ他法令ニ依リ官署公署ノ作成シタル文書ハ他ノ地域ニ於テ其ノ地ノ法令ニ依リ作成シタルモノト同一ノ公正ノ效力ヲ有ス

第十三條 一ノ地域ニ於テ罪ヲ犯シタル者ハ他ノ地域ニ於テ之ヲ處罰スルコトヲ得

第十四條 刑事ニ關シ一ノ地域ニ於テ他ノ地域ノ法令ニ依ルコトヲ定メタル場合ニ於テハ各地域ニ於テ其ノ他ノ法令ヲ適用ス二以上ノ地域ニ於テ同一ノ他ノ地域ノ法令ニ依ルコトヲ定メタル場合ニ於テ其ノ相互ノ間亦同シ一ノ地域ニ於テ他ノ地域ノ犯罪ヲ處斷スル場合ニ於テハ前項ノ場合ニ除クノ外犯罪地ノ法令ニ依ル但シ管刑ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラス
犯罪地ノ法令ニ依リ處斷スル場合ニ於テ處斷

地ノ法令ニ管刑ニ關スル規定アルトキハ其ノ規定ニ依リ管刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第十五條 一ノ地域ノ法人ノ役員又ハ支配人ノ行爲ニ付定メタル刑罰ノ規定ハ其ノ地域ニ於テ他ノ地域ノ同種ノ法人ノ役員又ハ支配人ノ爲シタル行爲ニ之ヲ適用ス

前項ノ役員ニハ第八條第二項ニ掲クル者ノ外検査役ヲ包含ス

第十六條 一箇ノ刑事事件又ハ牽連スル數箇ノ刑事事件カ地域ヲ異ニスル數箇ノ裁判官廳ノ管轄ニ屬スルトキハ刑事訴訟法第二十七條及第二十八條ノ規定ヲ準用ス

第十七條 一ノ地域ノ檢察、檢察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者他ノ地域ノ管轄裁判官廳ニ於テ事件ヲ審理スルコトヲ適當ト認ムルトキハ其ノ地域ノ檢察、檢察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ之ヲ送致スルコトヲ得

一ノ地域ノ豫審又ハ第一審ノ裁判官廳他ノ地域ノ管轄裁判官廳ニ於テ事件ヲ審理スルコトヲ適當ト認ムルトキハ檢察、檢察官又ハ其ノ

職務ヲ行フ者ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ其ノ地域ノ管轄裁判官廳ニ之ヲ移送スルコトヲ得

第十八條 一ノ地域ニ於テ刑事ノ訴訟若ハ即決處分又ハ假出獄ニ關シテ爲シタル裁判、處分其ノ他ノ手續上ノ行爲ハ他ノ地域ニ於ケル法令ノ適用ニ關シテハ其ノ地ニ於テ爲シタルモノト同一ノ效力ヲ有ス

第十一條第一項但書ノ規定ハ私訴ニ之ヲ準用ス

第十九條 一ノ地域ニ於テ爲シタル刑ノ執行猶豫ノ言渡又ハ假出獄ノ處分ハ他ノ地域ニ於テ其ノ他ノ法令ニ依リ之ヲ取消スコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但シ第三條ノ規定ニ付テハ別ニ其ノ施行期日ヲ定ムルコトヲ得(大正七年勅令第四百四十四號ヲ以テ第三條ノ規定ヲ除クノ外同年六月一日ヨリ施行)

本法ハ本法施行前ニ生シタル事項ニ付亦之ヲ適用ス但シ第十一條第一項及第十八條第一項ノ規

定ノ適用ニ付テハ人ノ資格ニ基ク既成ノ效果ヲ妨ケス
本法施行前ニ宣告シタル破産ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

法人及夫婦財産登記之部

◎法人及ヒ夫婦財産

契約登記取扱手續

(明治三十二年五月三十一日司法省令第十五號)

- 第一條 法人登記簿ハ附録第一號離形ニ依リ夫婦財産契約登記簿ハ附録第二號離形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ
- 第二條 法人登記見出帳及ヒ夫婦財産契約登記見出帳ハ附録第三號離形ニ依リ之ヲ調製スヘシ(改正五年省令三十號)
- 第三條 登記所ニハ登記簿、見出帳及ヒ受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フ(同上)
一 印鑑簿

- 二 申請書類送込帳
 - 三 決定原本送込帳
 - 四 抗告書類送込帳
 - 五 登記簿送付帳
 - 六 謄本抄本證明書交付帳
 - 七 受領證原符元帳
- 前項第二號乃至第七號ノ帳簿ハ一箇年毎ニ別冊ト爲スヘシ但分冊スルコトヲ妨ケス
- 第三條ノ二 夫婦財産契約登記見出帳中名稱欄ニハ夫ノ氏名ヲ記載シ備考欄ニ妻ノ氏名ヲ記載スヘシ(同上)
 - 第三條ノ三 法人設立ノ登記ヲ爲シタルトキハ登記用紙中名稱欄ニ法人ノ種類ヲ記載スヘシ(追加同上)
 - 第四條 外國法人ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ登記スヘキ事項ノ名稱カ或欄ノ表示ニ適合セサルトキハ最モ之ニ類似セル欄ニ記載シタル上其名稱ヲ附記スヘシ
 - 第五條 外國法人ノ事務所ノ廢止ノ登記ハ登記用紙中變更欄ニ之ヲ爲シ其登記用紙ヲ閉鎖ス

ヘシ

- 第六條 民法施行法第二十條第一項ノ規定ニ依リテ申請シタル法人ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中第四欄ニ主務官廳ノ認可アリタルコト及ヒ其年月日ヲ記載スヘシ
- 第七條 夫婦財産契約カ夫婦ノ一方ノ死亡ニ因リテ終了シタルトキハ他ノ一方ノ者ノミニテ登記ノ申請ヲ爲スヘシ
前項ノ場合ニ於テハ申請書ニ其事由ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スヘシ
- 第八條 夫婦財産契約ニ關シ登記シタル事項ノ變更ノ登記又ハ夫婦財産契約ノ登記ノ更正ハ登記用紙中管理者ノ變更及ヒ共有財産ノ分割欄ニ之ヲ爲スヘシ
- 第九條 商業登記取扱手續第二十一條第五項、第二十三條及ヒ第二十六條ノ規定ハ法人ノ登記ニ之ヲ準用ス
- 第十條 不動産登記法施行細則第四條、第五條第十二條、第十三條、第二十條乃至第二十四條第二十七條、第三十三條乃至第三十五條ノ二第三十六條、第三十七條、第三十九條、第

- 四十七條、第五十一條及ヒ商業登記取扱手續第五條乃至第七條、第九條乃至第二十條、第二十四條、第二十五條、第二十七條、第二十八條、第二十九條乃至第三十二條、第四十六條ノ規定ハ法人及ヒ夫婦財産契約ノ登記ニ之ヲ準用ス
 - 第十一條 削除(四十四年省令二十一號) 附則
 - 第十二條 本令ハ明治三十二年六月十六日ヨリ之ヲ施行ス
 - 第十三條 明治三十一年(七月)司法省令第六號 法人及ヒ夫婦財産契約登記取扱規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス 附則
- (大正五年省令三十號ニ對スル)
- 本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前調製シタル帳簿及ヒ用紙ハ本令施行後ト雖モ之ヲ使用スヘシ
見出帳ハ之ヲ改製スル迄ハ仍ホ從前ノ離形ニ依ルヘシ

附錄第一號

法人登記簿

區裁判所

紙數表紙ヲ除キ 枚

地方裁判所長

附錄第二號

夫婦財產契約登記簿

區裁判所

紙數表紙ヲ除キ 枚

地方裁判所長

號 第

備	豫	七	六	五	四	三	二	一	印	登
		出資ノ	總額ノ	期存立時	月日	可立時	目的	事務所	名稱	月日
更	變	十	九	八						
		住氏人請	日七原解	所名ノ						
		所名ノ	年因數							
		年	月							
		日	登							
		記								

六百六十六

番 號

割ノ財共及變者管 分產有ヒ更ノ理	約契產財婦夫	住氏者契 所名ノ約
減消	約契產財婦夫	

六百六十七

ノ業務ヲ監督シ必要ト認ムルトキハ競馬會ヨリ報告ヲ徴シ又ハ其ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第六條 競馬開催ヲ目的トスル法人カ馬政長官ノ命令ヲ遵守セサルトキハ主務官廳ハ設立ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

鐵道省主管ノ法人 設立及ヒ監督ニ關スル件

(四十四年三月十四日閣令第二號)

第一條 鐵道省ノ主管ニ屬スル法人ノ設立ニ付民法第三十四條ノ規定ニ依リ許可ヲ得ムトスルトキハ社團ニ在リテハ定款及社員ノ員數、財團ニ在リテハ寄附行爲ヲ以テ定ムル事項ヲ具シ申請書ヲ鐵道大臣ニ差出スヘシ

第二條 民法第四十五條、第四十六條又ハ第四十八條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ一週間内ニ登記簿本ヲ添附シ届書ヲ鐵道大臣ニ差出スヘシ

第三條 定款變更ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ

變更ヲ要スル理由ヲ具シ總會ノ議事及決議ノ要領書ヲ添附シ申請書ヲ鐵道大臣ニ差出スヘシ

第四條 法人ハ事業年度終了後三十日以内ニ該年度末ノ財産目錄ヲ添附シテ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ鐵道大臣ニ差出スヘシ

- 一 該年度ノ事業ノ狀況
- 二 該年度ノ收入支出金額及其ノ科目
- 三 社團法人ニ在リテハ該年度末ニ於ケル社員ノ員數

第五條 法人ノ設立者又ハ法人ヨリ鐵道大臣ニ差出スヘキ書類ハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

外務省 同上

(四十三年七月十五日外務省令第五號)

第一條 領事官ノ管轄區域内ニ主タル事務所ヲ有スル社團法人又ハ財團法人ヲ設立セムカ爲民法第三十四條ニ依リ之カ許可ヲ得ムトスル者ハ社團法人ニ付テハ定款、資産ノ總額及社員ノ員數又財團法人ニ付テハ寄附行爲及資産

ノ總額ヲ具シ領事官ヲ經由シテ外務大臣ニ申請スヘシ

第二條 法人ハ設立ノ許可アリタル後遲滞ナク左ノ事項ヲ領事官ニ届出ツヘシ其ノ第二號ノ事項中ニ變更ヲ生ジタルトキ亦同シ

- 一 定款又ハ寄附行爲
- 二 理事及監事ノ氏名及住所
- 三 財産目錄及社團法人ニ付テハ社員ノ員數

第三條 法人ハ毎事業年度ノ初月中ニ左ノ事項ヲ領事官ニ届出ツヘシ

- 一 法人ノ目的タル事業ノ前年度中ニ於ケル成績
- 二 前年度中處理シタル事務ノ要領
- 三 前年度ノ收入及支出
- 四 前年度末ノ調査ニ依ル財産目錄
- 五 社團法人ニ付テハ前年度中入社又ハ退社セル社員ノ員數

事業年度ハ特ニ之ヲ定メサルトキハ毎年一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ルモノト看做ス

第四條 法人ヨリ外務大臣ニ申請又ハ届出ヲ爲スニ付テハ其ノ主タル事務所ヲ管轄スル領事

官ヲ經由スヘシ

第五條 領事官ハ何時ニテモ職權ヲ以テ法人ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

附則

本令ハ領事官カ領事裁判權ヲ行使スルコトヲ得ル地方ニ限り之ヲ施行ス

内務省 同上

(三十二年四月二十八日內務省令第十號)

第一條 社團又ハ財團ニシテ民法第三十四條ニ依リ之ヲ法人ト爲スニ付内務大臣ノ許可ヲ要スルモノハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由シ其ノ申請書ニ通テ差出スヘシ其ノ許可ヲ得テ設立シタル法人及民法施行法第十九條ノ法人ニ於テ内務大臣ノ認可ヲ要スル場合亦同シ

内務省 同上

(三十三年八月一日內務省令第三十九號)

凡テ管長ノ添書ヲ付スヘシ

●司法省 同上

(三十三年八月十日司法省令第三十二號)

第一條 社團又ハ財團ニシテ民法第三十四條ニ依リ之ヲ法人ト爲スニ付司法大臣ノ許可ヲ要スルモノハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由シ其ノ申請書ニ通テ差出スヘシ其許可ヲ得テ設立シタル法人及民法施行法第十九條ノ法人ニ於テ司法大臣ノ認可ヲ要スル場合亦同シ

第二條 前條ノ法人ヨリ司法大臣ニ差出スヘキ願届書ハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由スヘシ(同上)

●文部省 同上

(三十二年八月十六日文部省令第三十九號)

第一條 民法第三十四條ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ得テ社團又ハ財團ヲ法人ト爲サントスルトキハ其ノ設立者ニ於テ社團ニ在リテハ定款、資産ノ總額及社員ノ員數、財團ニ在リテハ寄附行爲及資産ノ總額ヲ具シ申請書ヲ文部大臣

第一條 宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル社團又ハ財團ヲ法人ト爲サントスルトキハ設立者ハ定款又ハ寄附行爲ノ外左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ差出スヘシ

一 宗教ノ名稱及所屬教派宗派ノ名稱
二 儀式及布教ノ方法
三 布教者ノ資格及選定方法
四 信徒ト法人ノ關係
五 信徒及社員タルヘキ者ノ員數
六 宗教ノ用ニ供スル堂宇、教會所、會堂、説教所又ハ講義所ノ類ヲ備フルモノニ在テハ其名稱、所在地及設立許可ノ年月日

第二條 前條ノ法人カ前條第一項第一號又ハ第四號ノ事項ヲ變更シタルトキハ直ニ届出ツヘシ

第三條 第一條ノ法人カ第一條第二項第二號又ハ第三號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ認可ヲ受クヘシ

前項ノ規定ニ違背シタルトキハ民法第七十一條ニ依リ其設立ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第四條 本令ニ依リ書面ヲ差出ス場合ニ於テ神佛道ノ教派又ハ宗派ニ屬スルモノニアリテハ

ニ差出スヘシ

第二條 法人ノ設立者及法人ヨリ文部大臣ニ差出スヘキ書類ハ總テ其ノ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

地方長官ニ於テ前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ詳查ノ上意見ヲ附シテ進達スヘシ

第三條 法人ハ其ノ設立ノ許可若ハ民法施行法第十九條ノ認可ヲ得タルトキハ左ニ掲グル事項ヲ遲滞ナク地方長官ニ報告スヘシ其ノ第一號及第二號ノ事項中ニ變更ヲ生シタル場合亦同シ

- 一 定款又ハ寄附行爲
- 二 理事及監事ノ氏名、住所
- 三 財産目録及社團法人ニ在リテハ社員ノ員數

第四條 教育會ヲ除ク外法人ハ毎年三月末ノ調査ニ依リ翌月中ニ財産目録ヲ添付シ左ニ掲グル事項ヲ文部大臣ニ報告スヘシ但特ニ事業年度ヲ設クルモノハ年度末ノ調査ニ依リ其ノ年度ノ終ヨリ三十日以内ニ之ヲ報告スヘシ(改正三十七年文部省令第二十三號)

一 法人ノ目的タル事業ノ狀況

二 前年中ノ處務ノ要件

三 前年ノ經費、收入支出金額及其ノ費目
社團法人ハ前項ニ掲ケタル事項ノ外社員ノ員數ヲ報告スヘシ(同上)

法人タル學校ニ於テハ第一項第一號及第二號ノ事項ハ之ヲ報告スルヲ要セス(同上)

第五條 (削除同上)

第六條 (同上)

第七條 地方長官ハ法人ニ於テ民法第七十一條又ハ民法施行法第二十三條ニ該當スル行爲アリト認メタルトキハ其ノ事由ヲ詳具シテ文部大臣ニ報告スヘシ

第八條 本令施行前設立ノ許可若ハ民法施行法第十九條ノ認可ヲ得タル法人ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第三條ノ事項ヲ地方長官ニ報告スヘシ

●農商務省 同上

(三十二年一月四日農商務省令第一號)

第一條 農商務省ノ主管ニ屬スル社團又ハ財團ニシテ民法第三十四條ノ規定ニ依リ法人トシテ設立スルノ許可ヲ得ントスルモノハ其主タル

ル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ申請スヘシ
第二條 前條ノ手續ヲ經テ設立シタル法人ヨリ農商務大臣ニ願出又ハ届出ヲナストキハ總テ其主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

●遞信省 同上

(四十三年三月二十九日遞信省令第五十六號)
(改正大正二年九月省令第九十號)

第一條 民法第三十四條ニ依リ遞信大臣ノ許可ヲ得テ法人ヲ設立セムトスル者ハ社團ニ在リテハ定款、資産ノ種類及總額並社員ノ員數、財團ニ在リテハ寄附行爲並資産ノ種類及總額ヲ具シ遞信大臣ニ申請スヘシ
第二條 法人ハ其ノ設立ノ日ヨリ二週内ニ左ノ事項ニ付變更アリタル場合亦同シ
一 理事及監事ノ氏名、住所
二 財産目録
第三條 法人ハ前年末ノ現在ニ依リ毎年初ノ一月内ニ左ニ掲グル事項ヲ遞信大臣ニ届出ツヘシ

商業登記之部

●商業登記取扱手續

(三十二年五月十三日司法省令第十三號)

第一條 商業登記簿ハ附錄第一號乃至第九號雜形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ但合資會社登記簿ヲ調製スルニハ附錄第七號雜形ニ依リテハ同シ
第二項ノ規定ニ依ル届出ハ遞信大臣ヨリ補助金ノ支給ヲ受クル法人ニシテ命令書ノ規定ニ依リ之ト同一ノ事項ヲ届出ツル場合ニ於テハ之ヲ省略スルコトヲ得
第四條 法人ノ設立者又ハ法人ヨリ遞信大臣ニ差出ス願書又ハ届書ハ總テ其ノ主タル事務所所在地ノ遞信局長ヲ經由スヘシ

形ノ第一欄ヨリ變更欄ニ至ルマテノ用紙ト社員ノ氏名、住所等ヲ記載スヘキ用紙トナリ初メニ第一欄ヨリ變更欄ニ至ルマテノ用紙ヲ纏メ其末尾ニ社員ノ氏名、住所等ヲ記載スヘキ用紙ヲ纏メテ之ヲ編綴スヘシ
外國會社登記簿ノ雜形ハ附錄第六號乃至第九號ニ依ルヘシ

第二條 商號登記簿ハ市町村毎ニ別冊ト爲スヘシ但市制又ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ從來ノ町村其他之ニ類スル區域毎ニ別冊ト爲シ東京市、京都市及ヒ大阪市ニ在リテハ其各區毎ニ別冊ト爲スヘシ

第三條 商法施行法第十五條第一項ニ依ル商號ノ登記ノ爲メ東京市及ヒ大阪市ニ存スル登記所(東京區裁判所及ヒ大阪區裁判所ノ本廳ヲ除ク)ノ管轄毎ニ別ニ商號登記簿ヲ備フヘシ

第四條 商業登記簿ノ見出帳ハ附錄第十號雜形ニ依リ之ヲ調製スヘシ
第五條 受附帳ハ附錄第十一號雜形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第六條 法律ニ依リ登記ノ申請書ニ捺印スヘキ者ハ豫メ其印鑑ヲ登記所ニ提出スヘシ改印ヲ

爲シタルトキ亦同シ但登記ノ申請ニ付キ委任ニ因ル代理ヲ爲ス者ハ此限ニ在ラス

第七條 印鑑ハ附錄第十二號雜形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第八條 登記所ニハ登記簿、見出帳及ヒ受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フ(改正三十五年司法省令第十六號四十四年八月同第十九號)

- 一 印鑑簿
 - 二 申請書綴込帳
 - 三 決定原本綴込帳
 - 四 抗告書類綴込帳
 - 五 登記簿綴込帳
 - 六 謄本抄本證明書交付帳
 - 七 受領證原符元帳
- 前項第二號乃至第七號ノ帳簿ハ一箇年毎ニ別冊ト爲スヘシ但分冊スルコトヲ妨ケス
- 第九條 申請書、囑託書、通知書、届書、許可書、管轄轉屬ニ因リ移送ヲ受ケタル登記簿謄本其他附屬書類ハ之ニ登記簿ノ冊數及ヒ其丁數ヲ記載シ受附番號ノ順序ニ依リテ申請書類綴込帳ニ之ヲ編綴スヘシ

ルトキハ其表紙ニ登記簿ノ種類ヲ示スヘキ文字ヲ記載スヘシ

第九條ノ二 印鑑簿ハ永久ニ之ヲ保存スヘシ(同上)

受附帳ハ十年間之ヲ保存スヘシ(同上)
決定原本繰込帳及ヒ抗告書類繰込帳ハ五年間之ヲ保存スヘシ(同上)

登記簿交付帳、謄本抄本證明書交付帳及ヒ受領證原符元帳ハ三年間之ヲ保存スヘシ(同上)

前三項ノ帳簿ノ保存期間ハ當該年度ノ翌年ヨリ之ヲ起算ス(同上)

第十條 登記簿若クハ附屬書類ノ閱覽又ハ登記簿ノ謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スル者ハ申請書ヲ提出スヘシ

第十一條 登記簿又ハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル場合ニ於テハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ但附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル場合ニ於テハ申請書ニ利害ノ關係ヲ説明スルニ足ルヘキ事由ヲ記載シ又ハ之ニ其關係ヲ説明スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スヘシ
一 登記簿ノ種類

六百七十六

二 閱覽セント欲スル登記事項

三 登記所ノ表示

四 年月日

第十二條 登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ

- 一 登記簿ノ種類
- 二 謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル登記事項
- 三 手数料ノ金額
- 四 登記所ノ表示
- 五 年月日

登記簿ノ抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ掲ケタル事項ノ外抄本ノ交付ヲ請求スル部分ヲモ記載スヘシ

第十三條 登記事項ニ變更ナキコト又ハ或事項ノ登記ナキトキトノ證明ヲ請求スル者ハ申請書ニ通テ提出スヘシ
前項ノ申請書ニハ證明ヲ請求スル事項及ヒ年月日ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ
登記官吏申請書ノ一通ニ證明文ヲ附シ年月日ヲ記載シ署名捺印シ且登記所ノ印ヲ捺捺シテ之ヲ申請人ニ交付スヘシ

第十四條 登記ノ申請ハ申請人又ハ其代理人登記所ニ出頭シテ之ヲ爲スヘシ

第十四條ノ二 官廳ノ許可ヲ要スル事項ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ官廳ノ許可書ノ到達シタル年月日ヲ記載スヘシ(追加四十四年司法省令第十九號)

前項ノ規定ハ商法第二百四條ノ三第三項又ハ第二百五十六條ノ規定ニ依リ外國ニ於テ生シタル事項ノ登記ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス(同上)

第十五條 登記官吏カ申請書ヲ受取リタルトキハ受附帳ニ登記ノ目的、申請人ノ氏名、(會社カ申請人ナルトキハ其商號)受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ申請書ニ受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載スヘシ

第十六條 申請書其他ノ書面ノ受領證ニハ受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載スヘシ

第十七條 登記官吏ハ受附番號ノ順序ニ從ヒテ登記ヲ爲スヘシ

第十八條 登記ヲ爲スニハ登記用紙中相當欄ニ登記事項及ヒ登記ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

登記用紙中或欄ニ登記事項ヲ記載スルコトナクシテ登記ヲ完了シタルトキハ其空欄ニ朱線ヲ交又スヘシ但後日登記スルコトアルヘキ事項ノ爲メ設ケタル欄ニ付テハ此限ニ在ラス
登記用紙中或欄ニ登記事項ヲ記載シタル場合ニ於テ同欄内ニ餘白アルトキハ其餘白ニ朱線ヲ交又スヘシ
變更欄ニ登記ヲ爲シタルトキハ其左側ニ縱線ヲ劃シテ餘白ト分界スヘシ

六百七十七

第十九條 變更ノ登記又ハ登記ノ更正ヲ爲シタルトキハ變更又ハ更正シタル登記事項ヲ朱線スヘシ

第十九條ノ二 抹消ノ登記ヲ爲シタルトキハ抹消スヘキ登記事項ヲ朱線スヘシ但抹消ノ登記ヲ爲シタルニ因リ登記用紙ヲ閉鎖スヘキ場合ハ此限ニ在ラス(追加四十四年司法省令第十九號)

第二十條 登記用紙ヲ閉鎖スルニハ登記番號ヲ朱線スヘシ

第二十一條 會社ノ設立ノ場合ヲ除ク外商法第五十一條第一項、第七條、第四十一條第一項又ハ第二百四十二條ニ定メタル登記ヲ爲シ

タルトキハ登記用紙中豫備欄ニ其事由ヲ記載スヘシ會社ノ合併又ハ組織變更ニ因ル設立ノ登記ヲ爲シタルトキ亦同シ(改正四十四年司法省令第十九號)

非訟事件手續法第三百五條ノ二及ヒ第三百十五條ノ三ニ定メタル營業ノ禁止又ハ外國會社ノ支店ノ閉鎖ノ登記ハ豫備欄ニ之ヲ爲スヘシ

同法第七十條第二項ノ規定ニ依リ商業登記ニ記載スヘキ事項ハ豫備欄ニ之ヲ記載スヘシ保險ヲ營業トスル株式會社設立費用償却ノ方法ノ登記ハ豫備欄ニ之ヲ爲スヘシ(追加三十二年司法省令第二十號)

破産法第二百二十二條及ヒ和議法第八條ノ規定ニ依ル登記ハ豫備欄ニ之ヲ爲スヘシ(大正十一年省令第三十五號ニテ改正)

第二十一條ノ二 擔保附社債信託法ニ依ル社債ノ登記ハ登記用紙中變更欄ニ之ヲ爲スヘシ(追加三十九年司法省令第一號)

第二十一條ノ三 登記官吏カ擔保附社債信託法

第六百十五條ノ規定ニ依リ主務官廳ヨリ登記ノ囑託ヲ受ケタルトキハ左ノ規定ニ從フヘシ(同上)

一 囑託カ信託會社ノ事業ノ停止ニ關スル場合ニ於テハ登記用紙中豫備欄ニ其登記ヲ爲スヘシ

二 囑託カ銀行事業ヲ兼メタル信託會社ノ免許ノ取消ニ關スル場合ニ於テハ目的變更ノ登記ヲ爲スヘシ

三 囑託カ信託事業ヲ專業トスル信託會社ノ免許ノ取消ニ關スル場合ニ於テハ解散ノ登記ヲ爲スヘシ

第二十二條 社債又ハ資本若クハ株金ノ増加ノ登記ヲ爲シタル後同一ノ事項ニ付キ更ニ登記ヲ爲スヘキトキハ變更欄ニ其登記ヲ爲スヘシ

第二十三條 非訟事件手續法第四百八條ノ規定ニ依リ登記ノ更正ノ申請アリタルトキハ登記用紙中變更欄ニ其登記ヲ爲スヘシ

第二十四條 登記用紙中或欄カ登記ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ新用紙中登記番號ノ左側ニ其番號ノ第二ナルコト並ニ前用紙中編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ其繼續用紙

ナルコトヲ記載シ且前用紙中登記番號ノ左側ニ第一ノ文字並ニ新用紙中編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ之ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ前用紙中他ノ欄ニ餘白アルトキハ其ノ欄ニ登記スヘキ事項ニ付テハ仍ホ之ニ登記ヲ爲スヘシ

前二項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 登記ヲ爲シ又ハ申請書其他登記ニ關スル書面ヲ作ルニハ字畫ヲ明瞭ニスヘシ金錢其他ノ物ノ數量、年月日及ヒ番號ヲ記載スルニハ壹貳參拾ノ字ヲ用ユヘシ

文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若シ訂正、挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ之ニ捺印シ其削除ニ係ル文字ハ尙ホ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存スヘシ

第二十六條 登記ノ公告ハ登記ヲ爲シタル登記所ノ名ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十七條 登記ノ申請人ハ登記簿證ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

登記官吏カ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ附錄

第十三號雜形ニ依リ登記簿證ヲ交付スヘシ

第二十八條 商業登記簿ノ見出帳ニハイロハ順ニ依リ豫メイノ部ヨリスノ部マテテ設ケ置キ登記用紙ニ登記番號ヲ記載スル毎ニ登記用紙中編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ登記番號ヲ記入スヘシ

第二十八條ノ二 妻ノ登記ニ付テハ夫ノ氏名、法定代理人ノ登記ニ付テハ無能力者ノ氏名、支配人ノ登記ニ付テハ主人ノ氏名又ハ商號、外國會社ノ登記ニ付テハ會社ノ種類ヲ見出帳ノ備考欄ニ記載スヘシ

第二十九條 登記用紙中閉鎖シタルトキハ見出帳中備考欄ニ其事由ヲ記載シテ其見出ヲ朱抹スヘシ

第三十條 商號ノ變更又ハ未成年者、妻、法定代理人若クハ支配人ノ氏名ノ變更ノ登記ヲ爲シタルトキハ見出帳中更ニ相當ノ部ニ其見出ヲ移シ前ノ見出ノ備考欄ニ第何冊第何丁ニ移シタル旨ヲ記載シテ其見出ヲ朱抹スヘシ(改正四十四年司法省令第十九號)

第三十一條 甲登記所ノ管轄地ノ一部カ乙登記所ノ管轄ニ轉屬シタルトキハ甲登記所ハ其部

分ニ屬スル登記簿又ハ其謄本及ヒ附屬書類又ハ其謄本ヲ乙登記所ニ移送スヘシ但登記簿ノ謄本ニハ現存セル登記ノミヲ謄寫スヘシ前項ノ場合ニ於テハ甲登記所ノ登記用紙中豫備欄ニ管轄變更ニ因リ轉出シタル旨及ヒ其年月日ヲ記載シ登記官吏捺印シ其登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

第三十二條 前條ノ規定ニ依リ登記簿ノ謄本及ヒ附屬書類又ハ其謄本ノ移送ヲ受ケタルトキハ乙登記所ハ登記簿ノ謄本ニ依リ登記簿ニ登記ヲ移スヘシ

登記簿ニ登記ヲ移スニハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ前登記管轄ノ表示ヲ爲シ前登記番號ヲ記載シ豫備欄ニ管轄變更ニ因リ轉入シタル旨及ヒ其年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

第三十三條 會社ノ商號ハ商號登記簿ニ登記スルコトヲ要セス

第三十四條 同一ノ當事者ヨリ數箇ノ商號ノ登記ノ申請アリタルトキハ各商號ニ付キ各別ノ登記用紙ニ登記ヲ爲スヘシ

定ノ登記ニハ他ノ支配人ノ登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數及ヒ丁數ヲ附記スヘシ(同上)

第四十條 登記ヲ爲シタル未成年者、妻若クハ法定代理人ノ營業所又ハ支配人ヲ置キタル營業所カ登記所ノ管轄外ニ移轉シタルトキハ登記用紙中消滅欄ニ其登記ヲ爲シ登記用紙ヲ閉鎖スヘシ(改正同上)

前項ノ規定ハ登記所ノ管轄内ニ他ノ營業所アル場合ニハ之ヲ適用セス

第四十一條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ノ營業所カ商號ノ效力ヲ有スル區域外ニ移轉シタルトキハ登記用紙中消滅欄ニ其登記ヲ爲シ登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

第四十二條 前條ノ規定ハ市町村又ハ商號ノ登記ノ效力ニ付キ市町村ニ準スヘキ區域ノ變更ニ因リ商號ノ登記ノ效力カ消滅シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條 合資會社ノ社員ノ氏名、住所、出資及ヒ責任ノ登記ハ登記簿ノ末尾ニ編綴セル用紙ニ之ヲ爲スヘシ其登記事項ノ變更又ハ消滅ノ登記ニ付テモ亦同シ

第四十三條ノ二 會社ノ社員ノ共同代表ニ關ス

第三十五條 商業ヲ營ム未成年者カ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其登記事項カ未成年者ノ死亡ニ因リ消滅シタルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヨリ登記ノ申請ヲ爲スヘシ

第三十六條 商業ヲ營ム妻カ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其登記事項カ妻ノ死亡ニ因リ消滅シタルトキハ其夫ヨリ登記ノ申請ヲ爲スヘシ

第三十七條 無能力者ノ爲メニ商業ヲ營ム法定代理人カ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ登記事項カ法定代理人ノ死亡ニ因リ消滅シタルトキハ新法定代理人ヨリ登記ノ申請ヲ爲スヘシ(改正四十四年司法省令第十九號)

第三十八條 前三條ノ場合ニ於テハ申請書ニ登記事項ノ消滅シタルコトヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スヘシ

第三十九條 數人ノ支配人ノ登記ノ申請アリタル場合ニ於テハ各別ノ登記用紙ニ登記ヲ爲スヘシ

支配人ノ共同代表ニ關スル規定ノ登記ハ支配人ノ選任ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ登記用紙中豫備欄ニ之ヲ爲スヘシ(追加同上)

第三十九條ノ二 支配人ノ共同代表ニ關スル規定ノ登記及ヒ社員ト支配人トノ共同代表ニ關スル規定ノ登記ハ會社ノ設立ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ登記用紙中取締役ノ氏名住所欄ニ之ヲ爲スヘシ(同上)

第四十三條ノ四 第三十九條ノ二ノ規定ハ會社ノ社員又ハ取締役ト支配人トノ共同代表ニ關スル規定ノ登記ニ之ヲ準用ス(同上)

第四十三條ノ五 株主總會ノ決議無効ノ登記ハ登記用紙中變更欄ニ之ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ決議無効ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ名稱及ヒ其判決ノ確定シタル年月日ヲ記載スヘシ(同上)

前項ノ登記ヲ爲シタルトキハ決議シタル事項ノ登記ヲ抹スヘシ(同上)

前二項ノ規定ハ創立總會ノ決議無効ノ登記ニ

之ヲ準用ス(同上)

第四十四條 會社カ其本店又ハ支店ヲ登記所ノ管轄外ニ移轉シタル場合ニ於テ移轉ノ登記ヲ爲シタルトキハ其登記用紙ヲ閉鎖スヘシ
前項ノ規定ハ登記所ノ管轄内ニ本店又ハ他ノ支店アル場合ニハ之ヲ適用セス

第四十四條ノ二 會社カ其本店ヲ登記所ノ管轄外ニ移轉シタル場合ニ於テ新所在地ノ登記所ニ登記ヲ申請スルトキハ申請書ニ舊所在地ニ於ケル登記簿ノ謄本ヲ添附スヘシ(同上)
前項ノ規定ハ新所在地ノ登記所ノ管轄内ニ支店アル場合ニハ之ヲ適用セス(同上)

第四十四條ノ三 會社ノ支店ノ廢止ノ登記ハ登記用紙中豫備欄ニ之ヲ爲シ登記用紙ヲ閉鎖スヘシ(同上)

第四十四條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス(同上)

第四十四條ノ四 會社ノ設立無効ノ登記ハ登記用紙中解散ノ事由及ヒ年月日欄ニ之ヲ爲スヘシ
此場合ニ於テハ設立無効ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ名稱及ヒ其判決ノ確定シタル年月日ヲモ記載スヘシ(同上)

六百八十二

第四十四條ノ五 會社ノ設立取消ノ登記ハ登記用紙中解散ノ事由及ヒ年月日欄ニ之ヲ爲スヘシ(同上)

第四十四條ノ六 裁判所カ清算人ヲ選任又ハ解任シタル場合ニ於ケル登記ノ申請書ニハ裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ(同上)

第四十四條ノ七 會社ヲ代表スヘキ清算人ノ登記及ヒ清算人ノ共同代表ニ關スル規定ノ登記ハ始メテ清算人ノ選任ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ登記用紙中清算人ノ氏名住所欄ニ之ヲ爲スヘシ(同上)

第四十四條ノ八 非訟事件手續法第一百五十一條ノ第二項ノ通知ニハ登記ヲ爲シタル事件ノ表示及ヒ其登記カ商法又ハ非訟事件手續法ノ規定ニ依リテ許スヘカラサルモノナルコトヲ記載スヘシ(追加二年五月司法省令第二十號)

第四十四條ノ九 非訟事件手續法第一百五十一條ノ四ノ規定ニ依リ抹消ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ其事由ヲモ記載スヘシ(同上)

第四十四條ノ一〇 非訟事件手續法第一百五十一條ノ六第二項ノ規定ニ依リ登記ノ更正ヲ爲ス場合ニ於テハ許可ヲ爲シタル裁判所ノ名稱及ヒ

許可ノ年月日ヲモ記載スヘシ(同上)

第四十五條 會社登記簿ニ清算終了ノ登記ヲ爲シタルトキハ其登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

第四十六條 登記ノ申請書ニ添附シタル書類ノ原本ノ還付ヲ請求スル場合ニ於テハ申請人ハ其原本ト共ニ原本ニ相違ナキ旨ヲ記載シタル謄本ヲ添附スヘシ

登記官吏カ書類ノ原本ヲ還付スルトキハ其謄本ニ原本還付ノ旨ヲ記載シテ捺印スヘシ

第四十七條 外國會社ノ登記ハ其會社ト同種ノ會社ノ登記簿又ハ最モ之ニ類似セル會社ノ登記簿ニ之ヲ爲スヘシ

登記スヘキ事項ノ名稱カ或欄ノ表示ニ適合セサルトキハ最モ之ニ類似セル欄ニ記載シタル上其名稱ヲ附記スヘシ

第四十七條ノ二 第四十四條ノ二ノ規定ハ外國會社カ其支店ヲ登記所ノ管轄外ニ移轉シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十八條 外國會社ノ支店ノ廢止ノ登記ハ登記用紙中豫備欄ニ之ヲ爲シ其登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

第四十九條 商法施行前ニ登記シタル事項ノ變

更若クハ消滅ノ登記又ハ商法施行前ニ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ニ付キ商法施行法ノ規定

ニ依リ其會社ノ登記ニ追加スヘキ事項ノ登記ハ從來ノ登記簿ニ之ヲ爲スヘシ但從來ノ登記簿用紙中相當ノ欄ナキ事項ニ付テハ變更欄ニ其登記ヲ爲スヘシ

第四十九條ノ二 非訟事件手續法第三百三十五條ノ二第一項、第三百三十五條ノ四第一項、第九十五條ノ二、第二百一十一條ノ二、保險業法第二十三條、第五百五條ノ二第二項、擔保附社債信託法第一百五條及ヒ鐵道國有法第十一條ノ規定

ニ依ル登記ノ囑託ニ付テハ登録稅ヲ要セス

第四十九條ノ三 登記官吏カ其職務上過料ニ處セラレヘキ者アルコトヲ知リタルトキハ遲滞

ナク其事件ヲ管轄地方裁判所長ニ通知スヘシ

第五十條 不動産登記法施行細則第四條、第五條、第十二條、第十三條、第二十條乃至第二十四條、第二十七條、第三十三條乃至第三十五條

ノ二、第三十六條、第三十七條、第三十八條、第三十九條、第四十七條、第五十一條、第七十一條第一項及ヒ第七十四條ノ規定ハ商業登記ニ之ヲ準用ス

附錄第一號

商號登記簿

區裁判所

紙數表紙ヲ除キ 枚

地方裁判所長

●明治四十四年八月司法省令第十九號ノ附則
 本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行前ニ登記所ノ受附ケタル事件ニハ從前
 ノ規定ヲ適用ス
 本令施行前ニ登記シタル事項ニ關スル登記ハ從
 來ノ登記ニ之ヲ爲スヘシ
 從前ノ規定ニ依リ設立ノ登記ヲ爲シタル株式會
 社カ社債ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ各社債ニ付
 キ拂込ミタル金額ノ登記ハ各社債ノ金額欄ニ、
 資本増加ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ優先株ノ種
 類及ヒ其各種ノ株式ノ數ノ登記ハ優先株主ノ權
 利欄ニ之ヲ爲スヘシ
 前項ノ規定ハ從前ノ規定ニ依リ設立ノ登記ヲ爲
 シタル株式會社ノ社債ノ登記及ヒ株金ノ增
 加ノ登記ニ之ヲ準用ス
 附則(大正五年司法省令第二十九號)
 本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行前ニ調製シタル帳簿及ヒ用紙ハ本令施
 行後ト雖モ之ヲ使用スヘシ
 見出帳ハ之ヲ改製スルマテハ仍ホ從前ノ雜形ニ
 依ルヘシ

更	變
減	消
更	變
明治年月日登記	

登記 番號	一	商號
	二	營業ノ種類
第一 號	三	營業所
	四	高權使 住氏用者ノ住所
登記ノ年 月日及ビ 登記官印		右明治年月日登記
備		豫
丁		

附錄第二號

未成年者登記簿

區裁判所

地方裁判所長

紙數表紙ヲ除キ

枚

登記 番號	第一 所名、住 者ノ氏 未成年	第二 營業ノ 種類		第三 營業所		登記ノ年 月日及 官印	豫 備
		第一 番號	第二 番號	第一 番號	第二 番號		
變						右明治 年 月 日 登記	豫 備
消							明治 年 月 日 登記
更							明治 年 月 日 登記
減							明治 年 月 日 登記

附錄第四號

法定代理人登記簿

區裁判所

紙數表紙を除く枚

地方裁判所長

登記番號

第一

號

備豫

一 法定代理人
所及資格比人

二 無能力者
住所ノ氏名、

三 營業ノ
種類

四 營業所

登記ノ年
月日及ヒ

登記官印

減消

明治年
月日
登記

變

更

登記番號

第一

號

備豫

一 法定代理人
所及資格比人

二 無能力者
住所ノ氏名、

三 營業ノ
種類

四 營業所

登記ノ年
月日及ヒ

登記官印

減消

明治年
月日
登記

變

附錄第五號

支配人登記簿

區裁判所

紙數表紙ヲ除キ
枚

地方裁判所長

登記		番號		第三		號		豫		備		
一支配人ノ氏名	住ノ所	二主人ノ氏名	住ノ所	三主人ノ營業	四支配人ノ用 エ〜キ商號	五支配人ヲ置 キタル場所	登記ノ年 月日及ビ 登記官印	右明治 年月日登記	豫	備	減消	變更
											明治 年月日 登記	
											明治 年月日 登記	

附錄第六號

合名會社登記簿

區裁判所

紙數表紙ヲ除キ 枚

地方裁判所長

六百九十四

備	豫	備	豫
八 期又ハ解 散ノ事由	九 由及ニ事 解散ノ事由	十 清算人ノ 氏名、住	十一 清算終了 ノ年月日
明治 年 月 日 登記	明治 年 月 日 登記	明治 年 月 日 登記	明治 年 月 日 登記
一 清算終了 ノ年月日	二 設立ノ 年月日	三 代表社員 ノ氏名	四 資本ノ 額
明治 年 月 日 登記	明治 年 月 日 登記	明治 年 月 日 登記	明治 年 月 日 登記
一商 ノ商 號	二本 店	三支 店	四目 的
明治 年 月 日 登記	明治 年 月 日 登記	明治 年 月 日 登記	明治 年 月 日 登記
登記 ノ第一欄	登記 ノ第二欄	登記 ノ第三欄	登記 ノ第四欄
年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
ヨリ	ヨリ	ヨリ	ヨリ
八欄	八欄	八欄	八欄
明治 年 月 日 登記	明治 年 月 日 登記	明治 年 月 日 登記	明治 年 月 日 登記
番號	番號	番號	番號
及ヒ	及ヒ	及ヒ	及ヒ
官印	官印	官印	官印
社 員 ノ 住 所 出 資 ノ 種 類 及 價 格	社 員 ノ 住 所 出 資 ノ 種 類 及 價 格	社 員 ノ 住 所 出 資 ノ 種 類 及 價 格	社 員 ノ 住 所 出 資 ノ 種 類 及 價 格
丁	丁	丁	丁

六百九十五

更	變	更	變
丁		丁	

何々登記見出帳

區	裁	判	所
---	---	---	---

◎商法中署名スヘキ
場合ニ關スル件

(三十三年二月二十四日法律第十七號)
朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル商法中署名スヘキ場
合ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
商法中署名スヘキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ
署名ニ代フルコトヲ得

◎小商人ノ範圍ニ關
スル件

(三十二年六月十五日勅令第二百七十一號)
朕小商人ノ範圍ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公
布セシム
商行爲ヲ爲スヲ業トスルモ資本金額五百圓ニ滿
タサル者ハ之ヲ小商人トス

此勅令ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎外國會社ノ支店及
外國人カ設立シタ

附則

七百十四
ル會社並組合ニ關
スル件
(三十二年六月十五日勅令第二百七十二號)
第一條 商法施行前ニ日本ニ支店ヲ設ケタル外
國會社ハ其施行ノ日ヨリ六个月内ニ商法第二
百五十五條ノ規定ニ從ヒ支店設立ノ登記ヲ爲
シ且日本ニ於ケル代表者ヲ定メ其氏名、住所
ヲ登記スルコトヲ要ス
商法第二百五十七條及ヒ非訟事件手續法第
二百二條ノ規定ハ前項ノ外國會社ニ之ヲ準用
ス
第二條 商法施行前ニ外國人カ日本ニ於テ設立
シタル會社ハ其施行ノ日ヨリ六个月内ニ商法
ノ規定ニ從ヒ其定款ヲ作り且設立ノ登記ヲ爲
スコトヲ要ス
第三條 會社カ前條ノ規定ニ違反シタルトキハ
裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其
解散ヲ命スルコトヲ得
解散ノ裁判ハ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ
以テ之ヲ公告スルコトヲ要ス
非訟事件手續法第二百二十六條第一項、第三百

十四條第一項、第二項及ヒ第三百三十五條ノ規
定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四條 商法施行前ニ外國人カ日本ニ於テ設立
シタル會社ニ關シ第二條ノ規定ニ依リ登記ヲ
爲シ又ハ解散ノ裁判ノ確定スルマテニ生シタ
ル法律關係ハ從來其會社ノ屬セシ國ノ法律ニ
依ル

第五條 商法施行前ニ日本ニ於テ外國人カ設立
シタル組合ニシテ獨立ノ財産ヲ有スルモノハ
商法施行ノ日ヨリ六个月内ニ其組織ヲ變更シ
之ヲ商法ニ定メタル會社ト爲スコトヲ要ス
前二條ノ規定ハ前項ノ組合ニ之ヲ準用ス
附則

此勅令ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎擔保附社債信託法

(明治三十八年三月法律第五十二號)

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ信託會社ト稱スルハ擔保附
社債ニ關スル信託事業ヲ營ム會社ヲ謂フ
第二條 社債ニ物上擔保ヲ附セムトスルトキハ
其ノ社債ヲ發行スル會社ト信託會社トノ信託

契約ニ從ヒ之ヲ發行スヘシ
第三條 本法ニ依ル信託ノ引受ハ之ヲ商行爲トス
第四條 社債ニ附スルコトヲ得ヘキ物上擔保ハ
左ニ掲クルモノニ限ル

- 一 動産質
- 二 證書アル債權質
- 三 不動産抵當
- 四 船舶抵當
- 五 鐵道抵當
- 六 工場抵當
- 七 鑛業抵當
- 八 軌道抵當
- 九 輕便鐵道抵當
- 十 運河抵當

第五條 擔保附社債ニ關スル信託事業ハ特別ノ
法律ニ依ル場合ヲ除クノ外主務官廳ノ免許ヲ
受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス
第六條 信託會社ハ銀行事業ヲ除クノ外他ノ事
業ヲ兼ヌルコトヲ得ス但シ銀行事業ヲ兼營セ
サル株式會社ニ在リテハ信託業法ニ依リ信託
業ヲ營ムコトヲ得
第七條 信託會社ハ資本又ハ金錢ヲ目的トスル
出資ノ總額ハ百萬圓ヲ下ルコトヲ得ス
第八條 信託會社ハ資本又ハ金錢ヲ目的トスル

出資ノ拂込金額カ五十萬圓ニ達スル迄其ノ事業ニ著手スルコトヲ得ス

第九條 信託ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

第十條 主務官廳ハ何時ニテモ信託會社ヲシテ其ノ事業ノ報告ヲ爲サシメ又ハ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第十一條 主務官廳ハ信託會社ノ業務又ハ會社財産ノ狀況カ信託事業ノ執行ニ適セスト認ムルトキハ其ノ事業ノ停止又ハ業務執行方法ノ變更ヲ命シ其ノ他委託會社及社債權者ノ利益ヲ保護スルニ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第十二條 信託會社カ法令、定款若ハ主務官廳ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務官廳ハ其ノ事業ノ停止若ハ取締役ノ改選ヲ命シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得

第十三條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ專業トスル會社ハ免許ノ取消ニ因リテ解散ス

第十四條 信託會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ主務官廳ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第十五條 商法第八十八條、第八十九條、第九十六條第二項、第一百條、第二百二十六條第二項、

第二百二十八條第二項又ハ第二百三十二條ニ定ムル清算人ノ選任又ハ解任ハ主務官廳ニ於テ之ヲ爲ス
商法第二百二十八條第二項ニ依ル請求ハ委託會社又ハ社債權者集會ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

第七百十六
第二百二十八條第二項又ハ第二百三十二條ニ定ムル清算人ノ選任又ハ解任ハ主務官廳ニ於テ之ヲ爲ス
商法第二百二十八條第二項ニ依ル請求ハ委託會社又ハ社債權者集會ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得
第十六條 信託會社ノ清算ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス
主務官廳ハ何時ニテモ前項ノ監督ニ必要ナル検査ヲ爲スコトヲ得
第十七條 外國ニ於テ物上擔保附社債ヲ募集セムトスル會社ハ主務官廳ノ許可ヲ受ケ外國會社ト信託契約ヲ締結スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ信託ヲ引受ケタル外國會社カ日本ニ支店ヲ有セザルトキハ日本ニ於ケル代表者ヲ定ムヘシ
商事會社ハ前項ノ代表者タルコトヲ得
第二項ノ規定ニ依リ代表者ヲ定メタルトキハ遲滞ナク其ノ氏名及住所又ハ商號及本店ヲ主務官廳ニ届出ヘシ
日本ニ於ケル外國會社ノ代表者ハ信託事務ニ關シテハ信託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル

社員ト同一ノ權限ヲ有ス

第二章 信託證書

第十八條 信託契約ハ信託證書ニ依リ之ヲ締結スヘシ

第十九條 信託證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ委託會社及受託會社ノ代表者之ニ署名スヘシ

一 委託會社及受託會社ノ商號

二 社債ノ總額

三 各社債ノ金額

四 社債發行ノ價額又ハ其最低價額

五 社債ノ利率

六 社債償還ノ方法及期限

七 利息支拂ノ方法及期限

八 債券ニ記載スヘキ事項ノ表示及利札附ナルトキハ其ノ旨ノ表示

九 擔保ノ種類、目的物、順位、先順位ノ擔保ヲ附シタル債權ノ金額其ノ他目的物ニ關シ

十 第三十二條ニ依ル社債ナルトキハ其ノ事實及各會社ノ負擔部分

十一 委託及受託ノ表示

十二 證書作成ノ年月日

各社債ノ金額ハ均一ナルカ又ハ最低額ヲ以テ整除シ得ヘキモノナルコトヲ要ス

第二十條 信託證書ハ委託會社及受託會社ニ於テ各自其ノ一通ヲ保存スヘシ

前項ノ信託證書ハ其ノ原本ヲ本店ニ、其ノ贈本ヲ各支店ニ備置クヘシ

第二十一條 信託證書ノ原本又ハ贈本ハ委託會社ノ株主、債權者又ハ社債應募者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ之ヲ閱覽セシムヘシ

第三章 社債募集

第二十二條 信託契約ニ依リ物上擔保附社債ヲ募集スル會社ハ左ノ事項ヲ公告スヘシ

一 第十九條第一項第一號乃至第七號及第十號ニ掲ケタル事項

二 物上擔保社債ナルコト

三 信託證書ノ表示

四 擔保ノ價格ヲ知ラシムルニ必要ナル程度ニ於テ第十九條第一項第九號ニ掲ケタル事項ノ概要ノ表示

五 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘサル總額

六 會社ノ資本及拂込ミタル株金ノ總額
七 最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル
財產ノ額

八 信託證書若ハ其ノ謄本ヲ應募者ノ閱覽ニ
供スヘキ時及場所

前項ノ公告ハ受託會社ノ承認ヲ得テ之ヲ爲ス
ヘシ

第二十三條 委託會社ハ信託契約ニ依リ社債ノ
募集ヲ受託會社ニ委任スルコトヲ得此ノ場合
ニ於テ信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ受託會
社ハ債券ノ發行、社債ノ償還及利息ノ支拂ニ
關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第二十四條 前條ノ場合ニ於テハ第二十二條第
一項ヲ揭ケタル公告ハ受託會社ニ於テ之ヲ爲
スヘシ

前項ノ公告ニハ受託會社カ委託會社ニ代リテ
社債ノ募集ヲ爲ス旨ヲ記載スヘシ

第二十五條 受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ
依リ社債ノ總額ヲ引受ケルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ第二十二條及前條ニ定メ
タル公告ヲ爲スコトヲ要セス

第二十六條 前條第一項ノ場合ニ於テ受託會社

ハ其ノ引受ケタル社債ヲ分割シテ之ニ相當ス
ル債券ノ發行ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得
受託會社カ信託契約ニ依リ債券發行ノ權限ヲ
有スルトキハ委託會社ニ通知シテ前項ノ債券
ヲ發行スルコトヲ得

第二十七條 受託會社カ第二十五條第一項ニ依
リ引受ケタル社債ヲ讓渡サムトスルトキハ其
ノ旨ヲ公告スヘシ

前項ノ公告ニ記載スヘキ事項ニ付テハ第二十
二條第一項ノ規定ヲ準用ス

受託會社ハ社債ヲ讓受ケムトスル者ノ請求ア
ルトキハ營業時間内何時ニテモ信託證書又ハ
其ノ謄本ヲ閱覽セシムヘシ

第二十八條 受託會社カ前條ノ規定ニ依リ社債
ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ委託會社ニ代リテ
其ノ社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ
行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第二十九條 委託會社又ハ受託會社ハ信託契約
ノ定ムル所ニ從ヒ第三者ヲシテ社債ノ總額ヲ
引受ケシムルコトヲ得

前項ニ依ル社債總額ノ引受ハ之ヲ商行爲ト
ス

第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ハ其
ノ引受ケタル社債ヲ分割シテ之ニ相當スル債
券ノ發行ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得

受託會社カ信託契約ニ依リ債券發行ノ權限ヲ
有スルトキハ受託會社ニ對シテ前項ノ請求ヲ
爲スコトヲ得

第三十條 第二十五條第二項、第二十七條第一
項、第二項及第二十八條ノ規定ハ前條第一項
ニ依リ第三者カ社債ノ總額ヲ引受ケタル場合
ニ之ヲ準用ス

第三十一條 委託會社又ハ受託會社ハ信託證書
ノ謄本ヲ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額
ヲ引受ケタル者ニ交付スヘシ

前項ノ謄本ハ委託會社又ハ受託會社ノ代表者
之ニ署名シテ原本ト相違ナキコトヲ認證スヘシ

第二十七條第三項ノ規定ハ第一項ノ謄本ニ之
ヲ準用ス

第三十二條 會社ハ合同シテ社債ヲ發行スルコ
トヲ得此ノ場合ニ於テハ社債ノ募集ヲ受託會
社ニ委任シ又ハ受託會社ヲシテ社債ノ總額ヲ
引受ケシムヘシ

第三十三條 前條ノ場合ニ於テハ受託會社ハ債

券ノ發行、社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル
一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第三十四條 委託會社ハ商法第二百四條第二項
ノ規定ニ從ヒ左ノ事項ヲ登記スヘシ

一 第十九條第一項第一號乃至第三號、第五
號乃至第七號、第九號及第十號ニ掲ケタル
事項

二 第二十二條第一項第二號及第三號ニ掲ケ
タル事項

三 第二十三條ニ依ル委任又ハ第二十五條第
一項ニ依リ引受アリタルトキハ其ノ事實

四 第二十九條第一項ニ依リ引受アリタルト
キハ其ノ事實及引受人ノ氏名又ハ商號

第四章 債券

第三十五條 信託證書ニ依ル債券ニハ左ノ事項
ヲ記載スヘシ

一 第十九條第一項第一號乃至第三號、第五
號乃至第七號ニ掲ケタル事項

二 第二十二條第一項第二號及第三號ニ掲ケ
タル事項

三 債券ノ番號

四 前條第三號及第四號ニ掲ケタル事項

第三十六條 受託會社ハ委託會社カ信託契約ノ

條款ニ適合スル債券。發行シタルトキハ其ノ請求ニ依リ債券カ信託證書ニ依ル債券ナルコトヲ證明シテ之ヲ委託會社又ハ其ノ指定シタル者ニ引渡スヘシ

前項ノ證明ハ各債券ニ記載シテ受託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員之ニ署名スルニ依リテ之ヲ爲ス

第三十七條 信託證書ニ依ル債券ハ前條ノ證明アルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第三十八條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタル時ハ其旨ヲ各債券ニ記載シ受託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員之ニ署名スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ適用セス

第三十九條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルトキハ商法第二百六條ニ依ル記載ハ受託會社ニ於テ之ヲ爲シ商法第二百七條ニ依ル請求ハ受託會社ニ對シテ之ヲ爲ス

第五章 社債原簿

第四十條 會社カ物上擔保附社債ヲ發行シタルトキハ社債原簿ニ商法第七十三條ニ掲ケタルモノノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 第十九條第一項第一號、第七號、第九號及第十號ニ掲ケタル事項

二 第三十四條第二號乃至第四號ニ掲ケタル事項

第四十一條 委託會社ハ社債原簿ノ謄本ヲ作成シテ之ヲ受託會社ニ交付スヘシ

前項ノ謄本ハ委託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員之ニ署名シテ原本ト相違ナキコトヲ認證スヘシ

第四十二條 受託會社ハ前條ノ謄本ヲ其ノ本店ニ備置キ社債權者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ之ヲ閱覽セシムヘシ

第四十三條 社債原簿ノ記載ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ都度委託會社ハ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ノ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ受託會社ニ通知スヘシ

受託會社ハ前項ノ書面ヲ受ケタルトキハ之ヲ社債原簿ノ謄本ニ添附シテ保存スヘシ

第四十四條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルトキハ社債原簿ハ受託會社ニ於テ作成シ其ノ本店ニ備置クヘシ

商法第七十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合

ニ之ヲ準用ス

第四十五條 前條第一項ノ場合ニ於テハ受託會社ニ於テ社債原簿ノ謄本ヲ作成シテ之ヲ受託會社ニ交付スヘシ

第四十一條 第二項、第四十二條、第四十三條及商法第七十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十六條 委託會社又ハ受託會社カ社債原簿ヲ作成シタルトキハ其ノ謄本ヲ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ交付スヘシ

第四十一條 第二項及第四十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十七條 委託會社、受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者カ社債原簿ノ記載ニ變更ヲ生スヘキ取扱ヲ爲シタルトキハ其ノ都度書面ヲ以テ社債原簿ヲ備フル會社ニ通知スヘシ

第六章 社債權者集會

第四十八條 受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ハ必要アルトキハ何時ニテモ社債權者集會ヲ召集スルコト

ヲ得

第四十九條 委託會社又ハ社債總額ノ十分ノ一ニ當ル社債權者ハ集會ノ目的及其ノ召集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ提出シテ社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ受ケタル者カ其ノ請求アリタル後二週内ニ集會召集ノ手續ヲ爲ササルトキハ其ノ請求ヲ爲シタル者ハ主務官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ召集ヲ爲スコトヲ得

第五十條 第十五條第二項、第八十九條、第九十四條又ハ第九十九條ニ定メタル集會ハ社債總額ノ十分ノ一ニ當ル社債權者ニ於テ自ラ之ヲ召集スルコトヲ得

前項ノ召集ハ信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ受託會社本店ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第九十四條 又ハ第九十九條ニ定メタル集會ハ委託會社モ亦自ラ之ヲ召集スルコトヲ得

第五十一條 商法第五十六條ノ規定ハ社債權者集會ノ召集ニ之ヲ準用ス

第五十二條 社債權者集會ノ決議ハ信託契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外行使セラレタル

議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第六十四條、第六十七條第一項、第七十五條、第八十五條、第八十六條及第九十七條第一項ニ記載シタル事項ノ決議ハ記名債券ヲ有スル者及第二項ノ規定ニ依リ債券ヲ供託シタル者ノ半數以上ニシテ社債總額ノ半數以上ニ當ル社債權者カ議決權ヲ行使シタル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

商法第六十一條第二項乃至第四項ノ規定ハ社債權者集會ノ決議ニ之ヲ準用ス
集會ニ出席セサル社債權者ハ信託契約ニ前段ノ定アル場合ヲ除クノ外書面ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得

各社債權者ハ社債ノ最低金額毎ニ一箇ノ議決權ヲ有ス但シ社債ノ最低金額ノ十一倍以上ヲ有スル社債權者ノ議決權ハ信託契約ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得

第五十三條 第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者又ハ其ノ代表者ハ社債權者集會ニ出席シテ發言シ又ハ書面ヲ以テ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十四條 受託會社ノ代表者ハ社債權者集會

カ第八十九條第二項ニ規定シタル事項ニ付招集セラレタル場合ヲ除クノ外之ニ出席シテ發言シ又ハ書面ヲ以テ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十五條 社債權者集會ヲ招集スル者ハ前二條ニ掲ケタル者又ハ其ノ代表者ニ招集ノ通知ヲ發スヘシ

商法第五十六條第一項及第二項ノ規定ハ前項ノ通知ニ之ヲ準用ス

第五十六條 社債權者集會又ハ之ヲ招集シタル者ニ於テ必要ト認ムルトキハ受託會社ニ通知シテ其ノ代表者ノ出席ヲ求ムルコトヲ得

第五十七條 社債權者集會招集ノ手續又ハ其ノ議決ノ方法カ本法又ハ信託契約ノ條款ニ違反スルトキハ委託會社、受託會社又ハ各社債權者ハ其ノ決議ノ無効ノ宣告ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ハ決議ノ日ヨリ一箇月内ニ之ヲ爲スヘシ
社債權者カ第一項ノ請求ヲ爲ストキハ其ノ債券ヲ供託シ且招集ヲ爲シタル者ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スヘシ

第五十八條 社債權者集會ニ於テ決議スヘキ事

項ハ本法ニ規定アルモノノ外特ニ信託契約ニ定メタルモノニ限ル

第五十九條 社債權者集會ヲ招集シタル者ハ決議ヲ作成スヘシ

第六十條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議録ノ原本又ハ謄本ヲ本店及支店ニ備置クヘシ
受託會社ハ委託會社又ハ社債權者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ前項ノ決議録ヲ閱覽セシムヘシ

第六十一條 受託會社以外ノ者カ決議録ヲ作成シタルトキハ自ラ其ノ原本ヲ保存シ其ノ謄本ヲ受託會社ニ交付スヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ謄本ニ之ヲ準用ス
第六十二條 社債權者集會ノ費用ハ受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ於テ招集シタル場合ヲ除クノ外集會ヲ招集シタル者ニ於テ之ヲ負擔ス

第六十三條 社債權者集會ノ決議ハ受託會社之ヲ執行ス但シ其ノ性質カ受託會社ニ於テ執行スルコトヲ許ササルトキハ集會ニ於テ之ヲ執行スヘキ者ヲ定ム

第六十四條 信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ社

債權者集會ニ於テ一人又ハ數人ノ代表者ヲ選任シ其ノ決議スヘキ事項ノ決定ヲ之ニ委任スルコトヲ得

代表者ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者又ハ社債總額ノ千分ノ一以上ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ選任ス

代表者數人アル場合ニ於テ集會ニ於テ別段ノ定ヲ爲ササルトキハ代表者ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第六十五條 代表者ハ第六十三條但書ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ自ラ執行シ又ハ他人ヲシテ執行セシムルコトヲ得

第六十六條 代表者就任シタルトキハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社、受託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ之ヲ通知スヘシ

第六十七條 社債權者集會ハ何時ニテモ代表者ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ之ヲ通知スヘシ

第七章 信託契約ノ效力
七百二十二

第六十八條 受託會社ハ公平且誠實ニ信託事務ヲ處理スヘシ

第六十九條 受託會社ハ受託會社及社債權者ニ對シテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ信託事務ヲ處理スル義務ヲ負フ

第七十條 信託契約ニ依ル物上擔保ハ信託證書ニ記載シタル總社債ノ爲ニ受託會社ニ歸屬ス

受託會社ハ總社債權者ノ爲ニ擔保權ヲ保存シ且實行スルノ義務ヲ負フ

第七十一條 社債權者ハ其ノ債權額ニ應シ平等ニ擔保ノ利益ヲ享受ス

第七十二條 信託契約ニ依ル物上擔保ハ社債成立以前ニ於テモ其ノ效力ヲ生ス

第七十三條 民法第三百四十八條、第三百七十五條及商法第二百七十七條ノ規定ハ信託契約ニ依ル擔保權ニ之ヲ適用セス

第七十四條 受託會社ハ委託會社トノ契約ヲ以テ擔保ヲ追加スルコトヲ得

第七十五條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ委託會社トノ契約ヲ以テ擔保ヲ變更スルコトヲ得

第七十六條 前二條ノ契約ハ信託契約ト同一ノ效力ヲ有ス

第七十七條 第七十四條及第七十五條ノ契約ハ委託會社及受託會社ノ代表者ノ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ委託會社及受託會社連帶ナク各自之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

前項ノ契約證書ニハ第二十條及第二十一條ノ規定ヲ準用ス

第七十八條 信託契約ニ依ル擔保權ハ總社債權者ノ爲ニ之ヲ行使スルコトヲ得

第七十九條 委託會社カ定期ニ社債ノ一部ヲ償還スヘキ場合ニ於テ其ノ償還ヲ遲延シ二箇月ヲ經過シタルトキハ受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ一定ノ期間内ニ支拂ヲ爲スヘキ旨及其ノ期間内ニ支拂ヲ爲ササルトキハ社債ノ總額ニ付期限ノ利益ヲ失ハシムル旨ヲ委託會社ニ催告スルコトヲ得

委託會社カ前項ノ期間内ニ支拂ヲ爲ササルトキハ社債ノ總額ニ付期限ノ利益ヲ失フ

第八十條 前條ニ依リ委託會社カ期限ノ利益ヲ失ヒタルトキハ受託會社ハ遲滞ナク之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

第八十一條 前二條ノ規定ハ委託會社カ社債ノ利息ノ支拂ヲ遲延シ三箇月ヲ經過シタル場合ニ之ヲ準用ス

第八十二條 社債カ期限ニ至リ辨濟セラレヌ又ハ委託會社カ社債ノ辨濟ヲ完了セスシテ解散シタルトキハ受託會社ハ遲滞ナク社債權者集會ノ決議ニ依リ擔保權ヲ實行スヘシ

第八十三條 受託會社ハ總社債權者ノ爲ニ付與セラレタル執行力アル正本ニ基キ擔保物ニ付強制執行ヲ爲シ又ハ競賣法ニ依リ競賣ノ申立若ハ委任ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ債權者ニ對スル異議ハ受託會社ニ對シテ之ヲ主張スルコトヲ得

第八十四條 受託會社ハ信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ社債權者ノ爲ニ債權ノ辨濟ヲ得ルニ

必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第八十五條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ總社債ニ付支拂ヲ猶豫シ、不履行ニ因リテ生シタル責任ヲ免除シ又ハ和解ヲ爲スコトヲ得

第八十六條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ總社債權者ノ爲ニ訴訟行爲ヲ爲シ又ハ破産手續ニ屬スル一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得

第八十七條 受託會社カ第八十二條、第八十五條又ハ前條ニ掲ケタル行爲ヲ完了シタルトキハ遲滞ナク之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

第八十八條 受託會社カ社債權者ノ爲ニ辨濟ヲ得タル金額ハ遲滞ナク債權額ニ應シテ各社債權者ニ交付スヘシ

受託會社カ前項ノ金額ヲ自己ノ爲メニ費消シタルトキハ民法第六百四十七條ノ規定ヲ準用ス

社債權者ヲ確知スルコト能ハサルトキ又ハ社債權者カ受領ヲ拒ミ若ハ受領スルコト能ハサルトキハ受託會社ハ其ノ社債權者ノ爲ニ前項

ノ金額ヲ供託スヘシ

受託會社ハ必要アル場合ニ於テハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ第一項及第三項ノ行為ヲ委任スルコトヲ得

第八十九條 受託會社カ總社債權者ノ爲ニ爲スヘキ行為ヲ怠リタルトキハ主務官廳ハ社債權者集會ノ申請ニ因リ特別代理人ヲ選任シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

社債權者ト受託會社トノ利益相反スル場合ニ於テ總社債權者ノ爲ニ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス必要アルトキ亦前項ニ同シ

第九十條 本法ニ依リ總社債權者ニ代リテ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス場合ニ於テハ各別ニ社債權者ヲ表示スルコトヲ要セス

第九十一條 受託會社ハ委託會社ニ對シ信託事務ノ處理ニ付キ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ民法第六百四十八條第二項及第三項ノ規定ハ信託契約ニ之ヲ準用ス

第九十二條 委託會社ハ受託會社カ信託事務ヲ處理スルニ付止當ニ支出シタル一切ノ費用及

支出ノ日以後ニ於ケル其ノ利息ヲ償還シ又過失ナクシテ受ケタル一切ノ損害ヲ賠償スル義務ヲ負フ

受託會社ハ信託事務ヲ處理スルニ付要スル費用ノ前拂ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ關シ之ヲ準用ス

第九十三條 信託契約ニ依ル物上擔保ハ前條第一項ノ規定ニ依リ受託會社ニ生スヘキ債權ノ爲ニモ其ノ效力ヲ有ス

受託會社ハ前項ノ債權ニ付社債權者ニ優先シテ擔保物ヨリ辨濟ヲ受ケル權利ヲ有ス

第九十四條 受託會社カ故意若ハ過失ニ因リ物上擔保ヲ消滅セシメ又ハ其ノ價格ヲ減少セシメタルトキハ主務官廳ハ委託會社又ハ社債權者集會ノ申請ニ因リ受託會社ヲシテ相當ノ金額ヲ供託セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ委託會社カ供託金ノ上ニ質權ヲ設定シタルモノト看做ス

前項ノ質權ハ信託契約ニ依ル物上擔保ト看做ス

第九十五條 委託會社、第六十四條第一項ニ依

リ選任セラレタル代表者又ハ社債總額ノ十分ノ一以上ニ當ル社債權者ハ何時ニテモ受託會社ニ於ケル擔保物保管ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

無記名式ノ債券ヲ有スル者ハ其ノ債券ヲ受託會社ニ供託スルニ非サレハ前項ノ検査ヲ爲スコトヲ得ス

第九十六條 民法第二百九十八條第三項ノ規定ハ信託契約ニ依ル質權ニ之ヲ準用セス

第八章 信託事務ノ承繼及終了

第九十七條 受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ依リ又ハ委託會社及社債權者集會ノ同意アルトキハ信託事務ヲ承繼スヘキ會社ヲ定メテ選任スルコトヲ得

信託事務ヲ承繼スヘキ會社カ外國會社ナルトキハ第十七條第一項ノ規定ヲ準用ス

第九十八條 受託會社ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ主務官廳ノ許可ヲ受テ辭任スルコトヲ得

第九十九條 受託會社カ其ノ義務ニ反シ又ハ信託事務ヲ處理スルニ不適任ナルトキ其ノ他正當ノ事由アルトキハ主務官廳ハ委託會社又ハ

社債權者集會ノ申請ニ因リ受託會社ヲ解任スルコトヲ得

第一百條 前二條ノ規定ニ依リ受託會社カ辭任シ若ハ解任セラレタルトキ又ハ免許ヲ取消サレ若ハ解散シタルトキハ主務官廳ハ更ニ受託會社ヲ選任シテ信託事務ヲ承繼セシムヘシ

第一百一條 第九十七條ニ依ル信託事務ノ承繼ハ委託會社、前受託會社及新受託會社ノ代表者ノ署名シタル契約書ヲ作成スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

前項ノ契約ヲ締結シタルトキハ各會社ハ遲滞ナク書面ヲ以テ之ヲ主務官廳ニ届出ヘシ

前條ニ依ル承繼ハ新受託會社ニ對スル主務官廳ノ命令書ヲ交付スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第一百二條 信託事務ノ承繼ハ第九十七條ニ依ル場合ニ於テハ委託會社、前受託會社及新受託會社、第一百條ニ依ル場合ニ於テハ委託會社及新受託會社遲滞ナク各自之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

第三百三條 第九十七條ニ依リ定メラレ又ハ第百

條ニ依リ選任セラレタル新受託會社ハ前受託

會社ノ締結シタル條款ニ從ヒ信託事務ヲ處理

スヘシ

社債權者又ハ委託會社ノ爲ニ前受託會社ニ歸

屬シタル權利義務ハ前受託會社ノ辭任、解任、

免許ノ取消又ハ解散ノ時ニ遡リテ新受託會社

ニ移轉ス但シ前受託會社ノ契約違反又ハ不法

行爲ニ因リテ生シタル責任ハ此ノ限ニ在ラス

第四百四條 前受託會社ノ不法處分ニ因リ質物ノ

占有ヲ得タル者カ惡意ナリシトキハ新受託會

社カ其ノ者ノ爲ニ占有ヲ奪ハレタルモノト看

做ス

第五百五條 前受託會社ノ取締役、之ヲ代表スル

社員、清算人又ハ破産管財人ハ遲滞ナク其ノ

委託會社又ハ社債權者ノ爲ニ保管スル者及信

託事務ニ關スル書類ヲ新受託會社ニ移付シ其

ノ他信託事務ヲ新受託會社ニ引繼ク爲必要ナ

ル一切ノ行爲ヲ爲スヘシ

前項ニ掲ケタル引繼ヲ完了シタルトキハ各會

社ハ共同シテ書面ヲ以テ之ヲ主務官廳ニ届出

ヘシ

前項ノ届書ニハ移付シタル物ノ目錄ヲ添附ス

ヘシ

第六百六條 承繼ニ關スル事務ハ主務官廳ノ監督

ニ屬ス

第十六條第二項ノ規定ハ前項ノ監督ニ之ヲ準

用ス

第七百七條 受託會社カ信託事務ヲ終了シタルト

キハ總計算書ヲ作成シテ之ヲ公告スヘシ

第九百九條 罰則

第八百八條 第五條ノ規定ニ違反シテ擔保附社債

ニ關スル信託事業ヲ營ム者ハ十圓以上千圓以

下ノ過料ニ處ス

第九百九條 左ノ場合ニ於テハ會社ノ業務ヲ執行

スル社員、取締役、清算人、破産管財人、第八十

九條ノ特別代理人又ハ外國會社ノ代表者ヲ十

圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 第六條ノ規定ニ違反シタルトキ

二 第八條ノ規定ニ違反シタルトキ

三 本法ニ依ル主務官廳ノ命令ニ違反シタル

トキ

四 本法ニ依ル主務官廳ノ検査ヲ妨ケタルト

キ

第十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル

者、第六十四條ノ代表者、第八十九條ノ特別代

理人又ハ外國會社ノ代表者ヲ五百圓以上五百圓

以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ定メタル届出、公告若ハ通知ヲ爲

スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若ハ通知ヲ爲

シタルトキ

二 本法ニ依リ交付スヘキ書類ヲ交付セズ又

ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

三 本法ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ正當ノ

理由カクシテ閱覽セシメザリシトキ

四 本法ニ依リ備置クヘキ書類ヲ備置カス、

之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セズ又ハ不正ノ

記載ヲ爲シタルトキ

第七百十一條 非訟事件手續法第二百六條乃至第

二百八條ノ規定ハ本章ニ定メタル過料ニ之ヲ

準用ス

附則

第七百十二條 本法ニ依リ署名スヘキ場合ニ於テ

ハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得

第七百十三條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營

ム合名會社及合資會社ノ設立登記ヲ申請スル

場合ニ於テハ申請書ニ非訟事件手續法第七

百二十九

ノ規定ニ依リ

之ヲ申請スル

場合ニ於テハ

申請書ニ非訟

事件手續法第

七

百二十九

ノ規定ニ依

リ

之ヲ申請ス

ル

第九十七條ニ依リ定メラレ又ハ第百

條ニ依リ選任セラレタル新受託會社ハ前受託

會社ノ締結シタル條款ニ從ヒ信託事務ヲ處理

スヘシ

社債權者又ハ委託會社ノ爲ニ前受託會社ニ歸

屬シタル權利義務ハ前受託會社ノ辭任、解任、

免許ノ取消又ハ解散ノ時ニ遡リテ新受託會社

ニ移轉ス但シ前受託會社ノ契約違反又ハ不法

行爲ニ因リテ生シタル責任ハ此ノ限ニ在ラス

第四百四條 前受託會社ノ不法處分ニ因リ質物ノ

占有ヲ得タル者カ惡意ナリシトキハ新受託會

社カ其ノ者ノ爲ニ占有ヲ奪ハレタルモノト看

做ス

第五百五條 前受託會社ノ取締役、之ヲ代表スル

社員、清算人又ハ破産管財人ハ遲滞ナク其ノ

委託會社又ハ社債權者ノ爲ニ保管スル者及信

託事務ニ關スル書類ヲ新受託會社ニ移付シ其

ノ他信託事務ヲ新受託會社ニ引繼ク爲必要ナ

ル一切ノ行爲ヲ爲スヘシ

前項ニ掲ケタル引繼ヲ完了シタルトキハ各會

社ハ共同シテ書面ヲ以テ之ヲ主務官廳ニ届出

ヘシ

前項ノ届書ニハ移付シタル物ノ目錄ヲ添附ス

ヘシ

第六百六條 承繼ニ關スル事務ハ主務官廳ノ監督

ニ屬ス

第十六條第二項ノ規定ハ前項ノ監督ニ之ヲ準

用ス

第七百七條 受託會社カ信託事務ヲ終了シタルト

キハ總計算書ヲ作成シテ之ヲ公告スヘシ

第九百九條 罰則

第八百八條 第五條ノ規定ニ違反シテ擔保附社債

ニ關スル信託事業ヲ營ム者ハ十圓以上千圓以

下ノ過料ニ處ス

第九百九條 左ノ場合ニ於テハ會社ノ業務ヲ執行

スル社員、取締役、清算人、破産管財人、第八十

九條ノ特別代理人又ハ外國會社ノ代表者ヲ十

圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 第六條ノ規定ニ違反シタルトキ

二 第八條ノ規定ニ違反シタルトキ

三 本法ニ依ル主務官廳ノ命令ニ違反シタル

トキ

四 本法ニ依ル主務官廳ノ検査ヲ妨ケタルト

キ

第十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル

者、第六十四條ノ代表者、第八十九條ノ特別代

理人又ハ外國會社ノ代表者ヲ五百圓以上五百圓

以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ定メタル届出、公告若ハ通知ヲ爲

スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若ハ通知ヲ爲

シタルトキ

二 本法ニ依リ交付スヘキ書類ヲ交付セズ又

ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

三 本法ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ正當ノ

理由カクシテ閱覽セシメザリシトキ

四 本法ニ依リ備置クヘキ書類ヲ備置カス、

之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セズ又ハ不正ノ

記載ヲ爲シタルトキ

第七百十一條 非訟事件手續法第二百六條乃至第

二百八條ノ規定ハ本章ニ定メタル過料ニ之ヲ

準用ス

附則

第七百十二條 本法ニ依リ署名スヘキ場合ニ於テ

ハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得

第七百十三條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營

ム合名會社及合資會社ノ設立登記ヲ申請スル

場合ニ於テハ申請書ニ非訟事件手續法第七

百二十九

ノ規定ニ依

リ

之ヲ申請ス

ル

場合ニ於テハ

申請書ニ非訟

事件手續法第

七

百二十九

ノ規定ニ依

リ

十九條第二項ニ掲ゲタル書面ノ外主務官廳ノ免許書又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附スヘシ
既設ノ會社カ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム免許ヲ受ケタルニ因リ其ノ登記ヲ申請スルトキ亦前項ニ同シ

第百十四條 信託會社ノ登記スヘキ事項ニシテ主務官廳ノ免許ヲ要スルモノニ付テハ免許書ノ到達ノ日ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第百十五條 主務官廳カ第十一條又ハ第十二條ノ規定ニ依リ事業ノ停止ヲ命シ又ハ免許ヲ取消シタルトキハ登記所ハ主務官廳ノ囑託ニ因リテ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第百十六條 本法ニ依ル社債ノ登記ノ申請書ニハ非訟事件手續法第九十一條ニ掲ゲタル書面ノ外信託證書ヲ添附スヘシ

第百十七條 本法ニ依ル社債ノ登記事項ニ變更ヲ生シタルトキハ委託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ハ遲滞ナク其ノ登記ヲ申請スヘシ

前項ノ登記ノ申請書ニハ其ノ變更ヲ證スル書類ヲ添附スヘシ
第百十八條 信託契約ニ依ル擔保權設定ノ登記

ニ付テハ受託會社ヲ登記權利者トス
第百十九條 信託契約ニ依ル擔保權設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ不動産登記法第六十六條又ハ第十七條ニ依ル債權額ノ記載ハ社債ノ總額ヲ表示スルヲ以テ足ル

第百二十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
(明治三十八年勅令第百八十五號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行ス)

擔保附社債信託法 施行細則

(明治三十八年五月三十一日)
大藏省令第三十五號

第一條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ムトスル會社ハ免許申請書ニ定款ヲ添附シテ差出スヘシ

前項ノ書類ノ外台名會社又ハ合資會社ニ在リテハ出資ノ拂込額ヲ記載シタル書面株式會社ニ在リテハ非訟事件手續法第八十七條第二項第二號乃至第七號ニ記載シタル書類株式會社ニ在リテハ之ニ準スヘキ書類ヲ添附ス

ルコトヲ要ス

第二條 既設會社カ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ムトスルトキハ免許申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ差出スヘシ

一 定款又ハ會社契約書ノ謄本
二 目的變更ニ關スル株主總會ノ決議錄謄本又ハ社員總會ノ決議ヲ記載シタル書面
三 最終ノ貸借對照表

第三條 信託會社カ信託契約ヲ締結シタルトキハ遲滞ナク左ノ書類ヲ添附シテ届出ツヘシ

一 信託證書謄本
二 社債ノ總額ヲ引受ケ別ニ其ノ引受ニ關スル契約書アルトキハ其ノ契約書謄本
三 社債募集ノ事由ヲ記載シタル書面

前項第一號ノ信託證書カ主務官廳ノ認可ヲ要スルモノナルトキハ認可ノ證印アル信託證書ノ謄本ナルコトヲ要ス

前項ノ認可カ效力ヲ失ヒタルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ
第四條 信託會社ハ信託契約ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滞ナク届出ツヘシ
前項ノ變更カ主務官廳ノ認可ヲ要スルモノナ

ルトキハ其ノ認可書謄本ヲ添附スヘシ

第五條 信託會社カ委託會社ノ委任ニ因リ社債ヲ募集シタル場合ニ於テ其ノ社債ノ募集カ確定シタルトキハ遲滞ナク左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ

一 應募ノ口數券面總額及其ノ申込價格ノ總額
二 募入ノ口數券面總額及總價格(即チ會社ノ實收スヘキ金額)

第六條 外國會社ト信託契約ヲ締結セムトスル會社ハ許可申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ差出スヘシ

一 信託證書案
二 社債募集ニ關スル株主總會ノ決議錄謄本
三 擔保附社債信託法第二十二條第一項第五號乃至第七號ノ事項及社債募集ノ事由ヲ記載シタル書面

四 信託ヲ引受ケムトスル外國會社ノ定款寫又ハ會社ノ性質ヲ識別スルニ足ル書面
五 前號ノ外國會社ノ資本又ハ金錢ヲ目的トスル出資ノ總額及其ノ拂込金額ヲ記載シタル書面

第七條 擔保附社債信託法第十七條第四項ノ屆書ニハ代表者タル資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第八條 第六條ノ信託契約ヲ締結シタル外國會社ニ付テハ第三條乃至第五條ノ規定ヲ準用ス

第九條 信託會社ハ社債權者集會ノ召集アリタルトキハ遲滞ナク集會ノ目的、場所、期日及其ノ召集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ

第十條 擔保附社債信託法第九十九條第二項ニ依ル許可申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ
一 集會ノ目的及其ノ召集ノ理由ヲ記載シタル書面
二 召集ノ請求ヲ受ケタル者カ請求アリタル

第十一條 擔保附社債信託法第九十九條ニ依ル申請書ニハ社債權者集會ノ決議録ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ
一 擔保附社債信託法第八十九條第一項ノ場合ニ於テハ其ノ爲スヘキ行爲ヲ怠リタル事實ヲ證スル書面
二 同條第二項ノ場合ニ於テハ社債權者ト受託會社トノ利益相反スルノ事實及其ノ事實ニ依リ總社債權者ノ爲ニ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ必要トスル事由ヲ記載シタル書面

第十二條 擔保附社債信託法第九十四條ニ依ル申請書ニハ左ノ書類ヲ添附シテ差出スヘシ但
一 同條第二項ノ場合ニ於テハ社債權者ト受託會社トノ利益相反スルノ事實及其ノ事實ニ依リ總社債權者ノ爲ニ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ必要トスル事由ヲ記載シタル書面
二 同條第一項ノ契約書附本ヲ添附スヘシ

第十三條 信託會社カ擔保附社債信託法第八十八條第三項及第九十四條第一項ノ規定ニ依リ供託ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク供託金受領書附本ヲ添へ届出ツヘシ

第十四條 信託會社ハ擔保附社債信託法第九十五條ニ依ル検査ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其ノ年月日及検査ノ狀況ヲ報告スヘシ

第十五條 擔保附社債信託法第九十七條第二項ニ依リ外國會社ト信託事務ノ承繼契約ヲ締結セムトスル場合ニ於テハ委託會社ハ許可申請書ニ左ノ書類及第六條第一項第四號及第五號ノ書類ヲ添附スヘシ
一 信託契約ノ定ムル所ニ依リ辭任シタルコト又ハ委託會社及社債權者集會カ辭任ニ同意シタルコトヲ表示シタル書面
二 信託事務ニ關スル計算書
三 承繼契約書案

第十六條 擔保附社債信託法第九十八條ニ依ル

後二週間内ニ召集ノ手續ヲ爲ササリシ事實ヲ記載シタル書面

前項ノ申請者カ社債總額ノ十分ノ一二當ル社債權者ナルトキハ前項ノ書類ノ外其ノ社債權者カ各自有スル債券額及社債原簿ニ現存セル社債總額ヲ記載シ且其ノ事實ヲ證スル書面ヲ添へ其ノ許可申請書ニハ各自署名スヘシ但シ無記名債券ハ之ヲ信託會社ニ提供スルカ又ハ大藏大臣ノ指定スル銀行ニ預ケ入レ其ノ預リ證書ヲ提供スヘシ

第十一條 擔保附社債信託法第九十九條ニ依ル申請書ニハ社債權者集會ノ決議録ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ
一 擔保附社債信託法第八十九條第一項ノ場合ニ於テハ其ノ爲スヘキ行爲ヲ怠リタル事實ヲ證スル書面
二 同條第二項ノ場合ニ於テハ社債權者ト受託會社トノ利益相反スルノ事實及其ノ事實ニ依リ總社債權者ノ爲ニ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ必要トスル事由ヲ記載シタル書面

第十二條 擔保附社債信託法第九十四條ニ依ル申請書ニハ左ノ書類ヲ添附シテ差出スヘシ但
一 同條第二項ノ場合ニ於テハ社債權者ト受託會社トノ利益相反スルノ事實及其ノ事實ニ依リ總社債權者ノ爲ニ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ必要トスル事由ヲ記載シタル書面
二 同條第一項ノ契約書附本ヲ添附スヘシ

第十三條 信託會社カ擔保附社債信託法第八十八條第三項及第九十四條第一項ノ規定ニ依リ供託ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク供託金受領書附本ヲ添へ届出ツヘシ

第十四條 信託會社ハ擔保附社債信託法第九十五條ニ依ル検査ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其ノ年月日及検査ノ狀況ヲ報告スヘシ

第十五條 擔保附社債信託法第九十七條第二項ニ依リ外國會社ト信託事務ノ承繼契約ヲ締結セムトスル場合ニ於テハ委託會社ハ許可申請書ニ左ノ書類及第六條第一項第四號及第五號ノ書類ヲ添附スヘシ
一 信託契約ノ定ムル所ニ依リ辭任シタルコト又ハ委託會社及社債權者集會カ辭任ニ同意シタルコトヲ表示シタル書面
二 信託事務ニ關スル計算書
三 承繼契約書案

第十六條 擔保附社債信託法第九十八條ニ依ル

三 商法第七十八條第一項ノ規定ニ依リ作成
シタル會社各自ノ貸借對照表
四 合併ニ關スル株主總會決議錄原本又ハ社
總會ノ決議ヲ記載シタル書面
五 商法第七十九條第一項ノ規定ニ依リタル
コト又ハ同條第二項ノ規定ヲ履行シタルコ
トヲ證スル書面
合併セムトスル會社方銀行タルトキハ銀行條
例施行細則第八條ニ依リ認可申請書ニ第十五
條第一號乃至第三條及前項第五號ノ書類ヲ添
附スルコトヲ要ス
合併ニ因リ設立シ又ハ合併後存続スル會社カ
新ニ信託事業ヲ營マムトスルトキハ免許申請
書ニ第一項ノ書類ヲ添附スヘシ
第二十二條 擔保附社債信託法第十四條及第十
五條ニ依リ請求書ニハ請求者カ利害關係ヲ有
スル事實及清算人ノ選任又ハ解任ヲ必要トス
ル事由ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ差出スシ
前項ノ請求者カ社債總額十分ノ一二當ル社債
權者ナルトキハ第十條第二項ノ規定ヲ適用ス
第二十三條 信託會社ノ清算人ハ就職後滯滞ナ
ク會社財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及貸借對
照表ヲ添附シテ届出ツヘシ
清算人ハ毎月清算ノ狀況ヲ報告スヘシ但シ重
要ナル事項ニ付キテハ其ノ都度滯滞ナク届出

ツヘシ
清算カ結了シタルトキハ滯滞ナク決算書ヲ添
附シテ届出ツヘシ
第二十四條 信託會社カ登記又ハ登錄ヲ爲シタ
ルトキハ滯滞ナク其ノ事項及年月日ヲ記載シ
タル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ
第二十五條 左ノ場合ニ於テハ信託會社ハ滯滞
ナク其ノ事由又ハ狀況ヲ記載シタル書面ヲ添
附シテ届出ツヘシ
一 信託事業ニ關スル訴訟事件ノ當事者トナ
リタルトキ及其ノ判決アリタルトキ
二 非訟事件ニ付裁判所ニ請求又ハ抗告ヲ爲
シタルトキ及其ノ決定アリタルトキ
三 検査役ノ選任アリタルトキ
四 仕拂ヲ停止シ又ハ解散ノ事由發生シタル
トキ
五 商法第七十四條第一項ニ依リ株主總會
ノ召集ヲ爲シタルトキ
第二十六條 大正五年大藏省令第十號銀行條例
施行細則第九條乃至第十一條及第十三條乃至
第十五條ノ規定ハ之ヲ信託會社ニ準用ス但シ
營業報告中社債ニ關スル事項ハ附屬様式ニ準
シテ調製スヘシ
信託會社ハ毎月實際報告表ヲ調製シ翌月十日
マテニ差出スヘシ

附則

第二十七條 本令ハ擔保附社債信託法施行ノ日
ヨリ之ヲ施行ス(附屬様式略ス)

銀行條例

(明治二十三年八月法律第七十二號)

此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行ス
第一條 公ニ開キタル店舗ニ於テ營業トシテ證
券ノ割引ヲ爲シ又ハ爲替事業ヲ爲シ又ハ諸預
リ及貸付ヲ併セ爲ス者ハ何等ノ名稱ヲ用非
レ拘ラス總テ銀行トス
第二條 銀行ノ事業ヲ營マムトスル者ハ商號、
資本金額及本店ノ所在地ヲ定メ地方長官ヲ經
由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ
(改正大正五年法律十三號)
銀行カ他ノ事業ヲ兼營シ又ハ支店ヲ設置セム
トスルトキハ亦前項ニ同シ
第二條ノ二 銀行カ前條第一項ノ掲グル事項ヲ
變更セムトスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大
藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ支店ノ所在地ヲ變更
セムトスルトキ亦同シ(追加同上)

銀行ノ事業ヲ營ム會社ノ合併ハ大藏大臣ノ認
可ヲ受クルニ非サレハ其效力ヲ生セズ
第二條ノ三 銀行ノ事業ヲ營ム會社カ合併ノ決
議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第七十八條第二
項ノ規定ニ依リテ爲スヘキ催告ハ預金者ニ對
シテハ之ヲ爲スコトヲ要セズ
第二條ノ四 銀行ノ事業ヲ營ム會社カ合併ノ決
議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第七十八條第二
項但書ノ期間ハ一箇月迄之ヲ下スコトヲ得合
併ニ因ル株式併合ノ場合ニ於テ商法第二百二
十條ノ二但書ノ期間ニ付亦同シ
第二條ノ五 銀行ノ事業ヲ營ム會社カ合併ニ因
リテ貯蓄銀行法第一條第一項ノ業務ニ屬スル
契約ニ基ク權利義務ヲ承繼シタル場合ニ於テ
ハ其ノ契約ノ完了スル迄仍其契約ニ關スル業
務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ妨ケス
貯蓄銀行法第九條、第十條、第十五條及第十九
條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ同法
第十五條及第十九條ノ規定中取締役トアルハ
合併ニ因リテ設立シタル會社又ハ合併後存続
スル會社カ合名會社合資會社又ハ株式合資會
社ナルトキハ其業務ヲ執行スル社員トス

第三條 銀行ハ毎半箇年營業ノ報告書ヲ製シ地方長官ナ經由シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四條 銀行ハ毎半箇年貸借對照表ヲ製シ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第五條 銀行ノ登記スヘキ事項ニシテ大藏大臣ノ認可ヲ要スルモノアルトキハ其ノ認可書ノ到達シタル日ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第六條 銀行ノ營業時間ハ午前第九時ヨリ午後三時マテトス但營業ノ都合ニ依リ之ヲ增加スルコトヲ得(改正二十八年法律第一號)

第七條 銀行ノ休日ハ大祭日祝日日曜日及銀行營業地ニ行ハルル定例ノ休日トス但止ムヲ得サル事故アルトキハ地方長官ニ届出テ豫メ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ公告シタル上休業スルコトヲ得

第八條 大藏大臣ハ何時タリトモ地方長官又ハ其他ノ官吏ニ命シテ銀行ノ業務ノ實況及財産ノ現況ヲ検査セシムルコトヲ得

第八條ノ二 大藏大臣ハ銀行ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ其事業ノ停止ヲ命シ其他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

適用シ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ之ヲ其法定代理人ニ適用ス

第十一條 此條例ハ日本銀行橫濱正金銀行國立銀行ニ適用セス

既設會社ニシテ銀行ノ事業ヲ營マムトスルモノハ其ノ商號、資本金額及本店並支店ノ所在地ヲ記載シタル認可申請書ニ業務執行社員ノ全員、總取締役署名シ左ノ書類ヲ添附シテ大藏大臣ニ提出スヘシ

一 定款

二 認可申請前日ニ於ケル會社ノ日計表

三 預ケ先ノ預金證明書

前項ノ書類ノ外台名會社又ハ合資會社ニ在リテハ出資ノ拂込額ヲ記載シタル書面株式會社ニ在リテハ非訟事件手續法第百八十七條第二項第二號乃至第七號ニ記載シタル書類、株式會社ニ在リテハ之ニ準スヘキ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

新設會社ニシテ銀行ノ事業ヲ營マムトスルモノハ其ノ商號、資本金額及本店並支店ノ所在地ヲ記載シタル認可申請書ニ業務執行社員ノ全員、總取締役署名シ左ノ書類ヲ添附シテ大藏大臣ニ提出スヘシ

一 會社登記簿ノ謄本

二 最終ノ財産目錄及貸借對照表

三 最終ノ損益計算及利益處分ニ關スル書面

四 株主ノ氏名及持株數ヲ記載シタル書面

第三條 會社ニ非スシテ銀行ノ事業ヲ營マムトスル者ハ其ノ商號、資本金額及本店並支店ノ所在地ヲ記載シタル認可申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ大藏大臣ニ提出スヘシ

一 戶籍謄本

二 履歴書

三 資産調書

第四條 外國會社又ハ銀行條例施行地外ニ本店ヲ有スル會社ハ銀行條例施行地内ニ支店又ハ

銀行カ法令、定款又ハ大藏大臣ノ命令ニ違反シ其他公益ヲ害スヘキ行為ヲ爲シタルトキハ大藏大臣ハ事業ノ停止若ハ役員ノ改任ヲ命シ又ハ營業ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第九條 大藏大臣ノ認可ヲ受ケスシテ銀行ノ事業ヲ營ミタルトキハ其營業主ヲ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 左ノ場合ニ於テハ營業主ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 第二條第二項又ハ第二條ノ二第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

二 第三條ノ報告若ハ第四條ノ公告ヲ爲サス又ハ其報告若ハ公告中ニ虛偽ノ記載ヲ爲シ若ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

三 第八條ノ検査ヲ妨ケタルトキ

四 第八條ノ二ノ規定ニ依リ大藏大臣ノ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

第十條ノ二 前二條ノ罰則ハ營業主法人ナルトキハ其業務ヲ執行スル社員、取締役、監査役其他法人ノ代表者、外國會社ノ代表者ニ之ヲ

銀行條例施行細則

(大正五年五月大藏省令第十號)

第一條 新設會社ニシテ銀行ノ事業ヲ營マムトスルモノハ其ノ商號、資本金額及本店並支店ノ所在地ヲ記載シタル認可申請書ニ業務執行社員ノ全員、總取締役署名シ左ノ書類ヲ添附シテ大藏大臣ニ提出スヘシ

一 定款

二 認可申請前日ニ於ケル會社ノ日計表

代理店ヲ設ケ銀行ノ事業ヲ營ムトスルトキハ其ノ支店又ハ代理店ノ所在地ヲ記載シタル認可申請書ニ支店代表者又ハ代理店主署名シ左ノ書類ヲ添附シテ大藏大臣ニ提出スヘシ

- 一 本店ノ存在ヲ認ムルニ足ル書面
- 二 代表者タル資格ヲ證スル書面又ハ代理店契約書謄本
- 三 會社ノ定款又ハ會社ノ性質ヲ識別スルニ足ル書面
- 四 支店又ハ代理店ノ設置カ官廳ノ認可ヲ要スルモノナルトキハ其ノ認可書ノ謄本
- 五 會社ノ營業狀態ヲ知ルニ足ル書面
- 六 會社ノ重ナル出資者及役員ノ氏名住所ヲ記載シタル書面

前項ノ規定ハ會社ニ非スシテ外國又ハ銀行條例施行地外ニ本店ヲ有スル者カ銀行條例施行地内ニ支店又ハ代理店ヲ設ケ銀行ノ事業ヲ營ムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第五條 銀行事業ノ認可申請ヲ爲ス者他ノ事業ヲ兼營セムトスルトキハ第一條乃至第四條ノ規定ニ依ルノ外其營ムトスル事業ノ種類ヲ記載シタル認可申請書ニ事業狀況説明書又ハ

事業計畫書ヲ添附シテ大藏大臣ニ提出スヘシ前項ノ規定ハ既ニ銀行事業ヲ營メル者他ノ事業ヲ兼營セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第六條 銀行カ營業ノ認可ヲ得タル日ヨリ六月内ニ事業ノ開始ヲ爲ササルトキハ其認可ハ效力ヲ失フ但シ已ムヲ得サル事由ニ因リ大藏大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條 銀行カ事業ヲ開始シタルトキハ遲滞ナク大藏大臣ニ届出ツヘシ

第八條 銀行事業ヲ營ム會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ商法第七十八條ノ手續ヲ了シタル後各會社ノ業務執行社員ノ全員、總取締役ノ署名シタル認可申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ大藏大臣ニ提出スヘシ

- 一 總會ノ決議録又ハ社員ノ同意アリタルコトヲ知ルニ足ル書面
- 二 合併ニ關スル契約書
- 三 合併ニ因リ存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社ノ定款
- 四 商法第七十八條第一項ノ規定ニ依リ作成シタル貸借對照表
- 五 商法第七十八條第二項ノ規定ニ依ル公告

第九條 合名會社カ組織ヲ變更シテ合資會社トナリ若ハ合資會社カ組織ヲ變更シテ合名會社トナリタルトキハ其届書ニ貸借對照表、定款及組織變更ニ關スル總社員ノ同意アリタルコトヲ知ルニ足ル書面ヲ添附シテ大藏大臣ニ提出スヘシ

第十條 株式合資會社カ組織ヲ變更シテ株式會社トナリタルトキハ其ノ届書ニ貸借對照表、定款及組織變更ニ關スル株主總會ノ決議録、無限責任社員ノ一致アリタルコトヲ知ルニ足ル書面ヲ添附シテ大藏大臣ニ提出スヘシ

第十一條 前條ノ規定ハ商法施行前ニ設立シタル合資會社カ其ノ組織ヲ變更シテ商法ニ定メタル合資會社、株式會社又ハ株式合資會社トナリタル場合ニ之ヲ準用ス

第十二條 銀行カ其ノ商號、資本金額、本店若ハ支店ノ所在地ヲ變更シ又ハ支店ヲ設置セムトスルトキハ認可申請書ニ理由書及株主總會若ハ社員總會ノ決議録又ハ總社員ノ同意アリタルコトヲ知ルニ足ル書面ヲ添附シテ大藏大臣ニ提出スヘシ

第十三條 銀行事業ヲ營ム會社カ其ノ定款ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク大藏大臣ニ届出ツヘシ

臣ニ提出スヘシ但シ株式會社又ハ株式合資會社カ資本ヲ減少セムトスル場合ニハ尙第八條第四號及第五號ノ書類ヲ添附スヘシ

第十三條 銀行事業ヲ營ム會社カ其ノ定款ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク大藏大臣ニ届出ツヘシ

第十四條 銀行ノ事業年度ハ毎年一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄トス

第十五條 銀行條例第三條ノ營業ノ報告書ハ附屬雛形ニ準シテ調製シ事業年度經過後一月内ニ大藏大臣ニ提出スヘシ但シ已ムヲ得サル事由アルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケテ延期スルコトヲ得

第十六條 左ノ場合ニ於テハ銀行ハ遲滞ナク事由ヲ具シテ大藏大臣ニ届出ツヘシ

(以下雜形各ス)

貯蓄銀行法

(大正十年四月十三日法律第七十四號)

第一條 左ニ掲クル業務ヲ營ム者ハ之ヲ貯蓄銀行トス

一 複利ノ方法ニ依リ預金ヲ受入ルルコト

二 一回十圓未満ノ金額ヲ預金トシテ受入ルルコト

三 豫メ拂戻ノ期限ヲ定メ定期ニ又ハ一定ノ期間内ニ於テ數回ニ預金ヲ受入ルルコト

四 期限ヲ定メテ一定金額ノ給付ヲ爲スコト

ナ約シ定期ニ又ハ一定ノ期間内ニ於テ數回ニ金錢ヲ受入ルルコト

貯蓄銀行ニ非サルモノハ前項ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス但シ貯蓄銀行ニ非サル銀行カ預金取引ヲ有スル者ヨリ其ノ者トノ取引ノ結果生シタル十圓未満ノ金額ヲ其ノ預金ニ受入レ又ハ小切手ニ依リ支拂ヲ爲スヘキ預金取引ヲ有スル者ヨリ十圓未満ノ金額ヲ其ノ預金ニ受入ルル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 貯蓄銀行業ハ主務大臣 免許ヲ受クル

第十九條 本則ハ大正五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十條 明治三十二年大藏省令第二十四號銀行條例施行細則ハ之ヲ廢止ス

- 一 支拂停止ヲ爲シタルトキ
 - 二 事業ヲ廢止シ又ハ解散シタルトキ
 - 三 破産ノ宣告ヲ受ケ、破産宣告ニ對シ抗告ヲ爲シ又ハ抗告ニ對シ裁判所ノ決定ヲ受ケタルトキ
 - 四 協詣契約ニ付裁判所ノ認可ヲ受ケ又ハ協詣契約カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ
- 第十七條 銀行條例又ハ本則ノ規定ニ依リ大藏大臣ニ提出スヘキ書類ハ總テ地方長官ヲ經由スルコトヲ要ス
- 第十八條 本則ニ定メタル届出ヲ怠リタルトキハ其ノ營業主又ハ代理店主ヲ科料ニ處ス前項ノ罰則ハ營業主又ハ代理店主法人ナルトキハ其ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、監查役外國會社ノ代表者ニ之ヲ適用シ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス
- 附則

第二十條 明治三十二年大藏省令第二十四號銀行條例施行細則ハ之ヲ廢止ス

第二條 貯蓄銀行業ハ資本金五十萬圓以上ノ株式會社ニ非サルハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第三條 貯蓄銀行ハ其ノ商號中ニ貯蓄銀行ナル文字ヲ用ウヘシ

第四條 貯蓄銀行ニ非サルモノハ其ノ商號中ニ貯蓄銀行タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

第五條 貯蓄銀行ハ第一條第一項ノ業務ノ外左ニ掲クル業務ヲ併セ營ムコトヲ得

一 定期預リ金

二 保護預リ

三 債權ノ收立

四 公共團體又ハ產業組合ノ金錢出納事務ノ取扱

五 公共團體又ハ產業組合ヨリノ要求拂預リ金

第六條 貯蓄銀行ハ本法ニ規定セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第七條 貯蓄銀行カ貯蓄銀行ノ營ムコトヲ得サル業務ニ屬ル契約ニ基ク權利義務ヲ合併ニ因リテ承繼シタル場合ニ於テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ノ屬スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ妨ケス

第八條 貯蓄銀行ハ小切手ニ依リ支拂ヲ爲ス第一條第一項第一號第二號ノ預金取引ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 貯蓄銀行ハ第一條第一項及第五條第一號第五號ノ規定ニ依リ受入レタル金額ノ三分一以上ノ金額ニ相當スル國債ヲ供託スヘシ但シ供託金額中受入金額ノ五分ノ一ヲ超ユル額ニ付テハ第十一條第一項第一號ノ有價證券ヲ以テ國債ニ代フルコトヲ得

第十條 預金者及第一條第一項第四號ノ規定ニ依リ給付金ノ債權者ハ其ノ預金及給付金ニ關シテハ前條ノ規定ニ依リテ供託シタル國債及有價證券ニ付他ノ債權者ニ先チ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第十一條 貯蓄銀行ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ

資金ヲ運用スルコトヲ得ス

- 一 國債、地方債、社債又ハ株式ノ應募、引受又ハ買入
 - 二 國債其ノ他前號ニ掲クル有價證券ヲ買トスル貸付
 - 三 不動産ヲ抵當トスル貸付
 - 四 預金者ニ對シ其ノ預金額ナ限度トスル貸付
 - 五 第一條第一項第四號ノ規定ニ依ル給付金ノ債權者ニ對シ其ノ給付金額ナ限度トスル貸付
 - 六 銀行ヘノ預ケ金又ハ郵便貯金
 - 七 銀行引受手形ノ買入
- 前項ニ規定スル社債及株式ニ付テハ其ノ種類ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第十二條 貯蓄銀行ノ所有シ又ハ貸付金若ハ預ケ金ノ擔保トシテ受入ルル一會社ノ株式ハ該會社ノ總株式ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第十三條 一人ニ對スル貸付金額ハ拂込資本金及準備金ノ十分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第十一條第一項第三號ノ規定ニ依ル貸付金ノ總額ハ拂込資本金及準備金ノ總額ヲ超ユルコトヲ得ス

トヲ得ス

- 第十一條第一項第五號ノ貸付金額中既ニ受入レタル金額ヲ超過スル額ニ付テハ確實ナル擔保又ハ保證アルコトヲ要ス
- 第十四條 一銀行ニ對スル預ケ金及其ノ銀行ノ引受ケタル手形ノ買入高ノ總額ハ第一條第一項及第五條第一號第五號ニ規定スル受入金ノ十分ノ一ヲ限度トシ且該銀行ノ拂込資本金及準備金ノ四分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス但シ其ノ總額中國債其ノ他第十一條第一項第一號ニ掲クル有價證券ヲ以テ擔保セラレタル額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第九條第二項ノ規定ハ前項ノ受入金ノ額ニ付テ準用ス
- 第十五條 貯蓄銀行ナ其ノ財産ヲ以テ債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタルトキハ第一條第一項及第五條第一號第五號ノ規定ニ依ル契約ニ基ク銀行ノ債務ニ付各取締役ハ連滯シテ其ノ辨償ノ責ニ任ス
- 前項ノ責任ハ取締役ノ退任登記前ノ債務ニ付退任登記後二年間仍存續ス
- 第十六條 貯蓄銀行ハ左ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

臣ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 定款ヲ變更セムトスルトキ
 - 二 業務ノ種類又ハ方法ヲ變更セムトスルトキ
 - 三 代理店ヲ設置セムトスルトキ
- 主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ業務ノ種類若ハ方法ヲ制限シ又ハ其ノ變更ヲ命スルコトヲ得
- 第十七條 貯蓄銀行ノ解散ノ決議ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス
- 第十八條 主務大臣ノ免許ヲ受ケスシテ貯蓄銀行業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十九條 左ノ場合ニ於テハ貯蓄銀行ノ取締役監督役又ハ清算人ナ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス
- 一 第六條、第八條、第九條、第十一條乃至第十四條及第十六條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ
 - 二 第十六條第二項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ爲シタル命令ニ違反シタルトキ
- 第二十條 第四條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十一條

- 本法ニ別段ノ規定ヲ設ケサル事項ニ付テハ銀行條例ニ依ル
- 銀行條例第二條ノ三ノ規定ノ適用ニ付テハ第一條第一項第四號ノ規定ニ依ル給付金ノ債權者ハ之ヲ預金者ト看做ス
- 第二十二條 貯蓄銀行業ヲ營ム者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ營業稅額ノ二分ノ一ヲ免除ス
- 附則
- 第二十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十年 月 日勅令第 號ヲ以テ 同年 月 日ヨリ施行)
- 第二十四條 貯蓄銀行條例ハ之ヲ廢止ス
- 舊法ニ依リテ營業ノ認可ヲ受ケタル貯蓄銀行ニシテ本法施行ノ際現ニ在スルモノハ本法ニ依リテ免許ヲ受ケタル貯蓄銀行ト看做ス
- 舊法ニ依リテ爲シタル認可、處分其ノ他ノ行爲ハ本法中ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス
- 第二十五條 舊法第二項ノ貯蓄銀行ノ資本金ニ付テハ本法施行後五年ヲ限リ仍舊法ニ依ル
- 第二十六條 第二十四條第二項ノ貯蓄銀行ニシテ現ニ其ノ商號中ニ貯蓄銀行又ハ貯金銀行ナ

ル文字ヲ用ウルモノニ限リ第四條第一項ノ規定ニ拘ラス仍其ノ商號ヲ用ウルコトヲ得

第二十七條 第二十四條第二項ノ貯蓄銀行カ第九條ノ規定ニ依リテ爲スヘキ供託ニ付テハ本法施行後二年ヲ限リ仍舊法ニ依ル但シ其ノ期間内ニ於テ新ニ供託ヲ爲ス場合ニ於テハ第一條第一項ノ規定ニ依リ受入レタル金額ノ四分ノ一迄ハ國債ニ限ル

第二十八條 本法施行前貯蓄銀行ノ爲シタル契約ニシテ本法ニ依リ貯蓄銀行ノ爲スコトヲ得サル業務ニ屬スルモノニ付テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ノ屬スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ得

第二十九條 本法施行ノ際現ニ貯蓄銀行ノ所有スル公債、社債又ハ株式ニシテ第十一條第一項第一號ノ規定ニ依リ懸募、引受又ハ買入ヲ爲スコトヲ得サルモノハ本法施行後三年ヲ限リ仍之ヲ所有スルコトヲ得

本法施行ノ際現ニ貯蓄銀行ノ所有スル株式ニシテ第十二條ノ規定ニ依リ限度ヲ超ユルモノニ付テハ本法施行後三年内ニ之ヲ其ノ限度ニ適合セシムヘシ

第三十條 本法施行ノ際一銀行ニ對スル預ケ金及其ノ銀行ノ引受ケタル手形ノ買入高ノ總額カ第十四條第一項ノ規定ニ依リ限度ヲ超ユル場合ニ於テハ本法施行後二年内ニ之ヲ其ノ限度ニ適合セシムヘシ

第三十一條 貯蓄銀行ノ取締役ニシテ本法施行前退任シタル者ノ貯蓄銀行條例第三條ノ規定ニ依リ責任ニ付テハ仍舊法ニ依ル

第三十二條 本法施行前貯蓄銀行條例第一條ノ事業ヲ廢止シタル者ハ既ニ締結シタル契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ノ屬スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ貯蓄銀行條例第三條乃至第六條ノ二及第九條ノ二ノ規定ヲ準用ス

第三十三條 本法施行ノ際貯蓄銀行ニ非スシテ現ニ大正四年法律第二十三號附則第四項ノ規定ニ依リ本法第一條第一項第三號第四號ノ業務ヲ繼續スル者ニ關シテハ仍舊法ニ依ル

貯蓄銀行條例施行細則

(大正四年十月五日大藏省令第二十九號)

第一條 貯蓄銀行ノ事業ヲ營ムトスル者ノ提出スル認可申請書ニハ銀行條例施行細則第一條、第二條ノ規定ニ依ル書類ノ外貯蓄銀行條例第一條ノ事業ノ種類及方法ヲ記載シタル書面ヲ添付スヘシ

第二條 貯蓄銀行合併ノ認可申請書ニハ銀行條例施行細則第八條ノ規定ニ依ル書類ノ外合併ニ因リ存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社ノ營ム貯蓄銀行條例第一條ノ事業ノ種類及方法ヲ記載シタル書面ヲ添付スヘシ

第三條 第一條及第二條ノ書面ニハ左ノ分類ニ依リテ事業ノ種類ヲ記載スヘシ

一 普通貯蓄金(貯蓄銀行條例第一條第一項及第二項第一號ノ預金)

二 摺置貯蓄金(貯蓄銀行條例第一條第二項第二號ノ預金)

三 定期積金(貯蓄銀行條例第一條第二項第三號ノ受入金)

第四條 第一條及第二條ノ書面ニハ事業ノ方法トシテ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 拂戻ノ豫告期間ニ關スルコト

二 貯蓄切手ノ發行ニ關スルコト

三 貯蓄者又ハ積金者ニ對スル利益ノ分配又ハ特別利益ノ提供ニ關スルコト

四 其ノ他重要ナル事項

前項ノ外摺置貯蓄金又ハ定期積金ニ在リテハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 預ケ入又ハ拂込ノ時期、回数及金額

二 拂戻又ハ給付ノ時期、回数及金額

三 貯蓄者又ハ積金者ニ對スル貸付ノ特約ニ關スルコト

四 契約ノ不履行、契約ノ解除又ハ契約ニ基ク權利義務讓渡ノ場合ニ關スルコト

五 利息支拂備金又ハ給付補填備金ニ關スルコト

六 勧誘又ハ集金ノ方法及經費ニ關スルコト

第五條 貯蓄銀行條例第四條ノ貯蓄預金拂戻擔保證券ハ明治三十二年大藏省令第六號供託物取扱規程第三條ノ手續ニ依リ之ヲ本店所在地ノ供託所ニ預ケ入ルヘシ

第六條 貯蓄預金拂戻擔保證券ノ擔保價格ハ每半年末日ノ時價ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條 貯蓄銀行ハ貯蓄預金拂戻擔保證券供託ノ手續ヲ了シタルトキハ供託受領證ノ謄本ヲ

添附シ毎半年末日ヨリ一月内ニ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ届出ツヘシ
 臨時ニ供託ヲ爲シタルトキハ其ノ都度直ニ前項ニ準シ届出ヲ爲スヘシ
第八條 供託證券ノ全部又ハ一部ノ返戻ヲ要スルトキハ其ノ事由ヲ具シ返戻ヲ求メムトスル證券ノ種類、記號、番號、券面ノ金額、枚數及擔保金額ヲ記載シテ地方長官ニ申請シ其ノ承認ノ證憑ヲ提出シ供託物取扱規程第十條ノ手續ニ依リ供託所ニ請求スヘシ
 地方長官ハ前項ノ承認ヲ與ヘタルトキハ直ニ書類ノ謄本ヲ添附シテ大藏大臣ニ報告スヘシ
第九條 大藏大臣ハ社債券又ハ株券等ニシテ貯蓄預金ノ擔保ニ供スヘカラサルモノト認ムルモノアルトキハ其ノ供託ヲ制止スルコトアルヘシ
第十條 供託證券ニハ其ノ銀行ノ所有ニ屬スルコトヲ證明スヘキ書類ヲ添附スヘシ
第十一條 貯蓄銀行力定款ヲ變更セムトスルトキハ認可申請書ニ理由書及株主總會ノ決議錄ヲ添附シテ大藏大臣ニ提出スヘシ
第十二條 貯蓄銀行力貯蓄銀行條例第一條ノ事

業ノ種類及方法ヲ變更セムトスルトキハ認可申請書ニ理由書ヲ添附シテ大藏大臣ニ提出スヘシ
第十三條 貯蓄銀行ニ於テ代理店ヲ設置セムトスルトキハ認可申請書ニ代理契約書ヲ添附シテ大藏大臣ニ提出スヘシ
 代理店ノ所在地若ハ權限ノ變更又ハ代理契約ノ消滅若ハ更新アリタルトキハ直ニ大藏大臣ニ届出ツヘシ
第十四條 貯蓄銀行ノ營業報告書ハ所屬雜形ニ準シ調製スヘシ
第十五條 第三條及第四條ノ規定ハ貯蓄銀行條例附則第二項ノ規定ニ依リ提出スル貯蓄銀行條例第一條ノ事業ノ種類及方法ノ届書ニ付之ヲ準用ス
第十六條 貯蓄銀行條例附則第四項ニ該當スル者ハ本則施行後一月内ニ其ノ事業狀況ヲ大藏大臣ニ届出ツヘシ
 前項ノ届書ニハ商號又ハ營業ヲ表示スル名稱、營業所、資本金額、拂込資本金額、據置貯金及定期積金現在高、其ノ兼營スル他業ノ種類、最終ノ貸借對照表及會社ノ取締役、監査役又

ル取扱手續

(明治二十六年十一月七日)
 (大藏省訓令第三十五號)

銀行並ニ貯蓄銀行出張所代理店ニ關スル取扱手續左ノ通心得ヘシ
 一 銀行又ハ貯蓄銀行ニ於テ出張所其他何等ノ名義ヲ用フルニ拘ハラズ一定ノ場所ヲ設ケ銀行又ハ貯蓄銀行事業ノ全部若クハ其一部ヲ營ムトキハ其場所ヲ支店ト見做シ銀行條例施行細則ニ依リ其手續ヲ爲サシムヘシ
 一 貯蓄銀行ニ於テ代理店ヲ置クトキハ契約書ヲ添ヘ届出ノ手續ヲ爲サシムヘシ

日本銀行條例

(明治十五年六月第三十二號布告)

第一條 日本銀行ハ有限責任トシ本行ノ負債辨償ノ爲メ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止マルモノトス
第二條 日本銀行ハ本店ヲ東京ニ置クヘシ各府縣ノ首邑其他要用ナル地方ニ支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ

銀行並貯蓄銀行出張所代理店ニ關ス

ハ業務執行社員ノ氏名ヲ記載シ定款、營業規程ヲ添附スヘシ
第十七條 貯蓄銀行條例附則第四項ニ該當スル者ノ提出スル營業報告書ハ銀行條例施行細則第十五條及本則第十四條ノ雜形ニ依ルコトヲ要セス
第十八條 本則ニ定メタル届出ヲ怠リタルトキハ營業主、會社ノ業務執行社員、取締役、監査役又ハ外國會社ノ代表者ヲ料料ニ處ス
第十九條 本則ニ別段ノ定アルモノヲ除クノ外銀行條例施行細則ノ規定ヲ適用ス
 附則
第二十條 本則ハ大正五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
第二十一條 明治二十八年大藏省令第一號貯蓄銀行條例施行細則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
 (雜形略ス)

締約スルコトヲ得但支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コルレスボンデンス」ヲ締約スルトキハ其事由チ「大藏卿」ニ具狀シテ其許可ヲ受クヘシ又「大藏卿」ニ於テ支店出張所ヲ要ムナリトスル時ハ銀行ニ命ジテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第三條 日本銀行ノ營業年限ハ開業ノ日ヨリ滿三十年トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業延期ヲ請願スルコトヲ得

第四條 日本銀行ノ資本金ハ壹千萬圓ト定メ之ヲ五萬株ニ分チ一株貳百圓トス但株主總會ノ決議ニ依リ資本金ノ增加ヲ請願スルコトヲ得

第五條 日本銀行ノ株券ハ總テ記名券トナシ日本ノ外賣買讓與スルコトヲ許サス

第六條 日本銀行ノ株主トナラントスルモノハ「大藏卿」ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 資本金總額五分ノ一即チ貳百萬圓ノ入金アル時ハ營業ヲ開始スルヲ得ヘシ但資本金募集ノ手續ハ定款ヲ以テ定ムル者トス

第八條 營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本金現入金額ノ内幾分ヲ減少シタル時ハ其事由チ審明シ資本金殘額ヨリ其闕額ニ充ル迄ノ金額ヲ追募スヘシ

第九條 事業ノ伸張ニ由リ資本金ノ增加ヲ要スル時ハ之ヲ資本金殘額ヨリ追募スヘシ

第十條 純益金總額ヨリ株主割賦金ヲ引去リ其殘額ヨリ少クトモ十分ノ一ヲ左ノ目的ヲ以テ積立金ト爲ス可シ

第一 資本金ノ損失ヲ補フ

第二 割賦金ノ不足ヲ補フ

第十一條 日本銀行ノ營業ハ左ノ如シ

第一 政府發行ノ手形爲換手形其他商業手形等ノ割引ヲ爲シ又ハ買入ヲ爲ス事

第二 地金銀ノ賣買ヲ爲ス事

第三 金銀貨或ハ地金銀ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第四 豫テ取引約定アル諸會社銀行又ハ商人ノ爲メニ手形金ノ取立ヲ爲ス事

第五 諸預リ勘定ヲ爲シ又ハ金銀貸費金屬並諸證券類ノ保護預リヲ爲ス事

第六 公債證書政府發行ノ手形其他政府ノ保證ニ係ル各種ノ證券ヲ抵當トシテ當座勘定貸又ハ定期貸ヲ爲ス事但其金額及利子ノ割合ハ總裁副總裁理事監事ニ於

テ時々決議シ「大藏卿」ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條 日本銀行ハ第十一條ニ記載スル事業ノ外左ニ掲グル件々ハ勿論其他諸般ノ營業ニ關涉スルコトヲ得ス

第一 不動産及ヒ銀行又ハ諸會社ノ株券ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第二 本銀行ノ株券ニ對シテ貸金ヲ爲シ又ハ此株券ノ買戻ヲ爲ス事

第三 諸工業會社ノ株主タルハ勿論直接間接ヲ問ハス工業ニ關係スル事

第四 本支店出張所ヲ開設スル爲メ必要ナル者ノ外一切他ノ不動産ノ所有主タル事

第十三條 政府ノ都合ニ由リ日本銀行ヲシテ國庫金ノ取扱ヒニ從事セシムヘシ

第十四條 日本銀行ハ兌換銀行券ヲ發行スルノ權ヲ有ス但此發行券ヲ發行セシムル時ハ別段ノ規則ヲ制定シ頒布スル者トス

第十五條 日本銀行ハ諸手形及切手ヲ發行スルヲ得ヘシ

第十六條 日本銀行ハ公債證書ヲ買入又ハ之ヲ賣拂フコトヲ得ヘシ但此場合ニ於テハ「大藏卿」ノ許可ヲ受クヘシ

卿」ノ許可ヲ受クヘキモノトス

第十七條 日本銀行ハ總裁一人副總裁一人理事四人ヲ以テ綜理スル者トス此外ニ監事三人乃至五人ヲ置クヘシ

第十八條 總裁副總裁ハ任期五箇年トシ總裁ハ勅任副總裁ハ奏任トス但任期中ハ他ノ官職ヲ兼任スルヲ得ス

第十九條 理事ハ株主總會ニ於テ選舉シ大藏大臣之ヲ命シ監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選舉ス（明治二十三年法律第六十一號ヲ以テ本項ヲ改正シ次項以下各項ヲ追加ス但此法律ハ商法實施ノ日ヨリ施行スヘキコトトセリ）

理事ノ任期ハ四年トシ監事ノ任期ハ三年トス理事監事ハ任期中他ノ銀行又ハ會社等ノ役員タルヲ許サス

第二十條 總裁ハ每半期ニ通常株主總會ヲ召集ス（同上）

總裁ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲メ必要ト認ムルトキハ臨時株主總會ヲ召集ス

總裁ハ監事ノ全員又ハ株主總會ノ會員タル者五十名以上ヨリ會議ノ目的ヲ示シテ請求スルトキハ臨時株主總會ヲ召集セサルコトヲ得ス

ノ日ヨリ三箇月以前ニ之ヲ布告スヘシ

●横濱正金銀行條例

(明治二十七年七月勅令第二十九號)

株主總會ノ會員ハ開會ノ六十日前ヨリ引續キ
 十株以上ヲ所有スル者ニ限ル
 株主總會ニ於テハ會員ニ代理ヲ委託スルノ外
 他人ヲ以テ代理人トナスコトヲ得ス
 株主總會ノ會員ハ株數十箇ニ付投票一箇ノ權
 利ヲ有ス十一株以上ハ五十株毎ニ一箇ノ投票
 權ヲ増加ス但他人ノ代理委託ヲ受クル者ハ其
 代理ニ屬スル權利ハ十箇以上ヲ超ユルコトヲ
 得ス

第二十一條 「大藏卿」ハ特ニ監理官ヲ日本銀行
 ニ派出シテ諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ

第二十二條 日本銀行ハ本店出張所及約定店
 等ノ營業上一般ノ景況ヲ調査シ少クモ毎月一
 回之ヲ「大藏卿」ヘ報告ス可シ

第二十三條 日本銀行ハ本條例ノ趣旨ニ基キ銀
 行定款ヲ作り政府ノ許可ヲ受クヘシ但定款ヲ
 改正シ又ハ定款外ノ事件ヲ處スル時ハ株主總
 會ニ於テ決議シ政府ノ許可ヲ受ク可シ

第二十四條 政府ハ日本銀行諸般ノ業務ヲ監督
 シ其營業上條例定款ニ背戾スル事ハ勿論政府
 ニ於テ不利ト認ル事件ハ之ヲ制止スヘシ

第二十五條 此條例ヲ改正増削スル時ハ其施行

第一條 横濱正金銀行ハ有限責任ニシテ其負債
 ニ對シテ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止マ
 ルモノトス

第二條 横濱正金銀行ハ本店ヲ横濱ニ設置ス又
 内外國ニ於テ貿易上要用ナル地ニ支店又ハ出
 張所ヲ設置シ又他ノ銀行ト「コレレスボンデ
 ンス」ヲ締約スルコトヲ得但シ支店出張所ヲ
 設置若クハ廢止シ又ハ外國銀行ト「コレレス
 ボンデンス」ヲ締約若クハ解約スルトキハ其
 事由ヲ大藏大臣ニ具狀シテ許可ヲ受クヘシ

第三條 横濱正金銀行ノ營業年限ハ開業ノ日即
 チ明治十三年二月十八日ヨリ滿二十箇年トス
 但株主總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願ス
 ルコトヲ得

第四條 横濱正金銀行ノ資本金ハ六百萬圓ト定
 メ之ヲ六萬株ニ分チ一株ヲ百圓トス但株主總
 會ノ決議ニ依リ資本金ノ増減ヲ請願スルコト
 ヲ得

第五條 横濱正金銀行ノ株式ハ日本人ノ外賣買
 讓與スルコトヲ許サス

第六條 横濱正金銀行ノ株券ハ記名券ニシテ定
 款ニ從ヒ賣買讓與スルコトヲ得

第七條 横濱正金銀行ノ營業ハ左ノ如シ
 第一 外國ノ爲替及荷爲替
 第二 内國ノ爲替及荷爲替
 第三 貸付
 第四 諸預金及保護預
 第五 爲替手形約束手形其他諸證券ノ割引又
 ハ其代金取立
 第六 貨幣ノ交換

第八條 横濱正金銀行ハ營業ノ都合ニ依リ公債
 證書地金銀又ハ外國貨幣ヲ買入レ又ハ賣拂フ
 コトヲ得

第九條 横濱正金銀行ハ政府ノ命令ニ依リ外國
 ニ關スル公債及官金ノ取扱ヲ爲スコトアルヘ
 シ

第十條 横濱正金銀行ハ第七條第八條第九條ニ
 記載スル事業ノ外他ノ營業ヲ爲スコトヲ許サ
 ス

第十一條 横濱正金銀行ハ左ノ場合ヲ除クノ外

不動産株券其他ノ物件ヲ買取り又ハ引受クル
 コトヲ得ス

第一 銀行營業ノ爲メ地所家屋ノ必要アルト
 キ

第二 貸金返済ノ爲メ負債者ヨリ之ヲ引渡シ
 又ハ賣却スルトキ

第三 貸金ノ抵當ニシテ裁判上公賣ニ付シタ
 ルトキ

第十二條 横濱正金銀行ハ本行ノ株券ヲ抵當ニ
 取り又ハ之ヲ買戻スヘカラス但負債者其辨償
 ナ怠リテ他ニ相當ノ抵當ナク若クハ返済ノ道
 ナキ場合ニ於テ之ヲ抵當ニ取り又ハ引受クル
 ハ此限ニアラス

第十三條 第十一條第二項第三項及第十二條ノ
 場合ニ於テ不動産株券其他ノ物件ヲ引受ケシ
 トキハ必ス十箇月以内ニ之ヲ賣却スヘシ但賣
 却代價不相當ト認メタルトキハ其事實ヲ大藏
 大臣ニ具申シ延期ヲ請フコトヲ得

第十四條 横濱正金銀行ハ權利者ノ請求次第ニ
 支拂フヘキ諸預金ニ對シ其四分ノ一以上ニ當
 ル準備金ニ備ヘ置クヘシ

第十五條 横濱正金銀行取締役ハ五人以上トシ

其任期一箇年トシ株主總會ニ於テ其人員ヲ定メ五十株以上ヲ所有スル株主中ニ就キ之ヲ選舉シ大藏大臣ノ認許ヲ受クヘシ其ノ滿期ニ當リ復選セラルル者モ亦同シ(明治二十二年勅令第十號ヲ以テ本條改正)

第十六條 頭取ハ取締役ニ於テ之ヲ互選シ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ但大藏大臣ニ於テ必要ト思考スルトキハ特ニ日本銀行副總裁ヲシテ橫濱正金銀行頭取ヲ兼ネシメ又ハ橫濱正金銀行頭取ヲシテ日本銀行理事ヲ兼ネシムルコトアルヘシ

銀行事務ノ都合ニ依リ取締役ニ於テ頭取一人ヲ互選スルコトヲ得但其職權ハ頭取事故アルトキ之ヲ代理スルニ止マルモノトス

頭取取締役ノ職權及責任ハ定款ヲ以テ定ムヘシ

第十七條 橫濱正金銀行ハ毎年二回株主總會ヲ開キ定款ニ定メタル事項ヲ決定スヘシ又臨時ノ事件ヲ議スル爲メ何時ニテモ臨時總會ヲ開クコトヲ得

株主總會ニ出席スル者ハ會期六十日以前ヨリ株主タル者ニ限ルヘシ

第十八條 毎半季利益金ヲ配當スルトキハ豫メ其割合ヲ大藏大臣ニ具申シ認可ヲ受クヘシ

第十九條 毎半季純益金總額ノ十分ノ一以上ヲ積立テ左ノ目的ニ供スヘシ

第一 資本金ノ損失ヲ補フコト

第二 配當金ノ不足ヲ補フコト

第二十條 貸金返済ノ期限ヲ過キ到底損失ニ歸スヘキモノト認ムルトキハ其損失ト見積リタル金額ニ對シテ準備金ヲ積立ツヘシ

第二十一條 橫濱正金銀行營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本金ノ半額以上ヲ減少シタルトキ又ハ此條例ニ背戻シタル所爲アリテ大藏大臣ニ於テ必要ト思考スルトキハ其營業ヲ停止シ又ハ解散ヲ命スルコトヲ得

又株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ許可ヲ受クルニ於テハ任意ノ解散ヲ爲スコトヲ得但此總會ニ於テハ株主總員二分ノ一以上ニシテ總株金二分ノ一以上ニ當ル株主出席シ其議決權ノ三分ノ二以上ニ依テ決議スルモノトス

第二十二條 橫濱正金銀行ニ於テ條例定款ニ背戻スル所爲アルトキ又ハ大藏大臣ニ於テ危險ナル所爲ト認ムル事件アルトキハ大藏大臣ハ

(明治二十九年四月法律第八十二號)

第一章 總則

第一條 日本勸業銀行ハ株式會社トシ其ノ本店ヲ東京ニ置ク

第二條 日本勸業銀行ノ資本金ハ壹千萬圓トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ經テ資本金ヲ増加スルコトヲ得

第三條 日本勸業銀行ノ各株式ノ金額ハ五十圓トス

第四條 日本勸業銀行ノ存立時期ハ設立免許ノ日ヨリ百箇年トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ經テ存立時期ヲ延長スルコトヲ得

第二章 重役

第五條 日本勸業銀行ニ總裁副總裁各一人理事監查役各三人以上ヲ置ク

前項ニ規定スルモノノ外農工銀行ノ存在セサル府縣毎ニ地方顧問二人以上ヲ置クコトヲ得

第六條 總裁ハ日本勸業銀行ヲ代表シ其ノ事務ヲ總理ス

副總裁ハ總裁事故アルトキ其職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキ其職務ヲ行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ日本勸業銀行ノ業務ヲ分掌シ又ハ之ニ參與ス

之ヲ制止シ又ハ取締役ノ改選ヲ命スルコトヲ得(同上)

第二十三條 大藏大臣ハ特ニ監理官ヲ派遣シテ

橫濱正金銀行諸般ノ事務ヲ監視セシム(同上)

第二十四條 橫濱正金銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其營業上ニ係ル計算報告書ヲ差出スヘシ

第二十五條 橫濱正金銀行本店及出張所ニ於テハ重要ノ文書ニ其本店若クハ出張所ノ印ヲ押捺スヘシ但横文ヲ以テ發スル文書ニハ之ヲ押捺スルコトヲ要セス

第二十六條 橫濱正金銀行ハ明治二十年七月十日ヨリ此條例ヲ遵奉シ株主總會ノ決議ヲ以テ更ニ定款ヲ制定シ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ但定款ノ改正増補ヲ要スルトキハ亦本條ニ準ス

第二十七條 橫濱正金銀行ノ頭取取締役其他ノ役員ニシテ此條例ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 此條例ノ改正ヲ要スルコトアルトキハ三箇月以前ニ之ヲ公布スヘシ

日本勸業銀行法

監査役ハ日本勸業銀行ノ業務ヲ監査ス
地方顧問ハ定款ノ定ムル所ニ依リ當該府縣内
ニ於ケル日本勸業銀行ノ業務ニ關シ總裁ノ諮
問ニ應ス

第七條 總裁副總裁ハ四百株以上ヲ所有スル株
主中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ五箇年トス
但シ其ノ任期滿限ノ後再任ヲ命スルコトヲ得
理事ハ二百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主
總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其中ヨ
リ之ヲ命シ任期ヲ五箇年トス但シ其任期滿限
ノ後本條ノ手續ニ依リ再任ヲ命スルコトヲ得
監査役ハ百二十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ
株主總會ニ於テ之ヲ選定シ其ノ任期ヲ三箇年
トス但シ其ノ任期滿限ノ後再選スルコトヲ得
地方顧問ハ當該府縣内ニ住所ヲ有シ百株以上
ヲ所有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期
ヲ三箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後再任ヲ命
スルコトヲ得

第八條 總裁副總裁及日本勸業銀行ノ業務ヲ分
掌スル理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ
職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス但シ大藏
大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

内ノ定期償還貸付ヲ爲スコトヲ得但シ水産業
ノ爲貸付ヲ爲ス場合ニ於テハ漁業權ヲ抵當ト
ナスコトヲ得

日本勸業銀行ハ臺灣ニ於テ貸付ヲ爲ス場合ニ
ハ業主權ヲ擔保ニ徵スルコトヲ得此ノ場合ニ
於テハ本法中抵當ニ關スル規定ヲ準用ス
輕便鐵道財團、軌道財團ハ本法ノ適用ニ付キ
テハ之ヲ不動産ト看做ス（追加大正三年三月
法律第二十四號）

第十四條ノ二 工場財團及工場ニ屬スル敷地又
ハ建物ヲ除クノ外市制施行地及勸令ヲ以テ指
定スル市街地ニ存在スル宅地又ハ建物ヲ抵當
トスル貸付金額ハ拂込資本金額及勸業銀行債
券發行額ノ二分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第十五條 日本勸業銀行ハ府縣郡市町村其ノ他
ノ法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ貸付ヲ爲ス
場合ニ於テ抵當ヲ徵セサルコトヲ得
耕地整理法ニ依リ耕地整理ヲ施行スル場合ニ
於テ耕地整理組合若ハ其ノ聯合會ヨリ借用ヲ
申出タルトキ又ハ共同施行者力連帶責任ヲ以
テ借用ヲ申出タルトキハ抵當ヲ徵セスシテ定
期償還貸付又ハ年賦償還貸付ヲ爲ス下ヲ得

七百五十四

第三章 株主總會

第九條 通常株主總會ハ毎年二回定款ニ定メ
ル時期ニ於テ總裁之ヲ召集ス

第十條 臨時株主總會ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲
メ何時ニテモ總裁之ヲ召集スルコトヲ得

第十一條 監査役又ハ總株金ノ五分ノ一以上ニ
當ル株主ハ會議ノ目的ヲ示シテ臨時株主總會
ノ召集ヲ總裁ニ請求スルコトヲ得

總裁前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ臨時株主總
會ヲ召集スヘシ

第十二條 株主總會ニ於テハ株主ハ議決權ヲ有
スル株主ノ外代理ヲ委託スルコトヲ得ス但シ
法定代理人ハ此ノ限ニ在ラス

日本勸業銀行ノ役員及使用人ハ株主總會ニ於
テ株主ノ代理人タルコトヲ得ス

第十三條 削除

第十四條 營業

第十五條 日本勸業銀行ハ五十箇年以内ニ於テ
年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トシテ貸
付ヲ爲スモノトス

日本勸業銀行ハ拂込資本金及積立金總高ニ相
當スル金額ヲ限リ不動産ヲ抵當トシ五箇年以

產業組合、漁業組合、森林組合、畜産組合又
ハ其ノ聯合會ニハ抵當ヲ徵セスシテ定期償還
貸付若ハ年賦償還貸付ヲ爲スコトヲ得

農工銀行ノ存在セサル府縣内ニ於テハ十人以
上ノ農業者、工業者又ハ漁業者申合セ連帶責
任ヲ以テ借用ヲ申出タルトキハ其ノ信用ノ確
實ナルモノニ限リ五箇年以内ニ於テ定期償還
ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコトヲ得

第十五條ノ二 日本勸業銀行ハ割増金附勸業債
券ノ發行ニ依リテ得タル資金ハ田、畑、墾田、
山林、牧場、養魚池又ハ漁業權ヲ抵當トスル
貸付、第十五條各項ノ貸付及農工債券ノ引受
ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ大藏大臣ノ
認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 日本勸業銀行ニ於テ抵當ヲ徵スル
キハ總テ第一抵當ナルコトヲ要ス但シ舊債ア
ル場合ニ於テ日本勸業銀行ヨリ借入スル新債
ヲ以テ舊債ヲ償還スル效果ニ依リ新債ノ第一
抵當トナルコトヲ得ヘキトキ又ハ先順位ノ抵
當權者カ日本勸業銀行ニシテ舊貸付金額及新
貸付金額カ第十八條ノ制限ヲ超エサルトキハ
此ノ限ニ在ラス

日本勸業銀行ニ於テ漁業權ヲ抵當トシテ貸付スル場合ニハ有價證券又ハ不動産ヲ添擔保ニ徴スルコトヲ得

第十七條 日本勸業銀行ニ於テ抵當トシテ徴スル土地ハ永続スヘキ確實ナル收益ノ見込アルモノニ限ル

日本勸業銀行ニ於テ抵當トシテ徴スル建物ハ保險付ノモノニ限ル但シ抵當物ノ外ニ貸付金高二倍以上ノ價格ヲ有スル動産又ハ不動産ヲ添ヘ抵當ト爲ス場合ニ於テハ保險ニ付セサルコトヲ得

第十八條 不動産ヲ抵當トシテ貸付ケル金額ハ日本勸業銀行ニ於テ鑑定シタル價格ノ三分ノ二以内トス漁業權ヲ抵當トスルトキ亦同シ

第十九條 年賦金ハ元金ト利子ト併セテ之ヲ計算シ各年ヲ通シテ一定平等ノ償還額ヲ定ムヘシ

前項ノ償還額ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但シ貸付金ノ一部償還ノ場合ニ於テ其ノ額ヲ更定スルハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 削除
第二十一條 貸付金ノ年賦償還ニ付キテハ五箇

年以内ニ於テ据置年限ヲ定ムヘシ但シ其ノ年限間ノ利子ハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ据置年限ハ相手方ノ希望ニ因リ之ヲ定メサルコトヲ得

第二十一條ノ二 年賦償還期限前天災事變其ノ他避クヘカラサル事故アリタルトキハ五箇年以内ニ於テ更ニ据置年限ヲ定ムルコトヲ得

第二十二條 債務者年賦金、定期償還金又ハ利子ノ拂込ヲ遅延シタルトキハ拂込期日ノ翌日ヨリ其金額ニ對シ利子ヲ仕拂フノ義務ヲ負フ

第二十三條 年賦償還ノ方法ヲ以テ借入ヲ爲シタル債務者ハ償還期限前ニ借入金ノ全部若ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ日本勸業銀行ハ定款ニ於テ定ムル所ノ率ニ依リ相當ノ手数料ヲ要求スルコトヲ得

第二十四條 債務者ハ借入金ノ五分ノ一以上ヲ償還シタルトキハ其ノ割合ニ應シ抵當物一部ノ解除ヲ要求スルコトヲ得其ノ殘額ニ對シテモ亦同シ

第二十五條 日本勸業銀行ハ年賦金ノ拂込ヲ遅延スル債務者ニ對シ償還期限前ト雖貸付金全

部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十六條 日本勸業銀行ハ抵當物ノ價格減少シ貸付金償還殘額ニ對シ第十八條ノ割合ニ不足ヲ生シタルトキハ増抵當ヲ要求シ若ハ其不足ニ相當スル貸付金額ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

債務者前項ノ要求ニ應セザルトキハ日本勸業銀行ハ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十七條 抵當不動産ノ全部若ハ一部カ土地收用法ニ依リ收用セラレル場合ニ於テ日本勸業銀行ハ償還期限前ト雖貸付金ノ償還ヲ要求スルコトヲ得但シ債務者ニ於テ收用補償金ヲ供託シ又ハ相當ノ不動産ヲ以テ増抵當トスルトキハ此ノ限ニアラス

其ノ收用一部ニ止マルトキハ償還ノ要求モ其ノ割合ニ應スヘキモノトス

第二十八條 無抵當ニテ借入ヲ爲シタル府縣郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ於テ年賦金、定期償還金又ハ利子ノ拂込期日ヲ過キ之ヲ拂込マサルトキ又ハ期限前ノ償還要求ニ對シ其拂込ヲ爲サザルトキハ日本勸業

銀行ハ監督官廳ニ其ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ日本勸業銀行ハ府縣ニ對シテハ内務大臣ニ郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ對シテハ第一次監督官廳ニ其ノ請求ヲ爲スヘシ

監督官廳請求ヲ受ケタルトキハ府縣郡市町村其他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ命令シテ延滞金及第二十二條ノ利子ヲ拂込マシムヘシ

第二十九條 日本勸業銀行ハ農工債券、北海道拓殖債券又ハ朝鮮殖産銀行ノ發行スル債券ヲ引受クルコトヲ得

第三十條 日本勸業銀行ハ農工債券、北海道拓殖債券又ハ朝鮮殖産銀行ノ發行スル債券ヲ引受ケムトスル場合ニ於テ農工銀行、北海道拓殖銀行又ハ朝鮮殖産銀行ノ商務及財産ノ實況ヲ調査スルコトヲ得

第三十一條ノ一 日本勸業銀行ハ農工銀行ノ年賦償還貸付金ノ債權及其ノ擔保タル抵當權ヲ擔保トシテ年賦償還ノ方法ニ依リ貸付金ヲ爲スコトヲ得

第三十一條ノ二 日本勸業銀行ハ預リ金ヲ爲シ